

NETGEAR®

ユーザーマニュアル

OrbiメッシュWiFiシステム

2019年9月
202-11731-06

サポート

NETGEAR製品をお選びいただきありがとうございます。NETGEARサポートサイト (<https://www.jp.netgear.com/support/>) より製品をご登録いただくと、本製品のハードウェア保証およびテクニカルサポートサービスの有効化、NETGEARコミュニティへの参加などが可能になります。

製品保証を有効にするには、製品ご購入後30日以内のオンライン登録が必要になります。詳細は、次のURLをご参照ください：<https://jp.netgear.com/supportinfo/>

商標

NETGEAR, Inc.、NETGEAR、およびNETGEARのロゴはNETGEARの商標です。その他の商標またはロゴは参照目的のためにのみ使用されています。

コンプライアンス

EU適合宣言書などの法規制遵守情報については、次のURLをご参照ください：<https://www.jp.netgear.com/about/regulatory/>

本製品は屋外でご使用になれません。屋外にあるデバイスを本製品に接続する場合は、安全および保証に関する情報をご確認ください：<https://kb.netgear.com/ja/000057103/>

目次

第1章 概要

LEDの動作.....	9
Orbi WiFiシステムのLED.....	9
OrbiサテライトのLED.....	10
ルーターの接続.....	11
サテライトを設置する.....	12
Orbiサテライトの同期.....	12
Orbi WiFiシステムからのサテライトの同期.....	12
追加サテライトの同期.....	13
ルーターにログインしてネットワークにサテライトを追加する.....	14
LANケーブルを使用した有線バックホール接続の設定.....	15
NETGEAR Orbiアプリをダウンロードする.....	17

第2章 ネットワークへの接続とルーターへのアクセス

ネットワークへの接続.....	19
有線接続.....	19
無線LAN接続.....	19
WPSプッシュボタン方式を使用した無線LAN接続.....	19
ラベル.....	20
ログインのタイプ.....	21
Webブラウザからルーター管理者ページへのアクセス.....	21
ルーターのセットアップ.....	22
Orbiルーター管理者ページへのログイン.....	23
言語の変更.....	24

第3章 インターネット設定

セットアップウィザードの使用.....	26
インターネット接続の手動設定.....	26
ログインを必要としないインターネット接続の指定.....	26
ログインを必要とするインターネット接続の指定.....	28
IPv6インターネット接続の指定.....	30
IPv6アドレスの入力要件.....	32
自動検出を使用したIPv6インターネット接続.....	32
IPv6インターネット接続を行うため自動設定を使用する.....	33
IPv6 6rdトンネルインターネット接続の設定.....	35

IPv6 6to4トンネルインターネット接続の設定.....	37
IPv6 パススルーインターネット接続の設定.....	38
IPv6 固定インターネット接続の設定.....	39
IPv6 DHCPインターネット接続の設定.....	40
IPv6 PPPoEインターネット接続の設定.....	42
MTUサイズの変更.....	44
第4章 インターネットアクセスの管理	
Circle with Disneyを有効にする.....	47
OrbiルーターのWeb管理者ページからCircle with Disneyを有効にする.....	48
OrbiアプリでCircle with Disneyを有効にする.....	49
Orbiアプリを使用したNETGEAR Armorの有効化と管理.....	49
ネットワークへのアクセスの許可または禁止.....	50
キーワードを使用したインターネットサイトのブロック.....	51
インターネットサイトをブロックするために使用するキーワードの削除.....	53
信頼できるPCでのブロックの回避.....	53
インターネットからのサービスのブロック.....	54
ネットワークのアクセス制御リストの管理.....	56
ブロックのスケジュール設定.....	57
セキュリティイベントのメール通知の設定.....	58
第5章 パフォーマンスの最適化	
WiFiマルチメディアQoSを有効または無効にする.....	61
UPnP (Universal Plug N Play) によるネットワーク接続の改善..	62
デ이지チェーン構成を有効または無効にする.....	63
インプリシットビームフォーミングの有効化または無効化.....	64
MU-MIMOの有効化または無効化.....	65
高速ローミングを有効または無効にする.....	66
第6章 ネットワーク設定の指定	
WAN設定の表示または変更.....	68
ダイナミックDNS.....	69
新しいダイナミックDNSアカウントの設定.....	69
すでに作成したDNSアカウントの指定.....	70
ダイナミックDNS設定の変更.....	71
デフォルトDMZサーバーの設定.....	72
ルーター名の変更.....	73
LAN TCP/IP設定の変更.....	74
ルーターをDHCPサーバーとして使用する.....	75
ルーターのDHCPサーバー機能の無効化.....	77
予約LAN IPアドレスの管理.....	77
IPアドレスの予約.....	78

予約IPアドレスの編集.....	79
予約IPアドレスエントリの削除.....	79
カスタムの静的ルート.....	80
静的ルートの設定.....	81
静的ルートの編集.....	82
静的ルートの削除.....	82
基本無線LAN設定.....	83
無線LANのパスワードまたはセキュリティレベルの変更.....	85
ゲスト無線LANネットワークの設定.....	86
高度なWiFi設定の表示または変更.....	87
無線LANアクセスポイントとしてのルーターの使用.....	88
ルーターモードの設定.....	89
新しいバックホールパスワードの生成.....	90
ポートグループまたはVLANタググループのブリッジの設定.....	90
ポートグループのブリッジの設定.....	91
VLANタググループのブリッジの設定.....	92
British Telecom IGMPプロキシサポートを有効にする.....	93
第7章 ネットワークの管理	
ルーターおよびサテライトのファームウェアのアップデート.....	96
ファームウェアのアップデートを確認する.....	96
ファームウェアの手動アップデート.....	97
サテライトファームウェアの手動アップデート.....	97
ルーターのファームウェアを手動でアップデートする.....	98
管理者パスワードの変更.....	99
パスワード復元の設定.....	100
管理者パスワードの復元.....	100
ルーターステータスの表示.....	101
インターネットポート統計の表示.....	102
インターネット接続ステータスの確認.....	103
サテライトステータスの表示.....	104
ルーターアクティビティのログの表示と管理.....	104
ネットワークに接続されているデバイスの表示またはデバイス情報の編集.....	105
ネットワークに接続されているデバイスの表示.....	105
[接続デバイス] ページでのデバイス情報の編集.....	106
ネットワークに接続されているサテライトの表示またはサテライト情報の編集.....	107
ネットワークに接続されているサテライトの表示.....	107
[接続デバイス] ページに表示されるサテライト情報の編集.....	108
Orbi アウトドアサテライトのLED照明の管理.....	109
Syncボタンを有効にする.....	109
サテライトのLED照明のオン/オフ.....	110
LED照明の明るさの設定.....	111

LED照明をオンにする時間のスケジュール.....	112
トラフィックメーター.....	113
ルーター設定ファイルの管理.....	115
設定のバックアップ.....	115
現在の設定の消去.....	115
設定の復元.....	116
リモート管理の設定.....	117
リモートアクセスの使用.....	118
Orbiアプリを使用したルーターへのリモートアクセス.....	119
第8章 ポートのインターネットトラフィックルールのカスタマイズ	
ローカルサーバーへのポート転送.....	121
ローカルサーバーへのポート転送の設定.....	121
ポート転送の追加.....	122
ポート転送の編集.....	123
ポート転送の削除.....	124
(オプション) ローカルWebサーバーの公開.....	124
ルーターでのポート転送ルールの実行方法.....	125
ポートトリガー.....	126
ポートトリガーの追加.....	126
ポートトリガーの有効化.....	127
適用例: インターネットリレーチャットのためのポートトリガー.....	128
第9章 VPNを使用したネットワークへのアクセス	
VPN接続の設定.....	131
ルーターでのVPNサービスの設定.....	131
OpenVPNソフトウェアのインストール.....	132
Windows PCへのOpenVPNソフトウェアのインストール.....	132
MacへのOpenVPNソフトウェアのインストール.....	135
iOSデバイスへのOpenVPNソフトウェアのインストール.....	136
AndroidデバイスへのOpenVPNソフトウェアのインストール.....	137
Windows PCでのVPNトンネルの使用.....	138
VPNを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス.....	140
VPNクライアントインターネットアクセスの設定.....	140
ルーターでのVPNクライアントインターネットアクセスの禁止.....	141
VPNトンネルを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス.....	142
第10章 トラブルシューティング	
トラブルシューティングのヒント.....	144
ネットワークを再起動する手順.....	144
ワイヤレス設定.....	144
ネットワーク設定.....	144
ルーターとサテライトが同期しない.....	144

ルーターにログインできない.....	146
インターネットにアクセスできない.....	146
インターネット閲覧のトラブルシューティング.....	147
PPPoEのトラブルシューティング.....	148
無線LAN接続のトラブルシューティング.....	149
pingユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング.....	150
ルーターへのLANのパスのテスト.....	150
PCからリモートデバイスへのパスのテスト.....	151

第 11 章 補足情報

Orbiルーターの工場出荷時の設定.....	154
OrbiルーターモデルRBR50の工場出荷時の設定.....	154
OrbiルーターモデルRBR40の工場出荷時の設定.....	155
OrbiルーターモデルRBR20の工場出荷時の設定.....	157
Orbiサテライトの工場出荷時の設定.....	159
OrbiサテライトモデルRBS50の工場出荷時の設定.....	159
OrbiサテライトモデルRBS40の工場出荷時の設定.....	161
OrbiサテライトモデルRBS20の工場出荷時の設定.....	163
OrbiウォールプラグサテライトモデルRBW30の工場出荷時の設定.....	165
Orbiルーターの技術仕様.....	167
OrbiルーターモデルRBR50の技術仕様.....	167
OrbiルーターモデルRBR40の技術仕様.....	168
OrbiルーターモデルRBR20の技術仕様.....	169
Orbiサテライトの技術仕様.....	171
OrbiサテライトモデルRBS50の技術仕様.....	171
OrbiルーターモデルRBS40の技術仕様.....	173
OrbiルーターモデルRBS20の技術仕様.....	174
OrbiウォールプラグサテライトモデルRBW30の技術仕様.....	175

1

概要

Orbi™ WiFiシステムでは、インターネットサービス専用的高速無線LAN接続が作成されます。Orbiルーターはモデムまたはゲートウェイに接続します。OrbiサテライトはOrbiルーターに接続し、無線LANの範囲を拡張します。

このマニュアルでは、OrbiルーターのWeb管理者ページからOrbi WiFiシステムを管理する方法について説明します。追加用OrbiサテライトをOrbiルーターのWeb管理者ページから管理できます。

以下の追加用Orbiサテライトのいずれかをお持ちの場合は、サテライトに関する詳細情報をユーザーマニュアル (<https://www.jp.netgear.com/support/> からダウンロード可能) でご確認ください:

- ・ Orbi Outdoorサテライト (RBS50Y)
- ・ Orbi Voiceサテライト (RBS40V)

この章には次の内容が含まれます。

- ・ [LEDの動作](#)
- ・ [ルーターの接続](#)
- ・ [サテライトを設置する](#)
- ・ [Orbiサテライトの同期](#)
- ・ [LANケーブルを使用した有線バックホール接続の設定](#)
- ・ [NETGEAR Orbiアプリをダウンロードする](#)

このマニュアルに掲載されている内容の詳細については、サポートのWebサイト (<https://www.jp.netgear.com/support/>) を参照してください。

注意: このマニュアルでは、すべてのOrbiルーターをルーターと呼び、すべてのOrbiサテライトをサテライトと呼びます。

LEDの動作

サテライトをルーターに同期する場合、WiFiシステムに付属するサテライトのLEDの動作は、別売りのサテライトのLEDの動作とは異なります。

Orbi WiFiシステムのLED

次の表に、OrbiルーターおよびOrbiサテライト（一緒に購入し、同じパッケージに入っている）のLEDの動作を示します。

表 1 : Orbi WiFiシステムのルーターとサテライトのLEDの説明

LED	LEDの動作
電源LED	<p>電源LEDは、背面パネルの電源ボタンの上にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑点灯: 電源はオンです。 ・ オレンジ点灯: ルーターまたはサテライトは起動中です。 ・ オレンジ点滅: ルーターまたはサテライトは工場出荷時の初期設定にリセットしています。 ・ 赤点滅: ファームウェアが破損しています。 ・ 消灯: 給電されていません。
ルーターのリングLED	<p>リングLEDは上部にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白点滅: ルーターが起動中であるか、Syncボタンが押されました。 ・ 消灯: ルーターの起動が終了し、正常に動作しています。 ・ 白点灯: ルーターは工場出荷時の初期設定にリセットしています。 ・ マゼンタ点灯: ルーターがインターネットに接続できません。「インターネットにアクセスできない (146ページ)」を参照してください。
サテライトのリングLED	<p>Orbiルーターの購入時に付属しているサテライトです。リングLEDは上部にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白点滅: サテライトは起動中か、Orbiルーターとの同期を試みています。 ・ 青点灯 (3分間): サテライトとルーター間の接続状態は良好です。 ・ オレンジ点灯 (3分間): サテライトとルーター間の接続状態は普通です。 ・ マゼンタ: サテライトはルーターとの同期に失敗しました。「ルーターとサテライトが同期しない (144ページ)」を参照してください。 ・ 消灯: サテライトはルーターに同期され、正常に動作しています。

OrbiサテライトのLED

Orbiサテライト（別売り）を購入して既存のOrbiネットワークに追加することができます。

表 2: OrbiアドオンサテライトのLEDの説明

LED	LEDの動作
電源LED	<p>電源LEDは、背面パネルの電源ボタンの上にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑点灯: 電源はオンです。 ・ オレンジ点灯: サテライトは再起動中です。 ・ オレンジ点滅: サテライトを工場出荷時の初期設定にリセットしています。 ・ 赤点滅: ファームウェアが破損しています。 ・ 消灯: 給電されていません。
アドオンサテライトのリングLED	<p>別売りのサテライトを、お使いのOrbiネットワークに追加できます。リングLEDは上部にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白点滅: サテライトは起動中か、Orbiルーターとの同期を試みています。 ・ 白点灯: サテライトをルーターに同期することができます (Syncボタンを押してください)。 ・ 青点灯 (3分間): サテライトとルーター間の接続状態は良好です。 ・ オレンジ点灯 (3分間): サテライトとルーター間の接続状態は普通です。 ・ マゼンタ: サテライトがルーターに接続されていないか、IPアドレスを取得していません。 ・ 消灯: サテライトはルーターに同期され、正常に動作しています。

ルーターの接続

ルーターを接続します。

1. モデムの電源をオフにします。モデムがすでに別のルーターに接続されている場合は、モデムとルーターの間に接続されているLANケーブルを外します。モデムにはインターネットサービスの壁の差し込み口にのみケーブルが接続されているようにします。
2. モデムに電源コードを接続し、電源を入れます。
3. ルーターに同梱の黄色のLANケーブルを使用して、モデムとルーターのインターネットポートを接続します。
4. ルーターに電源コードを接続します。
5. 電源LEDが点灯していない場合は、ルーターの背面パネルの電源ボタンを押してください。

サテライトを設置する

Orbi WiFiシステムに付属するサテライトの場合、サテライトはルーターとの同期を試行します。追加のサテライトを購入した場合は、サテライトを手動で同期する必要があります。詳細については、「[Orbiサテライトの同期](#)（12ページ）」を参照してください。

ルーターと同期するには、サテライトがルーターの無線LANの範囲内になければなりません。各サテライトのリングLEDを使用して、サテライトを設置する場所を決定してください。

Orbiサテライトの同期

サテライトの同期プロセスは、サテライトがOrbi WiFiシステムに付属しているものか、追加で購入したものかによって異なります。

Orbi WiFiシステムからのサテライトの同期

Orbi WiFiシステムには、Orbiルーターが1台とサテライトが1台または2台含まれています。WiFiシステムのサテライトは、同じWiFiシステムのOrbiルーターからWiFi信号を自動的に検出して同期するようにあらかじめ設定されています。

サテライトを同期する:

1. サテライトを設置します。
詳細については、「[サテライトを設置する](#)（12ページ）」を参照してください。
2. サテライトを電源に接続します。
3. サテライトの背面にある電源LEDが点灯していない場合は、電源ボタンを押します。
サテライトのリングLEDが白色に点滅します。サテライトはOrbiルーターのWiFi信号を自動的に検出して、Orbiルーターとの同期を試行します。
サテライトのリングLEDが約3分間、次のいずれかの色に点灯してから消灯します。
 - ・ **青:** Orbiルーターとサテライトの同期が完了しました。ルーターとサテライトの間の接続状態は良好です。
 - ・ **オレンジ:** Orbiルーターとサテライトの同期が完了しました。ルーターとサテライトの間の接続状態は普通です。OrbiサテライトをOrbiルーターの近くに設置することをお勧めします。
 - ・ **マゼンタ:** Orbiルーターとサテライトの同期に失敗しました。

4. サテライトのリングLEDがマゼンタ色の場合、サテライトをルーターの近くに移動してから、サテライトをルーターと同期させます。
 - a. ルーター背面の**Sync**ボタンを押します。
 - b. 2分以内に、サテライト背面の**Sync**ボタンを押します。

サテライトはOrbiルーターとの同期を試行します。この手順のステップ3で説明したように、サテライトのリングLEDは青色、オレンジ色、またはマゼンタ色に点灯した後、消灯します。
5. Orbi WiFiシステムに2台目のサテライトが付属している場合は、ステップ1~4を繰り返します。

追加サテライトの同期

Orbiルーターがすでに設定され、サテライトにオプションのアドオンサテライト（別売り）を追加している場合、次の手順に従います。

追加のサテライトを同期する:

1. サテライトを設置します。

OrbiネットワークのWiFi信号の範囲内にサテライトがあることを確認します。
2. サテライトを電源に接続します。
3. サテライトの背面にある電源LEDが点灯していない場合は、**電源**ボタンを押します。
4. サテライトのリングLEDが白色に点灯するまで、約2分待ちます。
5. サテライトの背面にある**Sync**ボタンを押し、2分以内に今度はOrbiルーターの背面にある**Sync**ボタンを押します。

サテライトのリングLEDが白色に点滅し、その後約3分間、次のいずれかの色に点灯してから消灯します。

- ・ **青:** Orbiルーターとサテライトの同期が完了しました。ルーターとサテライトの間の接続状態は良好です。
- ・ **オレンジ:** Orbiルーターとサテライトの同期が完了しました。ルーターとサテライトの間の接続状態は普通です。OrbiサテライトをOrbiルーターの近くに設置することをお勧めします。
- ・ **マゼンタ:** Orbiルーターとサテライトの同期に失敗しました。サテライトをルーターにより近い位置に設置してもう一度お試しください。

ルーターにログインしてネットワークにサテライトを追加する

ルーターのWeb管理者ページからOrbiネットワークにサテライトを追加できます。

ルーターのWeb管理者ページからOrbiネットワークにサテライトを追加する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。デフォルトのパスワードは「**password**」です。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [**Orbiサテライトを追加する**] を選択します。
[サテライトを設置する] ページが表示されます。
5. 指示に従って家屋内にサテライトを設置します。
6. サテライトを電源に接続します。
7. サテライトの背面にある電源LEDが点灯していない場合は、**電源ボタン**を押します。
8. [**次へ**] ボタンをクリックします。
9. サテライトのリングLEDが白色に点灯するまで、約2分待ちます。
10. サテライトの**Sync**ボタンを押します。
OrbiサテライトのリングLEDが白色に点滅します。
11. ルーター管理者ページで**Sync**ボタンをクリックします。
ルーターはサテライトとの同期を試みます。

その後約3分間、サテライトのリングLEDが次のいずれかの色に点灯してから消灯します。

- ・ **青**: Orbiルーターとサテライトの同期が完了しました。ルーターとサテライトの間の接続状態は良好です。
- ・ **オレンジ**: Orbiルーターとサテライトの同期が完了しました。ルーターとサテライトの間の接続状態は普通です。 OrbiサテライトをOrbiルーターの近くに設置することをお勧めします。
- ・ **マゼンタ**: Orbiルーターとサテライトの同期に失敗しました。 サテライトをルーターにより近い位置に設置してもう一度お試しください。

LANケーブルを使用した有線バックホール接続の設定

OrbiサテライトはOrbiルーターまたは別のOrbiサテライトに自動的に接続して、無線バックホールを作成します。LANケーブルを使用してサテライトをルーターまたは別のサテライトに接続して、有線バックホール接続を作成することもできます。

有線バックホール接続を設定する前に、すべてのOrbiデバイスでファームウェアが更新されていることを確認してください。

次の図は、OrbiサテライトをOrbiルーターに接続して有線バックホール接続を作成する方法を示しています。

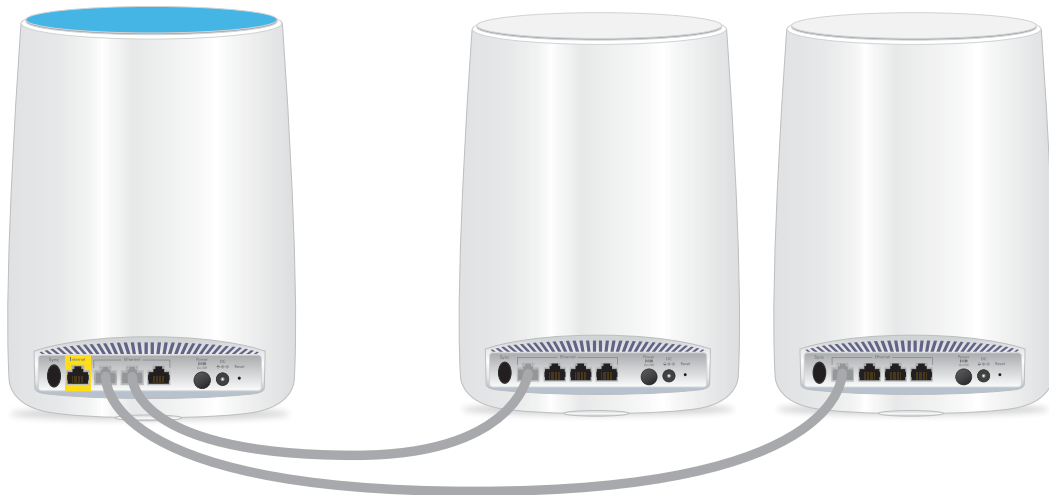


図 1: ルーターのLANポートに接続されたサテライト

次の図は、別の方法でOrbiサテライトをOrbiルーターに接続して有線バックホール接続を作成しています。

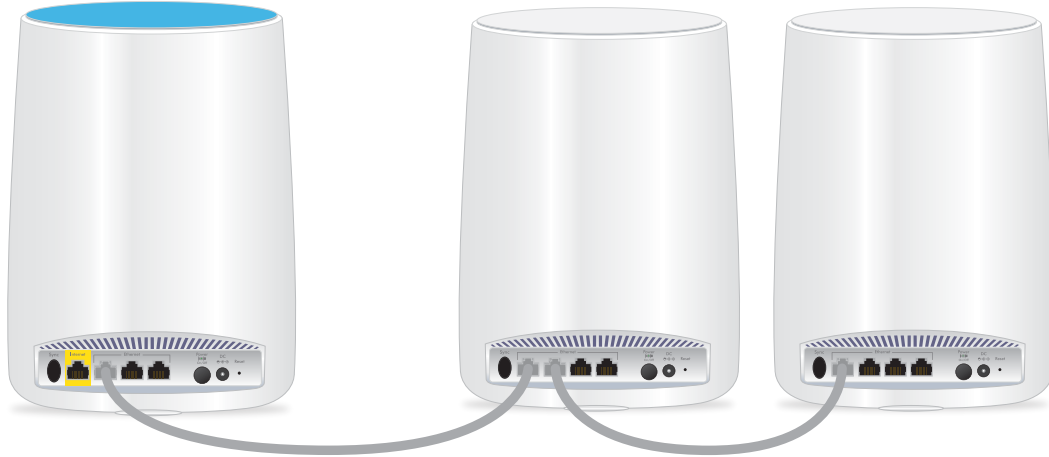


図2: サテライト1をルーターに接続し、サテライト2をサテライト1に接続

次の図は、OrbiサテライトとOrbiルーターをイーサネットスイッチに接続する方法を示しています。

注意: Orbiルーターおよびサテライト上のLANポートの速度は1 Gbpsです。1 Gbps以上の速度のスイッチを使用してください。



図3: スイッチを使用した有線バックホール接続

NETGEAR Orbiアプリをダウンロードする

NETGEAR Orbiアプリを使用して、Orbiネットワークをセットアップし、Orbiネットワークにアクセスできます。

アプリを見つけるには、QRコードをスキャンするか、Apple App StoreまたはGoogle Playストアで「NETGEAR Orbi」を検索します。モバイルデバイスでNETGEAR Orbiアプリを起動し、画面の指示に従います。

Orbiアプリの詳細については、<https://www.jp.netgear.com/home/apps-services/orbi-app/> を参照してください。



2

ネットワークへの接続とルーターへのアクセス

この章には次の内容が含まれます。

- ・ ネットワークへの接続
- ・ ラベル
- ・ ログインのタイプ
- ・ Webブラウザからルーター管理者ページへのアクセス
- ・ 言語の変更

ネットワークへの接続

有線または無線でOrbiネットワークに接続することができます。固定IPアドレスを使用するように子機を設定している場合は、DHCPを使用するように設定を変更します。

有線接続

子機とルーターを有線で接続し、ルーターのローカルエリアネットワーク（LAN）に接続することができます。

子機とルーターを有線で接続します。

1. ルーターの電源が入っていること（電源LEDが点灯していること）を確認します。
2. LANケーブルを子機のLANポートに接続します。
3. LANケーブルのもう一方の端をルーターのLANポートに接続します。

無線LAN接続

手動で無線LANネットワークを探して接続します。

1. ルーターまたはサテライトの電源が入っていること（電源LEDが点灯していること）を確認します。
2. 無線LAN対応のPCまたはモバイルデバイスで、無線LANのネットワークを見つけて選択します。

無線LANネットワーク名は、ルーターのラベルに記載されています。WiFiネットワーク名は、Orbi WiFiシステムのルーターおよびサテライトと同じです。

注意: 無線LANのネットワーク名は、Orbiキット内のルーターとサテライトで同じです。

3. ネットワークキー（パスワード）を入力します。
ネットワークキー（パスワード）は、ルーターのラベルに記載されています。
無線LAN対応PCまたはモバイルデバイスが無線LANネットワークに接続されます。

WPSプッシュボタン方式を使用した無線LAN接続

無線でルーターに接続するには、WPS（Wi-Fi Protected Setup）を使用するか、または手動でルーターのネットワークを選択して接続します。

WPSを使用してネットワークに接続します。

1. ルーターの電源が入っていること（電源LEDが点灯していること）を確認します。
2. 無線LAN子機のWPS手順を確認します。
3. ルーターでカメラのSyncボタンを押します。
4. 2分以内に、無線LAN対応PCまたはモバイルデバイスのWPSボタンを押すか、WPS接続の手順に従います。
PCまたはモバイルデバイスが無線LANネットワークに接続されます。

ラベル

ルーターのラベルには、ログイン情報、無線LANのネットワーク名およびパスワード、ルーターのMACアドレス、ルーターのシリアル番号が記載されています。次に、ルーターのラベルの例を示します。

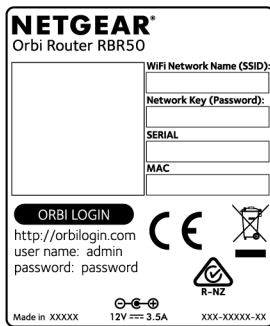


図4:ルーター底面のラベル

サテライトのラベルには、無線LANのネットワーク名およびパスワード、サテライトのMACアドレス、サテライトのシリアル番号が記載されています。次に、サテライトのラベルの例を示します。

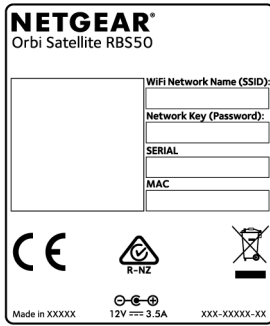


図 5: サテライトのラベル

ログインのタイプ

目的に応じて異なるログインの種類があります。それぞれの違いを理解して、いつどのログインを使用するのかを判断することが重要です。

ログインのタイプ:

- ・ **インターネットサービスへのログイン:** インターネットサービスプロバイダー (ISP) から郵送などで送られてくるログイン情報を使用して、インターネットサービスにログインします。ログイン情報が見つからない場合は、プロバイダーに直接問い合わせてください。
- ・ **ネットワークキーまたはパスワード:** ルーターとサテライトには、無線LANアクセスのための同じ無線LANネットワーク名 (SSID) とパスワードがあらかじめ設定されています。この情報は、ルーターのラベルおよびサテライトのラベルに記載されています。
- ・ **ルーターログイン:** 管理者としてWebブラウザからルーターの管理者ページ (NETGEAR genie) にログインします。

Webブラウザからルーター管理者ページへのアクセス

無線LANまたはLANケーブルでネットワークに接続し、Webブラウザを使用してルーターにアクセスすると、設定の確認や変更を行うことができます。ルーターに初めてアクセスするときは、ルーターがインターネットサービスに接続できるかどうかをNETGEAR インストールアシスタントが自動的にチェックします。

ルーターのセットアップ

ルーターを自動的にセットアップすることも、Webブラウザを使ってルーターにアクセスして手動でルーターをセットアップすることもできます。セットアップ手順を開始する前に、プロバイダー情報を入手し、ネットワーク上の無線LAN子機がここで説明するとおりの設定を使用していることを確認します。

インターネットサービスを開始するとき、インターネットに接続するために必要なすべての情報は、通常、プロバイダーから提供されます。ルーターをセットアップするために次の情報が必要になることがあります。

- ・ プロバイダーのアカウント情報
- ・ プロバイダーのログイン名とパスワード
- ・ 固定または静的IPアドレス設定（プロバイダーによりごく稀に必要になります）

この情報が確認できない場合は、プロバイダーにお問い合わせください。インターネット接続が有効であれば、インターネットにアクセスするためにプロバイダーのログインプログラムを起動する必要はなくなります。インターネットアプリケーションを起動すると、ご利用のルーターは自動的にログインします。

インストールおよび基本セットアップは完了するまでに15分程度かかります。

ルーターをセットアップします。

1. 電源ボタンを押して、ルーターの電源を入れます。
2. 無線LAN対応のPCまたはモバイルデバイスがLANケーブル（有線）または無線でルーターに接続されていること、また無線接続の場合、ルーターのラベルに記載されているセキュリティ設定が使用されていることを確認します。

注意: ルーターの無線LAN設定を変更する場合は、有線接続を使用してください。これは、新しい無線LAN設定が有効になるときに無線LAN接続が切断されることを避けるためです。

3. Webブラウザを起動します。
これまでにルーターにアクセスしたことがあるかどうかによって表示されるページが異なります。
 - ・ ルーターでインターネット接続を初めて設定するときは、**orbilogin.com** に自動的に移動して、Orbiログインページが表示されます。
 - ・ インターネット接続の設定が完了している場合は、ブラウザのアドレス欄に「**orbilogin.com**」と入力してインストールプロセスを開始します。
4. 画面に表示される指示に従います。

ルーターがインターネットに接続されます。

5. ブラウザーにWebページが表示されない場合は、次の操作を実行します。
 - ・ 無線LAN子機がルーターのLANポートに有線で接続しているか、または無線で接続していることを確認します。
 - ・ ルーターの電源が入っていること、および電源LEDが点灯していることを確認します。
 - ・ ブラウザーを閉じて開き直すか、またはブラウザのキャッシュをクリアします。
 - ・ **orbilogin.com** にアクセスします。
 - ・ PCが静的または固定IPアドレスに設定されている場合（稀です）、IPアドレスをルーターから自動的に取得するように変更します。
6. ルーターがインターネットに接続できない場合は、次の操作を行います。
 - a. 設定を確認します。
 - b. 適切なオプションを選択していて、すべてを正しく入力していることを確認します。
 - c. プロバイダーに問い合わせ、正しい設定情報を使用していることを確認します。
 - d. 「[トラブルシューティング](#)（143ページ）」を参照します。
それでも解決しない場合は、NETGEAR 製品を登録し、NETGEAR テクニカルサポートをご利用ください。

Orbiルーター管理者ページへのログイン

Orbiにログインすると、ブラウザにルーターのWebインターフェイスが表示されます。ルーターのWebインターフェイスを使用して、ルーターまたはサテライトの設定を変更できます。

Orbiルーター管理者ページにログインします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。

言語の変更

NETGEAR genieの言語を変更することができます。

言語を変更します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. 右上隅にあるメニューから言語を選択します。
5. メッセージが表示されたら、**[OK]** ボタンをクリックします。
選択した言語でページが更新されます。

3

インターネット設定

ルーターでインターネット接続を使用するように設定する場合は一般的に、Webブラウザで初めてルーターにアクセスするときに、Orbiでインターネット接続を自動的に検出する方法が一番簡単です。また、手動でインターネット設定を行うこともできます。

この章には次の内容が含まれます。

- ・ [セットアップウィザードの使用](#)
- ・ [インターネット接続の手動設定](#)
- ・ [IPv6インターネット接続の指定](#)
- ・ [MTUサイズの変更](#)

セットアップウィザードの使用

セットアップウィザードを使用してルーターを自動的にセットアップできます。

セットアップウィザードを使用します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [セットアップウィザード] を選択します。
[セットアップウィザード] ページが表示されます。
5. [はい] ラジオボタンを選択します。
[いいえ] を選択した場合は、[インターネット設定] ページに移動します (インターネット接続の手動設定 (26ページ) を参照)。
6. [次へ] ボタンをクリックします。
セットアップウィザードは、サーバーとプロトコルに使用しているインターネット接続を検索し、ISP設定を特定して操作モードを確認します。

インターネット接続の手動設定

ルーターのインターネット接続設定を表示または変更することができます。

ログインを必要としないインターネット接続の指定

インターネット接続設定を指定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。

ログインウィンドウが開きます。

3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. **[インターネット]** を選択します。
[インターネット設定] ページが表示されます。
5. [お使いのインターネット接続はログインを必要としていますか?] では **[いいえ]** ラジオボタンを選択したままにします。
6. インターネット接続にアカウント名またはホスト名が必要な場合は、**[アカウント名 (必要時のみ)]** の欄に入力します。
7. インターネット接続にドメイン名が必要な場合は、**[ドメイン名 (必要時のみ)]** の欄に入力します。
ページ内の他のセクションは、通常、デフォルト設定のままで機能しますが、変更することもできます。
8. **[インターネットIPアドレス]** ラジオボタンを選択します。
 - ・ **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してIPアドレスを割り当てます。これらのアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
 - ・ **IPアドレスを指定 (固定)**: プロバイダーから割り当てられたIPアドレス、IPサブネットマスク、ゲートウェイIPアドレスを入力します。ゲートウェイは、お使いのルーターの接続先となるプロバイダーのルーターです。
9. **[ドメインネームサーバー (DNS) アドレス]** ラジオボタンを選択します。
 - ・ **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
 - ・ **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

10. [ルーターMACアドレス] ラジオボタンを選択します。
 - ・ デフォルトのアドレスを使う: デフォルトのMACアドレスを使用します。
 - ・ コンピューターのMACアドレスを使用: ルーターは、現在使用中のPCのMACアドレスを取得し、使用します。 プロバイダーから許可されたPCを使用する必要があります。
 - ・ このMACアドレスを使用: 使用したいMACアドレスを入力します。
11. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。
12. [テスト] ボタンをクリックしてインターネット接続をテストします。

1分以内にNETGEARのWebサイトが表示されない場合は、「[トラブルシューティング](#) (143ページ)」を参照してください。

ログインを必要とするインターネット接続の指定

インターネット設定を表示または変更します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。

ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [インターネット] を選択します。

[インターネット設定] ページが表示されます。
5. [お使いのインターネット接続はログインを必要としていますか?] で **[はい]** ラジオボタンを選択します。

ページの表示が変更されます。
6. [インターネットサービスプロバイダー] ドロップダウンリストで、カプセル化の方法を選択します。

選択肢は **[PPPoE]**、**[PPTP]**、**[L2TP]** です。

7. **[ログイン]** 欄に、プロバイダーから提供されたログイン名を入力します。
通常、このログイン名はメールアドレスです。
8. **[パスワード]** 欄に、インターネットサービスへのログインに使用するパスワードを入力します。
9. プロバイダーからサービス名を提供された場合は、**[サービス名(必要時のみ)]** 欄に入力します。
10. **[接続モード]** ドロップダウンリストで、**[常時接続]**、**[要求に応じダイヤル]**、または**[手動接続]** を選択します。
11. インターネットのログインがタイムアウトするまでの時間（分）を変更するには、**[アイドルタイムアウト(分)]** 欄に時間（分）を入力します。
これは、ネットワーク上でだれもインターネット接続を使用していないときにルーターがインターネット接続を維持しておく時間です。0（ゼロ）の値は、ログアウトしないことを意味します。
12. **[インターネットIPアドレス]** ラジオボタンを選択します。
 - ・ **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してIPアドレスを割り当てます。これらのアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
 - ・ **IPアドレスを指定(固定)**: プロバイダーから割り当てられたIPアドレス、IPサブネットマスク、ゲートウェイIPアドレスを入力します。ゲートウェイは、お使いのルーターの接続先となるプロバイダーのルーターです。
13. **[ドメインネームサーバー (DNS)]** のラジオボタンを選択します。
 - ・ **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
 - ・ **DNSサーバーを指定(固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

14. [ルーターMACアドレス] ラジオボタンを選択します。
 - ・ **デフォルトのアドレスを使う**：デフォルトのMACアドレスを使用します。
 - ・ **コンピューターのMACアドレスを使用**：ルーターは、現在使用中のPCのMACアドレスを取得し、使用します。プロバイダーから許可されたPCを使用する必要があります。
 - ・ **このMACアドレスを使用**：使用したいMACアドレスを入力します。
15. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。
16. [テスト] ボタンをクリックしてインターネット接続をテストします。

1分以内にNETGEARのWebサイトが表示されない場合は、「インターネットにアクセスできない（146ページ）」を参照してください。

IPv6インターネット接続の指定

ルーターでIPv6インターネット接続が自動的に検出されない場合は、これを設定することができます。

IPv6インターネット接続を設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。

ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。

[IPv6] ページが表示されます。

5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、IPv6の接続タイプを選択します。
 - ・ 分からない場合は、「**自動検出**」を選択し、ルーターに使用中の IPv6 を検出させます。
 - ・ インターネット接続でPPPoE、DHCP、固定IPを使用せず、IPv6を使用している場合は、**[自動設定]** を選択します。

この情報はご利用のプロバイダーから提供してもらうことができます。 IPv6インターネット接続についての詳細は、次のセクションを参照してください。
 - ・ [自動検出を使用したIPv6インターネット接続](#) (32ページ)
 - ・ [IPv6インターネット接続を行うため自動設定を使用する](#) (33ページ)
 - ・ [IPv6 6rdトンネルインターネット接続の設定](#) (35ページ)
 - ・ [IPv6 6to4トンネルインターネット接続の設定](#) (37ページ)
 - ・ [IPv6 パススルーインターネット接続の設定](#) (38ページ)
 - ・ [IPv6 固定インターネット接続の設定](#) (39ページ)
 - ・ [IPv6 DHCPインターネット接続の設定](#) (40ページ)
 - ・ [IPv6 PPPoEインターネット接続の設定](#) (42ページ)

6. **[適用]** ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

IPv6アドレスの入力要件

IPv6アドレスは、4つの16進数を一組とした8つのグループをコロンで区切って表されます。IPv6アドレス内の4桁がゼロのグループは、1つのゼロにまとめたり、すべて省略したりできます。次のエラーがあるとIPv6アドレスは無効になります。

- ・ 4桁の16進数のグループが9つ以上ある
- ・ 1つのグループに16進数の英数字が5つ以上ある
- ・ コロンが3つ以上続いている

自動検出を使用したIPv6インターネット接続

自動検出を使用してIPv6インターネット接続を設定する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] ページが表示されます。
5. [インターネット接続タイプ] ドロップダウンリストで、[自動検出] を選択します。
ページの表示が変更されます。
以下の項目の情報がルーターによって自動的に検出されます。

- ・ **接続タイプ**: この欄は、検出された接続タイプを示します。
- ・ **ルーターのIPv6アドレス(WAN側)**: この欄には、ルーターのWAN（またはインターネット）インターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
- ・ **ルーターのIPv6アドレス(LAN側)**: この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレ

フィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。

6. [IPアドレスの割当て] ラジオボタンを選択します。
 - ・ **DHCPサーバーを使う**：この方法では、LAN上のデバイスに詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - ・ **自動設定**：これはデフォルトの設定です。

この設定により、ルーターでIPv6アドレスをLAN上のデバイスに割り当てる方法が指定されます。

7. (オプション) **[このインターフェイスIDを使う]** チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。
ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

IPv6インターネット接続を行うため自動設定を使用する

自動設定を使用してIPv6インターネット接続を設定する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。
[IPv6] ページが表示されます。
5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[自動設定]** を選択します。
ページの表示が変更されます。

以下の項目の情報がルーターによって自動的に検出されます。

- ・ **ルーターのIPv6アドレス(WAN側)**: この欄には、ルーターのWAN（またはインターネット）インターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
 - ・ **ルーターのIPv6アドレス(LAN側)**: この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
6. (オプション) **[DHCPユーザークラス (必要時のみ)]** 欄に、ホスト名を入力します。
ほとんどの場合、この欄は空白のままにできますが、プロバイダーから特定のホスト名を提供された場合はここに入力します。
7. (オプション) **[DHCPドメイン名 (必要時のみ)]** 欄に、ドメイン名を入力します。
ご利用のIPv6プロバイダーのドメイン名を入力できます。ここにはIPv4プロバイダーのドメイン名を入力しないでください。例えば、ご利用のプロバイダーのメールサーバーがmail.xxx.yyy.zzzである場合は、「xxx.yyy.zzz」をドメイン名として入力します。プロバイダーからドメイン名を提供されている場合は、それをこの欄に入力します。例えば、Earthlink Cableではホームのホスト名が必要であり、Comcastではドメイン名が提供されることがあります。
8. **[IPアドレスの割当て]** ラジオボタンを選択します。
- ・ **DHCPサーバーを使う**: この方法では、LAN上のデバイスに詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - ・ **自動設定**: これはデフォルトの設定です。
9. (オプション) **[このインターフェイスIDを使う]** チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。
ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。
10. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

IPv6 6rdトンネルインターネット接続の設定

6rdプロトコルを使うと、サービスプロバイダーのIPv4ネットワークを使用するサイトにIPv6を導入することができます。6rdでは、サービスプロバイダー独自のIPv6アドレスプレフィックスを使用します。このため、6rdの運用範囲はサービスプロバイダーのネットワークに限定され、サービスプロバイダーの直接的な管理下に置かれます。提供されるIPv6サービスはネイティブのIPv6と同じです。6rdのメカニズムは、サービスプロバイダーのネットワーク内で使用するように割り当てられるIPv6アドレスとIPv4アドレスの間のアルゴリズムマッピングに依存しています。このマッピングにより、IPv6プレフィックスからIPv4のトンネルエンドポイントを自動的に判別することが可能になり、6rdのステートレスな運用ができます。

6rdのトンネル設定では、ルーターはRFC5969標準に準拠、2通りの6rdトンネルIPv6 WAN接続確立に対応します。

- ・ **自動検出モード**: IPv6の自動検出モードでは、ルーターがDHCPv4オプションからオプション212を受信すると、自動検出によってIPv6が6rdのトンネル設定として選択されます。ルーターは、6rdのオプションの情報をを使用して6rdの接続を確立します。
- ・ **手動モード**: [6rd] を選択します。ルーターがオプション212を受信した場合、欄は自動的に入力されます。それ以外の場合は、6rdの設定を入力する必要があります。

IPv6 6rdトンネルインターネット接続を設定する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] ページが表示されます。
5. [インターネット接続タイプ] ドロップダウンリストで、[6rd] を選択します。
ページの表示が変更されます。

以下のセクションの情報がルーターによって自動的に検出されます。

- ・ **6rd (IPv6 Rapid Development) の設定:** ルーターはサービスプロバイダーのIPv4ネットワークを検出し、IPv6 6rdトンネル接続の確立を試行します。 IPv4ネットワークからルーターに6rdパラメーターが返された場合は、ページの表示が変更されてこのセクションに正しい設定が表示されます。
- ・ **ルーターのIPv6アドレス (LAN側):** この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。

6. [IPv6ドメインネームサーバー (DNS) アドレス] ラジオボタンを選択します。

- ・ **プロバイダーから自動取得:** プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
- ・ **DNSサーバーを指定 (固定):** プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

7. [IPアドレスの割当て] ラジオボタンを選択します。

- ・ **DHCPサーバーを使う:** この方法では、LAN上のデバイスに詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
- ・ **自動設定:** これはデフォルトの設定です。

この設定により、ルーターでIPv6アドレスをホームネットワークのデバイスに割り当てる方法が指定されます。

8. (オプション)[このインターフェイスIDを使う] チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。

ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。

9. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

IPv6 6to4トンネルインターネット接続の設定

リモートリレールーターとは、ルーターによる6to4トンネルの作成先となるルーターです。IPv6接続に6to4トンネル設定を適用する前に、IPv4インターネット接続が機能していることを確認します。

6to4トンネルを使用してIPv6インターネット接続を設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] ページが表示されます。
5. [インターネット接続タイプ] ドロップダウンリストで、[6to4トンネル] を選択します。
ページの表示が変更されます。
ルーターは、[ルーターのIPv6アドレス (LAN側)] 欄の情報を自動的に検出します。この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
6. [リモート6to4リレールーター] ラジオボタンを選択します。
 - ・ **自動**: ルーターはインターネット上で利用可能な任意のリモートリレールーターを使用します。これはデフォルトの設定です。
 - ・ **静的IPアドレス**: リモートリレールーターの静的IPv4アドレスを入力します。このアドレスは通常、IPv6プロバイダーから提供されます。

7. [IPv6ドメインネームサーバー (DNS) アドレス] のラジオボタンを選択します。
 - ・ **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
 - ・ **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。
8. [IPアドレスの割当て] ラジオボタンを選択します。
 - ・ **DHCPサーバーを使う**: この方法では、LAN上のデバイスに詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - ・ **自動設定**: これはデフォルトの設定です。

この設定により、ルーターでIPv6アドレスをホームネットワークのデバイスに割り当てる方法が指定されます。

9. (オプション)[**このインターフェイスIDを使う**] チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。
ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。
10. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

IPv6 パススルーインターネット接続の設定

パススルーモードでは、ルーターは、IPv6パケット用の2つのポート（LANポートとインターネットポート）を搭載したレイヤー2スイッチとして機能します。ルーターは、IPv6ヘッダーパケットを処理しません。IPv6 IPoE（ネイティブ方式）接続の場合は、このオプションを選択してください。

IPv6 パススルーインターネット接続を設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。

4. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] ページが表示されます。
5. [インターネット接続タイプ] ドロップダウンリストで、[パススルー] を選択します。
ページの表示が変更されますが、追加の欄は表示されません。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

IPv6 固定インターネット接続の設定

IPv6固定インターネット接続を設定します。

1. Orbi ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] ページが表示されます。
5. [インターネット接続タイプ] ドロップダウンリストで、[固定] を選択します。
ページの表示が変更されます。
6. インターネット接続の固定IPv6アドレスを設定します。
 - ・ **IPv6アドレス/プレフィックス長**: ルーターのWANインターフェイスのIPv6アドレスとプレフィックス長です。
 - ・ **デフォルトIPv6ゲートウェイ**: ルーターのWANインターフェイスのデフォルトIPv6ゲートウェイのIPv6アドレスです。

- ・ **プライマリDNS**: ルーターのIPv6ドメイン名レコードを解決するプライマリDNSサーバーです。
- ・ **セカンダリDNS**: ルーターのIPv6ドメイン名レコードを解決するセカンダリDNSサーバーです。

注意: DNSサーバーを指定しない場合、ルーターは、[インターネット設定] ページでIPv4インターネット接続用に設定されているDNSサーバーを使用します。（「インターネット接続の手動設定（26ページ）」を参照してください）。

7. [IPアドレスの割当て] ラジオボタンを選択します。
 - ・ **DHCPサーバーを使う**: この方法では、LAN上のデバイスに詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - ・ **自動設定**: これはデフォルトの設定です。

この設定により、ルーターでIPv6アドレスをホームネットワークのデバイスに割り当てる方法が指定されます。

8. [IPv6アドレス/プレフィックス長] 欄で、ルーターのLANインターフェイスの静的IPv6アドレスとプレフィックス長を指定します。
ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。
9. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

IPv6 DHCPインターネット接続の設定

DHCPサーバーを使用してIPv6インターネット接続を設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。

4. **[高度] > [高度な設定] > [IPv6]** を選択します。

[IPv6] ページが表示されます。

5. **[インターネット接続タイプ]** ドロップダウンリストで、**[DHCP]** を選択します。

ページの表示が変更されます。

以下の項目の情報がルーターによって自動的に検出されます。

- ・ **ルーターのIPv6アドレス(WAN側)**: この欄には、ルーターのWAN（またはインターネット）インターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
- ・ **ルーターのIPv6アドレス(LAN側)**: この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。

6. **[IPv6ドメインネームサーバー (DNS) アドレス]** ラジオボタンを選択します。

- ・ **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
- ・ **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

7. (オプション)**[ユーザークラス (必要時のみ)]** 欄に、ホスト名を入力します。

ほとんどの場合、この欄は空白のままにできますが、プロバイダーから特定のホスト名を提供された場合はここに入力します。

8. (オプション)**[ドメイン名 (必要時のみ)]** 欄に、ドメイン名を入力します。

ご利用のIPv6プロバイダーのドメイン名を入力できます。ここにはIPv4プロバイダーのドメイン名を入力しないでください。例えば、ご利用のプロバイダーのメールサーバーがmail.xxx.yyy.zzzである場合は、「xxx.yyy.zzz」をドメイン名として入力します。プロバイダーからドメイン名を提供されている場合は、それをこの欄に入力します。例えば、Earthlink Cableではホームのホスト名が必要であり、Comcastではドメイン名が提供されることがあります。

9. [IPアドレスの割当て] ラジオボタンを選択します。
 - ・ **DHCPサーバーを使う**：この方法では、LAN上のデバイスに詳細情報を渡しますが、IPv6システムによってはDHCPv6クライアント機能をサポートしていない場合があります。
 - ・ **自動設定**：これはデフォルトの設定です。

この設定により、ルーターでIPv6アドレスをLAN上のデバイスに割り当てる方法が指定されます。
10. (オプション)[**このインターフェイスIDを使う**] チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。
ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。
11. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

IPv6 PPPoEインターネット接続の設定

PPPoE IPv6インターネット接続を設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [IPv6] を選択します。
[IPv6] ページが表示されます。
5. [インターネット接続タイプ] ドロップダウンリストで、[PPPoE] を選択します。
ページの表示が変更されます。

以下の項目の情報がルーターによって自動的に検出されます。

- ・ **ルーターのIPv6アドレス(WAN側)**: この欄には、ルーターのWAN（またはインターネット） インターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。
- ・ **ルーターのIPv6アドレス(LAN側)**: この欄には、ルーターのLANインターフェイス用に取得したIPv6アドレスが表示されます。 スラッシュ (/) の後の数字はプレフィックスの長さであり、IPv6アドレスの下にあるアンダーライン () によっても示されます。 アドレスが取得されない場合、この欄には [利用不可] と表示されます。

6. **[ログイン]** 欄に、プロバイダー接続のログイン情報を入力します。

これは通常、メールアドレスで使用する名前です。 例えば、お使いの主要メールアドレスがJerAB@ISP.comである場合は、この欄に「JerAB」と入力します。 一部のISP (Mindspring、Earthlink、T-DSLなど) では、ログインするときに完全なメールアドレスを使用する必要があります。 ISPで完全なメールアドレスが必要な場合は、この欄にそのアドレスを入力します。

7. **[パスワード]** 欄に、プロバイダー接続のパスワードを入力します。

8. **[サービス名]** 欄に、サービス名を入力します。

プロバイダーからサービス名を提供されていない場合は、この欄を空白のままにします。

注意: [接続モード] 欄のデフォルト設定は、安定したIPv6接続を保つために [常時接続] になっています。 ルーターが接続を終了することはありません。 例えばモデムの電源が切れて接続が終了した場合、ルーターは、PPPoE接続が再び使用可能になるとすぐに接続の再確立を試みます。

9. **[IPv6ドメインネームサーバー (DNS) アドレス]** ラジオボタンを選択します。

- ・ **プロバイダーから自動取得**: プロバイダーはDHCPを使用してDNSサーバーを割り当てます。 このアドレスは、プロバイダーによって自動的に割り当てられます。
- ・ **DNSサーバーを指定 (固定)**: プロバイダーから特定のサーバーを要求されることが分かっている場合は、このオプションを選択します。 プロバイダーのプライマリDNSサーバーのIPアドレスを入力します。 セカンダリDNSサーバーのアドレスを利用できる場合は、それも入力します。

10. (オプション)[このインターフェイスIDを使う] チェックボックスを選択し、ルーターのLANインターフェイスのIPv6アドレスに使用するインターフェイスIDを指定します。
ここでIDを指定しない場合、ルーターはMACアドレスから自動的にIDを生成します。
11. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

MTUサイズの変更

MTUは、ネットワークデバイスが転送する最大データパケットを指します。あるネットワークデバイスがインターネットを介して別のネットワークデバイスと通信する場合、データパケットは途中多数のデバイスを経由していきます。この経由点にある機器で使用するMTU設定が他の機器より低い場合、データパケット分割またはフラグメンテーション化（断片化）され、最小MTUの機器と通信できるようになります。

ほとんどのNETGEARのデバイスに最適なMTUはデフォルト値です。状況によっては、この値を変更するとある問題は解決されますが、別の問題が生じる可能性もあります。次のような状況が発生した場合を除き、MTUは変更しないでください。

- ・ プロバイダーまたは別のインターネットサービスに接続中に問題が発生し、プロバイダーまたはNETGEARのテクニカルサポートからMTU設定の変更が推奨された場合。次のようなページを開く際にMTUの変更が必要になることがあります。
 - 安全なWebサイトが開かない、またはWebページの一部しか表示されない
 - Yahooメール
 - MSNポータル
- ・ VPNを使用しており、重大なパフォーマンス上の問題が発生している場合。
- ・ パフォーマンス向上のためにMTUを最適化するプログラムを使用し、これによって接続またはパフォーマンスに問題が発生した場合。

注意: MTU設定が正しくないと、インターネットの通信に問題が発生する可能性があります。例えば、特定のWebサイト、Webサイト内のフレーム、セキュリティで保護されたログインページ、FTPまたはPOPサーバーにアクセスできなくなることがあります。

MTUサイズを変更します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「orbilogin.com」と入力します。

ログインウィンドウが開きます。

3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「admin」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [設定] > [WAN設定] を選択します。
[WAN設定] ページが表示されます。
5. [MTUサイズ] 欄に、64~1500の値を入力します。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

MTUの問題が懸念される場合、一般的な解決策としてMTUを1400に変更します。試してみる場合は、MTUを最大値の1500から問題が解消するまで徐々に下げることができます。次の表に、一般的なMTUサイズと用途を示します。

表 3: 一般的なMTUサイズ

MTU	用途
1500	イーサネットフレームの最大サイズ。PPPoEまたはVPNを使用しない接続で一般的な設定です。NETGEARルーター、アダプター、スイッチのデフォルト値です。
1492	PPPoE環境で使用。
1472	pingに使用する最大サイズ（これより大きなパケットは断片化されます）。
1468	一部のDHCP環境で使用。
1436	PPTP環境で、またはVPNで使用。
576	ダイヤルアップでプロバイダーに接続する際の一般的な値。

4

インターネットアクセスの管理

インターネットからの望ましくない侵入からホームネットワークを保護するようにルーターを設定することができます。

この章には次の内容が含まれます。

- ・ [Circle with Disneyを有効にする](#)
- ・ [Orbiアプリを使用したNETGEAR Armorの有効化と管理](#)
- ・ [ネットワークへのアクセスの許可または禁止](#)
- ・ [キーワードを使用したインターネットサイトのブロック](#)
- ・ [インターネットサイトをブロックするために使用するキーワードの削除](#)
- ・ [信頼できるPCでのブロックの回避](#)
- ・ [インターネットからのサービスのブロック](#)
- ・ [ネットワークのアクセス制御リストの管理](#)
- ・ [ブロックのスケジュール設定](#)
- ・ [セキュリティイベントのメール通知の設定](#)

Circle with Disneyを有効にする

Circle with Disneyとは、家庭のネットワークに接続されている子供のデバイスの監視に役立つペアレンタルコントロールテクノロジーです。

ルーターのWeb管理者ページを使用してCircleを有効にすることも、Circleアプリを使用してCircleを有効にすることもできます。

Circleを有効にすると、Circleアプリで次のことを実行できます。

- ・ 毎日のインターネットの利用に時間制限を設定
- ・ 家族のそれぞれに応じたフィルターレベルを設定
- ・ 家族のそれぞれのデバイスに就寝時間を設定
- ・ インターネットを一時停止
- ・ Circle Goにより、すべてのネットワークで家族のモバイルデバイスを管理

Circle with Disneyの詳細については、<https://www.jp.netgear.com/landings/circle/>を参照してください。

OrbiルーターのWeb管理者ページからCircle with Disneyを有効にする

OrbiルーターのWeb管理者ページを使用してCircleを有効にすることはできますが、Circleアカウントのセットアップを完了するには、Circleアプリを使用する必要があります。

Circleを有効にする前に、ルーターのファームウェアが最新であること、また、ルーターがルーターモードになっていることを確認してください。Circle with Disneyを使用する場合は、ルーターをルーターモードにする必要があります。ルーターがアクセスポイント（AP）モードまたはブリッジモードになっている場合は、Circleを有効にすることはできません。

Circle with Disneyを有効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「orbilogin.com」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. ルーターがルーターモードで動作していることを確認します。
詳細については、「[ルーターモードの設定（89ページ）](#)」を参照してください。
5. ルーターのファームウェアを更新します。
詳細については、「[ルーターおよびサテライトのファームウェアのアップデート（96ページ）](#)」を参照してください。
6. [基本] > [ペアレンタルコントロール] を選択します。
[ペアレンタルコントロール] ページが表示されます。
7. スライダーを右に動かすと、Circle with Disneyを有効にできます。
注意: 一度に有効にできるペアレンタルコントロールサービスは1つのみです。
8. [適用] ボタンをクリックします。
Circleアプリのダウンロードリンクが表示されます。

9. モバイルデバイスにCircleアプリをダウンロードします。
10. Circleアプリを起動し、画面の指示に従ってCircleをセットアップします。
これで、NETGEARルーター上でCircle with Disneyが有効になりました。

OrbiアプリでCircle with Disneyを有効にする

Circleを有効にする前に、Orbiルーターがルーターモード（デフォルトのモード）になっていることを確認してください。Circle with Disneyを使用する場合は、ルーターをルーターモードにする必要があります。ルーターがアクセスポイント（AP）モードの場合は、Circleを有効にすることはできません。

OrbiアプリでCircle with Disneyを有効にします。

1. Orbiアプリを起動します。
ダッシュボードが表示されます。
2. [ペアレンタルコントロール] をタップします。
[ペアレンタルコントロール] ページが表示されます。
3. [Circleを有効にする] スライダーを右に動かしてCircle with Disneyを有効にします。
4. [Circleアプリのダウンロードとインストール] ボタンをタップします。
5. Circleアプリをダウンロードします。
Circleアカウントのセットアップを完了するには、Circleアプリを使用する必要があります。
6. Circleアプリを起動し、画面の指示に従います。

Orbiアプリを使用したNETGEAR Armorの有効化と管理

NETGEAR Armorは、ネットワークだけでなく個々のデバイスも保護する高度なマルチレイヤーサイバーセキュリティソリューションです。NETGEAR Armorは、ウイルス、スパイウェア、ハッカー、スパム、フィッシングからデバイスを保護します。

NETGEAR Armorの詳細については、
<https://www.jp.netgear.com/landings/armor//landings/armor/default.aspx> を参照してください。

NETGEAR Orbiアプリを使用して、NETGEAR Armorを有効化および管理します。

Orbiアプリを使用してArmorを有効化します。

1. Orbiアプリを起動します。
ダッシュボードが表示されます。
2. [セキュリティ] をタップします。
Armorページが表示されます。
3. [有効化] ボタンをタップします。

注意: NETGEARアカウントのログイン情報の確認には、5秒ほどかかる場合があります。
NETGEAR Armorが有効化されます。

4. Orbiアプリから、[Armorポータルの起動] をタップして、Armorポータルにアクセスします。

ネットワークへのアクセスの許可または禁止

アクセス制御を使用して、ネットワークへのアクセスを阻止することができます。
アクセス制御を設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [セキュリティ] > [アクセス制御] を選択します。
リストが表示されます。
5. [アクセス制御を有効にする] チェックボックスを選択します。

アクセスルールを指定して [許可] ボタンと [禁止] ボタンを使用するには、このチェックボックスを選択する必要があります。このチェックボックスのチェックを

外すと、デバイスが禁止リストに含まれていても、すべてのデバイスに接続が許可されます。

6. アクセスルールを選択します。

- ・ **すべての新しいデバイスに接続を許可**：この設定の場合、新しく購入したデバイスをお使いのネットワークにアクセスさせることができます。機器のMACアドレスをこのページに入力する必要はありません。このラジオボタンは選択されたままにすることを推奨します。
- ・ **すべての新しいデバイスの接続を禁止**：この設定の場合、新しく購入したデバイスをお使いのネットワークにアクセスさせる前に、許可リスト内の有線接続と無線LAN接続に対してデバイスのMACアドレスを入力する必要があります。

アクセスルールは、以前に禁止または許可されたデバイスには影響しません。アクセスルールは、これらの設定の適用後に、ネットワークに接続するデバイスにのみ適用されます。

7. 現在使用しているPCやデバイスのネットワークアクセスを変更するには、該当するPCやデバイスの横にあるチェックボックスを選択し、[許可] ボタンや [禁止] ボタンをクリックします。

8. アクセスが許可されているデバイスまたはアクセスが阻止されているデバイスで未接続のデバイスのリストを表示するには、以下のいずれかのリンクをクリックします。

- ・ **現在ネットワークに接続されていない、許可されたデバイスのリストを表示する**
- ・ **現在ネットワークに接続されていない、ブロックされたデバイスのリストを表示する**

リストが表示されます。

9. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

キーワードを使用したインターネットサイトのブロック

キーワードを使用して、お使いのネットワークで特定のインターネットサイトをブロックすることができます。常にブロックしたり、スケジュールに基づいてブロックしたりできます。

インターネットサイトをブロックします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度]>[セキュリティ]>[ブロックサイト] を選択します。
[ブロックサイト] ページが表示されます。
5. キーワードでブロックする際のオプションを選択します。
 - ・ **スケジュール指定**: 設定したスケジュールに基づいて、キーワードでのブロックをオンにします。(58ページの「ブロックのスケジュール設定」を参照してください。)
 - ・ **常時**: スケジュールとは関係なく、常にキーワードブロックを有効にします。
6. [ここにキーワードまたはドメイン名を入力します。] の欄に、ブロックしたいキーワードまたはドメインを入力します。
次に例を示します。
 - ・ <http://www.badstuff.com/xxx.html> をブロックする場合は、XXXを指定します。
 - ・ .eduや.govなどのドメインサフィックスがあるサイトだけを許可したい場合は、.comを指定します。
 - ・ すべてのインターネットアクセスをブロックするには、ピリオド (.) を入力します。
7. [キーワードの追加] ボタンをクリックします。
キーワードがキーワードリストに追加されます。キーワードリストは、最大32個まで追加することができます。
8. [適用] ボタンをクリックします。
キーワードでのブロックが有効になります。

インターネットサイトをブロックするために使用するキーワードの削除

インターネットサイトをブロックするために使用するキーワードを削除します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [セキュリティ] > [ブロックサイト] を選択します。
[ブロックサイト] ページが表示されます。
5. 以下のいずれかを実行します。
 - ・ 1つの単語を削除するには、その単語を選択し、[キーワードの削除] ボタンをクリックします。
キーワードがリストから削除されます。
 - ・ リストのすべてのキーワードを削除するには、[リストの消去] ボタンをクリックします。
すべてのキーワードがリストから削除されます。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

信頼できるPCでのブロックの回避

1台の信頼できるPCでのブロックを除外することができます。除外するPCには、固定IPアドレスを割り当てる必要があります。予約IPアドレス機能を使用してそのIPアドレスを指定できます。「[予約LAN IPアドレスの管理 \(77ページ\)](#)」を参照してください。

信頼できるPCを指定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [セキュリティ] > [ブロックサイト] を選択します。
[ブロックサイト] ページが表示されます。
5. 下にスクロールして、[信頼できるIPアドレスにブロックサイトへのアクセスを許可する] チェックボックスを選択します。
6. [信頼できるIPアドレス] 欄に、信頼できるPCのIPアドレスを入力します。
7. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

インターネットからのサービスのブロック

インターネットサービスは、サービスのタイプに基づいてネットワークでブロックすることができます。サービスは常にブロックしたり、スケジュールに基づいてブロックしたりできます。

サービスをブロックします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。

4. **[高度] > [セキュリティ] > [禁止サービス]** を選択します。
[ブロックサービス] ページが表示されます。
5. サービスをブロックするタイミングを指定します。
 - ・ 常にサービスをブロックするには、**[常時]** ラジオボタンを選択します。
 - ・ スケジュールに基づいてサービスをブロックするには、**[スケジュール指定]** ラジオボタンを選択します。スケジュールを指定する方法については、「[ブロックのスケジュール設定 \(57ページ\)](#)」を参照してください。
6. **[追加]** ボタンをクリックします。
[ブロックサービスの設定] ページが表示されます。
7. **[サービスタイプ]** ドロップダウンリストにあるサービスを追加するには、アプリケーションまたはサービスを選択します。
このサービスの設定は、自動的に各欄に表示されます。
8. ドロップダウンリストにないサービスまたはアプリケーションを追加するには、**[ユーザー定義]** を選択します。
 - a. アプリケーションがTCPかUDPのどちらを使用するか分かる場合は、**[プロトコル]** のドロップダウンリストでどちらか適切なほうを選択してください。
分からない場合は、**[TCP/UDP]** を選択します。
 - b. 開始ポートと終了ポートの番号を入力します。
 - ・ サービスで1つのポート番号を使用する場合は、その番号を両方の欄に入力します。
 - ・ サービスまたはアプリケーションで使用するポート番号を知るには、アプリケーションの提供者に問い合わせるか、ユーザーグループまたはニュースグループに問い合わせるか、インターネットで調べることができます。

9. サービスをフィルタリングする方法を指定するには、次のいずれかのラジオボタンを選択します。
 - ・ **このIPアドレスのみ**: 1台のPCのサービスをブロックします。
 - ・ **IPアドレス範囲**: ネットワーク上の連続するIPアドレスを持つ、一定の範囲のPCのサービスをブロックします。
 - ・ **すべてのIPアドレス**: ネットワーク上のすべてのPCのサービスをブロックします。
10. **[追加]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

ネットワークのアクセス制御リストの管理

アクセス制御を使用して、ネットワークへのアクセスを禁止または許可することができます。

許可またはブロックされたデバイスを管理します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの **[基本]** の **[ホーム]** ページが表示されます。
4. **[高度]** > **[セキュリティ]** > **[アクセス制御]** を選択します。
リストが表示されます。
5. **[アクセス制御を有効にする]** チェックボックスを選択します。
6. **[現在ネットワークに接続されていない、許可されたデバイスのリストを表示する]** リンクをクリックします。
リストが表示されます。
7. デバイスのチェックボックスを選択します。

- 必要に応じて、[追加] ボタン、[編集] ボタン、[リストから削除する] ボタンを使用します。
- [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

ブロックのスケジュール設定

ブロックのスケジュールを設定する場合は、サイトのブロックとサービスのブロックに同じスケジュールを使用します。ルーターのブロック対象を指定する方法については、[キーワードを使用したインターネットサイトのブロック](#)（51ページ）および[信頼できるPCでのブロックの回避](#)（53ページ）を参照してください。

ブロックのスケジュールを設定します。

- Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
- 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
- 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
- [高度] > [セキュリティ] > [スケジュール] を選択します。
- キーワードとサービスをブロックするタイミングを指定します。
 - ブロックする曜日**: キーワードをブロックする曜日のチェックボックスを選択するか、[毎日] チェックボックスを選択し、すべての曜日のチェックボックスを自動的に選択します。
 - ブロックする時間帯**: 24時間表記で開始時刻と終了時刻を選択するか、24時間ブロックする場合は [終日] を選択します。
- ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。
- 夏時間を適用する地域に住んでいる場合は、[夏時間に自動調整する] チェックボックスを選択します。
- [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

セキュリティイベントのメール通知の設定

ルーターアクティビティのログをメールでルーターから受け取ることができます。ログには、ルーターアクティビティおよびセキュリティイベント（ブロックしているサイトやサービスへのアクセス試行など）が記録されます。

メール通知を設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [セキュリティ] > [メール] を選択します。
[メール] ページが表示されます。
5. [メール通知を有効にする] チェックボックスを選択します。
6. [プライマリEメールアドレス] 欄に、ログおよび警告の送信先となるメールアドレスを入力します。
このメールアドレスは、差出人アドレスにも使用されます。この欄が空白の場合は、ログメッセージと警告メッセージは送信されません。
7. [送信メールサーバー] 欄に、プロバイダーの送信 (SMTP) メールサーバーの名前を入力します (mail.myISP.comなど)。
この情報は、メールソフトの設定ウィンドウに表示される場合があります。この欄を空白のままにした場合は、ログメッセージと警告メッセージは送信されません。
8. [送信メールサーバーポート番号] 欄に、メールサーバーのポート番号を入力します。
この情報は、メールソフトの設定ウィンドウに表示される場合があります。

9. 送信メールサーバーで認証が必要な場合は、**[メールサーバーの認証]** チェックボックスを選択し、以下の操作を実行します。
 - ・ **[ユーザー名]** 欄に、送信メールサーバーのユーザー名を入力します。
 - ・ **[パスワード]** 欄に、送信メールサーバーのパスワードを入力します。

10. 警告をただちに送信する場合は、**[すぐに警告を送信]** チェックボックスを選択します。

誰かがブロックされているサイトにアクセスしようとする、メールによる警告がすぐに送信されます。

11. スケジュールに基づいてログを送信するには、以下の設定を指定します。
 - ・ **[スケジュールに基づきログを送信]** ドロップダウンリストから、スケジュールタイプを選択します。
 - ・ **[日]** ドロップダウンリストから、曜日を選択します。
 - ・ **[時刻]** ドロップダウンリストから時刻を選択し、**[a.m.]** または **[p.m.]** ラジオボタンを選択します。

12. **[適用]** ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

ログが自動的に送信されます。 指定した時刻の前にログがいっぱいになった場合、そのログは送信されます。 そのログは送信後にルーターのメモリから消去されます。 ルーターがログをメール送信できずにログバッファがいっぱいになった場合、ルーターがログを上書きします。

5

パフォーマンスの最適化

この章には次の内容が含まれます。

- ・ WiFiマルチメディアQoSを有効または無効にする
- ・ UPnP (Universal Plug N Play) によるネットワーク接続の改善
- ・ デ이지チェーン構成を有効または無効にする
- ・ インプリシットビームフォーミングの有効化または無効化
- ・ MU-MIMOの有効化または無効化
- ・ 高速ローミングを有効または無効にする

WiFiマルチメディアQoSを有効または無効にする

Wi-FiマルチメディアQoS (WMM QoS) は、無線接続におけるワイヤレス音声およびビデオトラフィックを優先順位付けします。WMM QoSは自動的に有効になっています。

WMM QoSは、音声、ビデオ、ベストエフォート、バックグラウンドという4種類のアクセスカテゴリに基づき、さまざまなアプリケーションからのワイヤレスデータパケットを優先順位付けします。WMM QoSを利用するには、アプリケーション自身とそのアプリケーションを実行するクライアントの両方でWMMが有効になっている必要があります。WMMに対応していない従来からのアプリケーションやQoSを必要としないアプリケーションは、ベストエフォートカテゴリに分類され、音声やビデオよりも低い優先度が割り当てられます。

WMM QoSを有効または無効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。
高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
5. [高度なワイヤレス設定 (2.4GHz b/g/n)] または [高度なワイヤレス設定 (5GHz 802.11a/n/ac)] セクションで、次のいずれかを実行します。
 - ・ WMMを有効にするには、[WMM (Wi-Fiマルチメディア) 設定を有効にする] チェックボックスを選択します。
 - ・ WMMを無効にするには、[WMM (Wi-Fiマルチメディア) 設定を有効にする] チェックボックスのチェックを外します。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

UPnP (Universal Plug N Play) によるネットワーク接続の改善

UPnPは、PCや周辺機器、家電製品などの機器を接続するだけでネットワーク上での利用を可能にするための技術です。UPnP機器は、ネットワーク上のその他の登録済みUPnP機器から自動的にサービスを検出することができます。

マルチプレイヤーゲーム、ピアツーピア接続、またはインスタントメッセージングやリモートアシスタンス (Windowsの機能) といったリアルタイム通信のアプリケーションを使用する場合は、UPnPを有効にしてください。

UPnPを有効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [UPnP] を選択します。
[UPnP] ページが表示されます。
5. [UPnP起動] チェックボックスを選択します。
デフォルトではこのチェックボックスは選択されています。UPnPの自動機器設定を有効、または無効に設定することができます。[UPnP起動] チェックボックスのチェックが外されている場合、ルーターはデバイスによるルーターリソースの自動制御を許可しません (ポート転送など)。
6. 通知間隔 (分) を入力します。
通知 (アドバタイズ) 間隔は、ルーターがUPnP情報をブロードキャストする間隔を指定します。1~1440分の間で設定してください。デフォルトは30分に設定されています。間隔を短く設定すると、ネットワークトラフィックは増加しますが、機器の状態を最新に保つことができます。間隔を長く設定すると、機器の状態の更新間隔は長くなりますが、ネットワークトラフィックを大幅に削減することができます。
7. 通知の有効期限をポップ数で入力します。

通知の有効期限は各UPnPパケットが送信するホップ（ステップ）数で表します。ホップ数とは、パケットがルーター間を経由するステップ数です。ホップ数は1～255の間で設定します。デフォルトの通知有効期限は4ホップに設定されており、ほとんどのホームネットワークでは問題ありません。一部の機器が正しくアップデートされていない場合は、この値を上げてみてください。

8. [適用] ボタンをクリックします。

UPnPポートマップテーブルには、ルーターにアクセスしているUPnP機器のIPアドレスと機器が開いたポート（内部および外部）が表示されます。UPnPポートマップテーブルにはどのタイプのポートが開いており、ポートが各IPアドレスに対しアクティブであるかどうかも表示します。

9. UPnPポートマップテーブルの情報を更新するには、[更新] ボタンをクリックします。

ダイジーチェーン構成を有効または無効にする

ダイジーチェーン構成を使用すると、Orbiサテライトを他のOrbiサテライトに接続できます。この機能は、Orbiデバイスを3台以上お持ちの場合のみ使用できます。この機能を無効にした場合、OrbiサテライトはOrbiルーターにのみ接続できます。この機能はデフォルトで有効になっています。

注意: この機能を有効または無効にすると、すべてのOrbiデバイスが再起動します。

ダイジーチェーン構成を有効または無効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。
高度なワイヤレス設定のページが表示されます。

5. デイジーチェーン構成を有効または無効にするには、次のいずれかを実行します。
 - ・ デイジーチェーン構成を有効にするには、[デイジーチェーン構成を有効にする] チェックボックスを選択します。
 - ・ デイジーチェーン構成を無効にするには、[デイジーチェーン構成を有効にする] チェックボックスのチェックを外します。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

インプリシットビームフォーミングの有効化または無効化

ルーターのインプリシットビームフォーミングは、ビームフォーミングに対応している無線LAN子機からの情報を使用してWiFi信号の通信状況を向上させることができる技術です。

インプリシットビームフォーミングを有効または無効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。
高度なワイヤレス設定のページが表示されます。

5. インプリシットビームフォーミングを有効または無効にするには、次のいずれかを実行します。
 - ・ インプリシットビームフォーミングを有効にするには、[インプリシットビームフォーミングを有効にする] チェックボックスを選択します。
 - ・ インプリシットビームフォーミングを無効にするには、[インプリシットビームフォーミングを有効にする] チェックボックスのチェックを外します。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

MU-MIMOの有効化または無効化

MU-MIMO (Multiuser multiple input, multiple output) は、MU-MIMOをサポートする複数の無線LANクライアントが同時にデータを転送する場合にパフォーマンスを向上させます。無線LANクライアントはMU-MIMOをサポートする必要があり、5 GHzの無線LAN帯域に接続する必要があります。

MU-MIMOを有効または無効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。
高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
5. デイジーチェーン構成を有効または無効にするには、次のいずれかを実行します。
 - ・ MU-MIMOを有効にするには、[MU-MIMOを有効にする] チェックボックスを選択します。
 - ・ MU-MIMOを無効にするには、[MU-MIMOを有効にする] チェックボックスのチェックを外します。

6. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

無線LAN経由でネットワークに接続している場合は、ネットワークから切断され、再接続する必要があります。

高速ローミングを有効または無効にする

高速ローミングを使用すると、Orbiデバイスはクライアントデバイスを最適なWiFi帯域にすばやく切り替えることができます。

高速ローミングを有効または無効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「orbilogin.com」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。
高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
5. 高速ローミングを有効または無効にするには、次のいずれかを実行します。
 - ・ 高速ローミングを有効にするには、[高速ローミングを有効にする] チェックボックスを選択します。
 - ・ 高速ローミングを無効にするには、[高速ローミングを有効にする] チェックボックスのチェックを外します。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

6

ネットワーク設定の指定

この章には次の内容が含まれます。

- ・ WAN設定の表示または変更
- ・ ダイナミックDNS
- ・ デフォルトDMZサーバーの設定
- ・ ルーター名の変更
- ・ LAN TCP/IP設定の変更
- ・ ルーターをDHCPサーバーとして使用する
- ・ ルーターのDHCPサーバー機能の無効化
- ・ 予約LAN IPアドレスの管理
- ・ カスタムの静的ルート
- ・ 基本無線LAN設定
- ・ ゲスト無線LANネットワークの設定
- ・ 高度なWiFi設定の表示または変更
- ・ 無線LANアクセスポイントとしてのルーターの使用
- ・ ルーターモードの設定
- ・ 新しいバックホールパスワードの生成
- ・ ポートグループまたはVLANタググループのブリッジの設定
- ・ British Telecom IGMPプロキシサポートを有効にする

WAN設定の表示または変更

WAN設定を表示または設定できます。非武装地帯 (DMZ) サーバーの設定、MTUサイズの変更、インターネットポートに対するルーターのpingへの応答有効化などを行うことができます。

WAN設定を表示する:

1. Orbi ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [設定] > [WAN設定] を選択します。
[WAN設定] ページが表示されます。
5. 次の設定を表示または変更します。
 - ・ **ポートスキャンとDoS保護を無効にする**: DoS保護では、SYN flood攻撃、Smurf攻撃、Ping of Death (PoD)、その他多くの攻撃からLANを保護します。特殊な状況でのみ、このチェックボックスを選択してください。
 - ・ **デフォルトDMZサーバー**: この機能は、オンラインゲームまたはビデオ会議で役立つことがあります。ファイアウォールのセキュリティが低下します。「[デフォルトDMZサーバーの設定 \(72ページ\)](#)」を参照してください。
 - ・ **インターネットポートへのPingに応答する**: ルーターの検出を許可します。診断ツールとしてのみ、または特別な理由がある場合のみ、この機能を使用してください。
 - ・ **IGMPプロキシを無効にする**: IGMPプロキシを使用すると、ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のPCが、対象となるマルチキャストトラフィックをインターネットから受信できるようになります。この機能が不要な場合は、このチェックボックスを選択して無効にします。
 - ・ **MTUサイズ (バイト)**: ほとんどのイーサネットネットワークの場合、通常のMTU値は1500バイト、PPPoE接続の場合は1492バイトです。プロバイダー接続で必要

なことが確実な場合のみ、MTUを変更してください。「[MTUサイズの変更（44ページ）](#)」を参照してください。

- ・ **NATフィルタ**: NATルーターが受信トラフィックをどう処理するかを決めるものです。[安全] なNATは、LAN上のコンピューターをインターネットからの攻撃から保護しますが、一部のインターネットゲーム、ポイントツーポイントアプリケーション、マルチメディアアプリケーションが動作しなくなることがあります。[オープン] なNATは、ファイアウォールの安全性が大幅に低下しますが、ほぼすべてのインターネットアプリケーションが動作できます。

6. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

ダイナミックDNS

プロバイダーは、各インターネットアカウントを識別するために、IPアドレスと呼ばれる番号を割り当てます。ほとんどのプロバイダーは動的に割り当てられたIPアドレスを使用します。つまり、IPアドレスはいつでも変更される可能性があるということです。IPアドレスを使用してネットワークにリモートアクセスすることはできますが、大半のユーザーは、自分のIPアドレスが何か、いつこの番号が変更されるかを知りません。

より簡単に接続できるように、ドメイン名を使用してホームネットワークにアクセスできるようにするダイナミックDNSサービスの無料アカウントを取得することができます。このアカウントを使用するには、ダイナミックDNSを使用するようにルーターを設定します。これで、ルーターのIPアドレスが変更されたときには必ずダイナミックDNSサービスプロバイダーに通知されるようになります。ダイナミックDNSアカウントにアクセスすると、ホームネットワークの現在のIPアドレスが検索され、自動的に接続されます。

プロバイダーがプライベートIPアドレス（192.168.x.x、10.x.x.xなど）を割り当てる場合、プライベートアドレスはインターネット上でルーティングされないため、ダイナミックDNSサービスを使用できません。

新しいダイナミックDNSアカウントの設定

ダイナミックDNSを設定し、無料のNETGEARアカウントに登録します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。

3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「admin」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ダイナミックDNS] を選択します。
[ダイナミックDNS] ページが表示されます。
5. [ダイナミックDNSサービスを利用する] チェックボックスを選択します。
6. [サービスプロバイダ] ドロップダウンリストで、[NETGEAR] を選択します。
7. [いいえ] を選択します。
8. [ホスト名] の欄に、URLに使用する名前を入力します。
ホスト名は、ドメイン名と呼ばれることもあります。無料のURLは、指定したホスト名を含み、mynetgear.comで終わります。例えば、MyName.mynetgear.comと指定します。
9. [メール] の欄に、アカウントに使用するメールアドレスを入力します。
10. [パスワード (6~32文字)] の欄に、アカウントのパスワードを入力します。
11. [登録] ボタンをクリックします。
12. 画面に表示される指示に従って、NETGEARダイナミックDNSサービスを登録します。
13. ルーターでダイナミックDNSが有効であることを確認するには、[ステータスを表示] ボタンをクリックします。
メッセージにダイナミックDNSのステータスが表示されます。

すでに作成したDNSアカウントの指定

すでにダイナミックDNSアカウントをNETGEARのNo-IPまたはDynに所有している場合は、そのアカウントを使用するようにルーターを設定できます。

すでにアカウントを作成した場合にダイナミックDNSを設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「orbilogin.com」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。

3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「admin」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ダイナミックDNS] を選択します。
[ダイナミックDNS] ページが表示されます。
5. [ダイナミックDNSサービスを利用する] チェックボックスを選択します。
6. [サービスプロバイダ] ドロップダウンリストで、プロバイダーを選択します。
7. [はい] ラジオボタンを選択します。
ページが変更され、[状態を表示]、[キャンセル]、[適用] ボタンが表示されます。
8. [ホスト名] の欄に、アカウントのホスト名（ドメイン名と呼ばれることもあります）を入力します。
9. No-IPまたはDynのアカウントの場合は、[ユーザー名] の欄に、アカウントのユーザー名を入力します。
10. No-IPのNETGEARアカウントの場合は、[メール] の欄に、アカウントのメールアドレスを入力します。
11. [パスワード (6~32文字)] の欄に、DDNSアカウントのパスワードを入力します。
12. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。
13. ルーターでダイナミックDNSサービスが有効であることを確認するには、[状態を表示] ボタンをクリックします。
メッセージにダイナミックDNSのステータスが表示されます。

ダイナミックDNS設定の変更

設定を変更します。

1. Orbi ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。

3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ダイナミックDNS] を選択します。
[ダイナミックDNS] ページが表示されます。
5. 必要に応じてDDNSアカウント設定を変更します。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

デフォルトDMZサーバーの設定

デフォルトDMZサーバー機能は、NATと互換性のないオンラインゲームやビデオ会議アプリケーションを使用しているときに便利です。ルーターは、このようなアプリケーションの一部を認識して正しく処理するようにプログラムされていますが、正しく機能しないアプリケーションもあります。ローカルPCのIPアドレスをデフォルトDMZサーバーとして入力していれば、そのPCでアプリケーションを正しく実行できる場合もあります。

DMZサーバーにはセキュリティ上のリスクがあります。デフォルトDMZサーバーとして指定されたPCは、ファイアウォールの保護を失い、インターネットの危険にさらされることとなります。万が一障害が発生すると、DMZサーバーのPCはネットワーク上の他のPCを攻撃するために使われる可能性もあります。

[ポート転送/ポートトリガー] ページで設定したサービスまたはローカルPCのいずれかに対する応答ではないインターネットからの受信トラフィックは、通常、ルーターによって検出、破棄されます。このトラフィックを破棄する代わりに、ルーターでネットワーク上の任意のPCに転送するように指定することができます。そのようなPCは、デフォルトDMZサーバーと呼ばれます。

デフォルトDMZサーバーを設定します。

1. Orbi ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。

4. [高度] > [設定] > [WAN設定] を選択します。
[WAN設定] ページが表示されます。
5. [デフォルトDMZサーバー] チェックボックスを選択します。
6. IPアドレスを入力します。
7. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

ルーター名の変更

ルーターのデバイス名はモデル番号になります。このデバイス名は、ネットワークを参照するとファイルマネージャーに表示されます。

ルーターのデバイス名を変更します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [設定] > [デバイス名] の順に選択します。
[デバイス名] ページが表示されます。
5. [デバイス名] の欄に、新しい名前を入力します。
6. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

LAN TCP/IP設定の変更

ルーターは、LAN側でプライベートIPアドレスを使用し、DHCPサーバーとして動作するようにあらかじめ設定されています。ルーターのデフォルトLAN IP設定は次のとおりです。

- ・ LAN IPアドレス 192.168.1.1
- ・ サブネットマスク 255.255.255.0

これらのアドレスは、プライベートネットワーク内で使用する指定プライベートアドレスの範囲内であり、ほとんどのアプリケーションに適しています。ネットワークで別のIPアドレス指定スキームが必要な場合は、設定を変更できます。

ネットワーク上の1台以上のデバイスで使用する特定のIPサブネットが必要な場合、または同じIPスキームを使用する競合サブネットを使用する場合、これらの設定を変更できます。

LAN TCP/IP設定を変更します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbi**login.com」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [設定] > [LAN設定] を選択します。
[LAN設定] ページが表示されます。
5. [IPアドレス] の欄に、IPアドレスを入力します。
6. [サブネットマスク] の欄に、ルーターのサブネットマスクを入力します。
IPアドレスと組み合わせて、サブネットマスクはどのアドレスがローカルであり、どのアドレスがゲートウェイやルーターを通さなければならないかをデバイスに知らせることができます。
7. RIP設定を変更します。

RIPは、ルーター同士のルーティング情報のやり取りを可能にします。

a. RIP通知の方向を選択します。

- ・ **両方**: ルーターは、ルーティングテーブルを定期的にブロードキャストし、受信する情報を追加します。
- ・ **送信のみ**: ルーターは、ルーティングテーブルを定期的にブロードキャストします。
- ・ **受信のみ**: ルーターは、受信するRIP情報を追加します。

b. RIPバージョンを選択します。

- ・ **無効**: これはデフォルトの設定です。
- ・ **RIPバージョン1**: この形式は、ユニバーサルにサポートされています。 正常なネットワーク設定を使用している場合、ほとんどのネットワークで利用できます。
- ・ **RIPバージョン2**: この形式では、より多くの情報を伝送します。 RIP_2BとRIP_2MはどちらもRIPバージョン2形式でルーティングデータを送信します。 RIP_2Bはサブネットブロードキャストを使用します。 RIP_2Mはマルチキャストを使用します。

8. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

ルーターのLAN IPアドレスを変更した場合は、この変更が有効になると接続が切断されます。

9. 再接続するには、ブラウザを閉じてから再起動し、ルーターにログインします。

ルーターをDHCPサーバーとして使用する

デフォルトで、ルーターはDHCPサーバーとして動作します。 ルーターは、LANに接続しているすべてのPCに対して、IPアドレス、DNSサーバーアドレス、デフォルトゲートウェイのアドレスを割り当てます。 割り当てられるデフォルトゲートウェイアドレスは、ルーターのLAN アドレスです。

これらのアドレスは、ルーターのLAN IPアドレスと同じIPアドレスサブネットに属している必要があります。 デフォルトのアドレス割り当て方式を使用した場合は192.168.1.2から192.168.1.254の範囲を指定しますが、固定アドレスを使用するデバイス用に範囲の一部を確保しておくことができます。

ルーターをDHCPサーバーとして使用し、ルーターが割り当てるIPアドレスのプールを指定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [設定] > [LAN設定] を選択します。
[LAN設定] ページが表示されます。
5. 以前にDHCPサーバーの機能を無効にした場合は、[ルーターをDHCPサーバーとして使用する] チェックボックスを選択します。
6. ルーターが割り当てるIPアドレスの範囲を指定します。
 - a. [開始IPアドレス] の欄に、ルーターと同じサブネット内でIPアドレスプールの開始アドレスを入力します。
このIPアドレスは、ルーターと同じサブネット内にある必要があります。デフォルトの開始IPアドレスは192.168.1.2です。
 - b. [終止IPアドレス] の欄に、ルーターと同じサブネット内でIPアドレスプールの終止アドレスを入力します。
このIPアドレスは、ルーターと同じサブネット内にある必要があります。デフォルトの終止IPアドレスは192.168.1.254です。
7. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。
ルーターは、DHCPを要求するLANデバイスに対し、次のパラメータを提供します。
 - ・ 指定した範囲内のIPアドレス
 - ・ サブネットマスク
 - ・ ゲートウェイIPアドレス (ルーターの LAN IPアドレス)
 - ・ DNSサーバーのIPアドレス (ルーターのLAN IPアドレス)

ルーターのDHCPサーバー機能の無効化

デフォルトで、ルーターはDHCPサーバーとして動作します。ルーターは、LANに接続しているすべてのPCに対して、IPアドレス、DNSサーバーアドレス、デフォルトゲートウェイのアドレスを割り当てます。割り当てられるデフォルトゲートウェイアドレスは、ルーターのLANアドレスです。

ネットワーク上の別のデバイスをDHCPサーバーとして使用したり、すべてのコンピューターのネットワーク設定を指定したりすることもできます。

ルーターのDHCPサーバー機能を無効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [設定] > [LAN設定] を選択します。
[LAN設定] ページが表示されます。
5. [ルーターをDHCPサーバーとして使用する]チェックボックスのチェックを外します。
6. [適用] ボタンをクリックします。
7. (オプション) このサービスが無効のときに、ネットワーク上に他のDHCPサーバーがない場合は、PCのIPアドレスを手動で設定してPCがルーターにアクセスできるようにします。

予約LAN IPアドレスの管理

LAN上のPCに予約IPアドレスを指定すると、このPCはルーターのDHCPサーバーにアクセスするたびに同じ IP アドレスを受け取ります。予約IPアドレスはIPアドレスの固定設定が必要なPCまたはサーバーに割り当てます。

IPアドレスの予約

IPアドレスを予約します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [設定] > [LAN設定] を選択します。
[LAN設定] ページが表示されます。
5. [予約アドレステーブル] セクションで、[追加] ボタンをクリックします。
6. [IPアドレス] の欄に、PCまたはサーバーに割り当てるIPアドレスを入力します。
ページの表示が変更されます。
7. ルーターのサブネットからIPアドレス（192.168.1.xなど）を選択します。
8. PCまたはサーバーのMACアドレスを入力します。

ヒント: すでにPCがネットワーク上にある場合は、そのMACアドレスを [接続デバイス] ページからコピーしてここに貼り付けることができます。

9. [適用] ボタンをクリックします。
予約アドレスが表に入力されます。
予約アドレスは、PCが次にルーターのDHCPサーバーに接続するまで割り当てられません。PCを再起動するか、またはPCのIP設定にアクセスして強制的にDHCPをリリースして更新します。

予約IPアドレスの編集

予約アドレスエントリを編集します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [設定] > [LAN設定] を選択します。
[LAN設定] ページが表示されます。
5. 予約アドレスの隣にあるラジオボタンを選択します。
6. [編集] ボタンをクリックします。
[予約アドレステーブル] ページが表示されます。
7. 設定を変更します。
8. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

予約IPアドレスエントリの削除

予約アドレスエントリを削除します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。

4. **[高度] > [設定] > [LAN設定]** を選択します。
[LAN設定] ページが表示されます。
5. 予約アドレスの隣にあるラジオボタンを選択します。
6. **[削除]** ボタンをクリックします。
アドレスが削除されます。

カスタムの静的ルート

通常は、ネットワーク上でルーターやIPサブネットを複数使用する場合を除き、静的ルートを追加する必要はありません。

静的ルートが必要とされる例として、次の場合が考えられます。

- ・ 主要なインターネットアクセスが、プロバイダーへのケーブルモデム経由である。
- ・ ホームネットワークに、勤務先企業に接続するためのISDNルーターが組み込まれている。このルーターのアドレスは192.168.1.100である。
- ・ 勤務先企業のネットワークアドレスは134.177.0.0である。

ルーターをセットアップしたときに、絶対的な静的ルートが2つ作成されました。デフォルトのルートは、プロバイダーによりゲートウェイとして作成され、2つ目の静的ルートは、すべての192.168.1.xアドレスのローカルネットワークに対して作成されました。この設定では、134.177.0.0ネットワーク上のデバイスにアクセスしようとする時、ルーターはリクエストをプロバイダーに転送します。プロバイダーはリクエストを勤務先企業に転送し、このリクエストは企業のファイアウォールでおそらく拒否されます。

この場合、静的ルートを定義し、192.168.1.100にあるISDNルーター経由で134.177.0.0にアクセスする必要があることをルーターに伝える必要があります。以下に例を示します。

- ・ **[ターゲットIPアドレス]** 欄と **[サブネットマスク]** 欄で、この静的ルートをすべての134.177.x.xアドレスに適用することを指定します。
- ・ **[ゲートウェイIPアドレス]** 欄で、これらのアドレスに対するすべてのトラフィックを192.168.1.100にあるISDNルーターに転送するよう指定します。
- ・ ISDNルーターはLAN上にあるため、メトリック値として1を指定すれば正しく機能します。
- ・ **[プライベート]** チェックボックスは、RIPが有効になっている場合のセキュリティ対策としてのみ選択します。

静的ルートの設定

静的ルートを設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [静的ルート] を選択します。
[静的ルート] ページが表示されます。
5. [追加] ボタンをクリックします。
ページの表示が変更されます。
6. [ルート名] 欄に、この静的ルートの名前を入力します（識別目的のみ）。
7. LANのみにアクセスを制限するには、[プライベート] チェックボックスを選択します。
[プライベート] が選択されている場合、この静的ルートはRIPで報告されません。
8. [アクティブ] チェックボックスを選択し、このルートを有効にします。
9. 目的地の [ターゲットIPアドレス] を入力します。
10. この目的地のIPサブネットマスクを入力します。
目的地がシングルホストの場合、**255.255.255.255** と入力します。
11. ゲートウェイIPアドレスを入力します。
このアドレスは、ルーターと同じLANセグメントにある必要があります。
12. [メトリック] の欄に1~15の数字を入力します。
この値は、あなたのネットワークと目的地との間にあるルーターの数を指します。通常は2または3に設定すれば正しく機能しますが、直接接続の場合は1に設定します。
13. [適用] ボタンをクリックします。

静的ルートが追加されます。

静的ルートの編集

静的ルートを編集します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [静的ルート] を選択します。
[静的ルート] ページが表示されます。
5. 表から、目的のルートのラジオボタンを選択します。
6. [編集] ボタンをクリックします。
[静的ルート] ページの内容が変わります。
7. ルート情報を編集します。
8. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

静的ルートの削除

静的ルートを削除します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。

4. [高度] > [高度な設定] > [静的ルート] を選択します。
[静的ルート] ページが表示されます。
5. 表から、目的のルートのラジオボタンを選択します。
6. [削除] ボタンをクリックします。
表からルートが削除されます。

基本無線LAN設定

ルーターとサテライトには、同じ無線LANネットワーク名 (SSID) と同じ無線LANセキュリティがあらかじめ設定されています。SSIDとパスワードは、ルーターのラベルおよびサテライトのラベルで確認できます。ルーターにログインし、無線LAN設定を変更した場合、ルーターは新しい設定を自動的にサテライトに送信します。

無線LAN設定を変更する場合は、新しい設定をメモしておき、簡単に探せる安全な場所に保管してください。

PCまたはモバイルデバイスで無線LAN接続を使用している場合、ネットワーク名 (SSID) やその他の無線LANセキュリティ設定を変更すると、[適用] ボタンをクリックしたときに接続が切断されます。この問題を回避するため、有線接続を持つPCでルーターにアクセスしてください。

基本無線LAN設定を指定します。

1. Orbi ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. Orbi 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [ワイヤレス] を選択します。
[ワイヤレス設定] ページが表示されます。
5. ネットワーク名 (SSID) はデフォルトのままにしておくことを推奨します。変更するには、新しい名前を [ネットワーク名 (SSID)] の欄に入力します。

名前は32文字までで、大文字と小文字を区別します。デフォルトのSSIDはランダムに生成され、ルーターのラベルに記載されています。名前を変更する場合は、新しい名前を書き留めて、安全な場所に保管してください。

6. 無線LANチャンネルを変更するには、番号を [チャンネル] ドロップダウンリストで選択します。

一部の地域では、利用できないチャンネルがあります。干渉（接続が失われたり、データ転送速度が低下したりする）が発生しない限り、チャンネルを変更しないでください。干渉が発生する場合は、別のチャンネルを試してみてください。

複数のアクセスポイントを使用する場合は、干渉を抑えるために近隣のアクセスポイントで異なるチャンネルを使用することを推奨します。近隣のアクセスポイント間で推奨されるチャンネル間隔は、4チャンネルです（例えば、チャンネル1と5や、6と10を使用します）。

7. [適用] ボタンをクリックします。

設定が保存されます。ルーターは新しい設定をサテライトに送信します。

無線LAN接続の使用中にSSIDを変更すると、ネットワークから切断されます。

8. 新しい設定の無線LANネットワークに接続できることを確認します。
無線LANを使用して接続できない場合は、次の点を確認してください。

- ・ 無線LAN対応PCまたはモバイルデバイスがエリア内の別の無線LANネットワークに接続していませんか？一部の無線LAN子機は、最初に検出されたネットワークに自動的に接続します。
- ・ ご利用の無線LAN子機が（設定を変更する前の）古い設定でネットワークに接続していませんか？その場合は、無線LAN子機の接続情報を更新し、ネットワークの現在の設定と一致させます。

無線LANのパスワードまたはセキュリティレベルの変更

ルーターとサテライトには、同じ無線LANネットワーク名（SSID）と同じ無線LANセキュリティがあらかじめ設定されています。SSIDとパスワードは、ルーターのラベルおよびサテライトのラベルで確認できます。ルーターにログインし、無線LAN設定を変更した場合、ルーターは新しい設定を自動的にサテライトに送信します。セキュリティを無効にしないことをお勧めします。

WPA設定を変更します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. Orbi管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [ワイヤレス] を選択します。
[ワイヤレス設定] ページが表示されます。
5. [セキュリティオプション] で、WPAオプションを選択します。
 - ・ WPA2-PSK [AES]
 - ・ WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]

WPA2は最も強力なセキュリティの規格ですが、一部の古いPCや無線LANデバイスでは使用できません。ネットワークに古いPCや無線LANデバイスが含まれる場合は、**WPA-PSK [TKIP] + WPA2-PSK [AES]** ラジオボタンを選択してください。

[パスワード(ネットワークキー)] 欄が表示されます。
6. [パスワード(ネットワークキー)] の欄に、使用するネットワークキー（パスワード）を入力します。
8～63文字のテキスト文字列です。
7. 新しいパスワードをメモしておき、将来参照できるように安全な場所に保管します。
8. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

ゲスト無線LANネットワークの設定

ゲストWiFiネットワークを設定する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. Orbi管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. **[ゲストネットワーク]** を選択します。
[ゲストネットワーク設定] ページが表示されます。
5. **[ゲストネットワークを有効にする]** チェックボックスを選択します。
6. **[SSIDブロードキャストを有効にする]** チェックボックスは選択したままにします。
ルーターがネットワーク名 (SSID) をブロードキャストできるようにすると、ネットワークを見つけて接続するのが容易になります。このチェックボックスのチェックを外した場合は、ネットワーク名 (SSID) が非表示になります。
7. ネットワーク名を変更するには、新しい名前を **[ネットワーク名 (SSID)]** の欄に入力します。
名前は32文字までで、大文字と小文字を区別します。名前を変更する場合は、新しい名前を書き留めて、安全な場所に保管してください。
8. **[ゲストが相互に表示され、ローカルネットワークにアクセスすることを許可]** チェックボックスを選択または選択解除します。
プライバシー保護のために、このチェックボックスはデフォルトでチェックが外されています。つまり、ゲストはインターネット接続を使用できますが、Orbiネットワークに接続されたPCやデバイスにはアクセスできません。
9. **セキュリティオプション** を選択します。
WPA2は最も強力なセキュリティの規格で、これがデフォルトの設定になっています。
10. **[適用]** ボタンをクリックします。

設定が保存されます。ルーターは新しい設定をサテライトに送信します。

高度なWiFi設定の表示または変更

高度なWiFi設定を表示または変更する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。
高度なワイヤレス設定のページが表示されます。

注意: バックホールパスワードは、ルーターとサテライト間の無線LAN通信で使用されるセキュリティキーです。新しいバックホールパスワードの作成については、[新しいバックホールパスワードの生成](#) (90ページ) を参照してください。

5. [地域] リストで地域を選択します。
この項目は変更できません。
6. SSIDブロードキャストを管理するには、[SSIDブロードキャストを有効にする] チェックボックスを選択、または選択を解除します。
このチェックボックスが選択されている場合、ルーターはネットワーク名をブロードキャストします。PCや無線LAN子機で無線LANのネットワークをスキャンしたときにネットワーク名 (SSID) が表示されるようになります。
7. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

無線LANアクセスポイントとしてのルーターの使用

ルーターを別のルーターまたはゲートウェイと同じローカルネットワーク上のアクセスポイント（AP）として動作するように設定できます。

たとえば、Orbiルーターを無線LANアクセスポイントとして使用し、すでにインターネットサービスに使用しているゲートウェイまたはモデムルーターに接続することができます。この場合、ゲートウェイまたはモデムルーターの設定を変更する必要はありません。

インターネット接続の設定後にOrbiルーターをAPとして設定する:

1. LANケーブルを使用して、このルーターのインターネットポートを既存のルーターまたはゲートウェイのLANポートに接続します。
2. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
3. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
4. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
5. [高度] > [高度な設定] > [ルーター/APモード] を選択します。
[ルーター/APモード] ページが表示されます。
6. [APモード] ラジオボタンを選択します。
ページの表示が変更されます。
7. IPアドレスの設定を選択します。
 - ・ **既存のルーターから動的に取得**: このルーターがAPモードのときに、ネットワーク上の別のルーターがこのルーターにIPアドレスを割り当てます。
 - ・ **固定IPアドレスを使用(推奨しません)**: このルーターがAPモードのときに、特定のIPアドレスを手動で割り当てる場合はこの設定を使用します。このオプションを使用するには、ネットワークに関する詳しい知識が必要です。

注意: ネットワーク上の他のルーターやゲートウェイとの干渉を避けるため、ルーターごとに異なる無線LAN設定を使用することを推奨します。他のルーターやゲートウェイの無線LANをオフにし、無線LANクライアントのアクセスにはOrbiのみを使用することもできます。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。
ルーターのIPアドレスが変更され、切断されます。
9. 再接続するには、ブラウザを閉じてから再起動し、「**orbilogin.com**」と入力します。

ルーターモードの設定

アクセスポイントとして設定したルーターを、ルーターに戻すことができます。

Orbiルーターをルーターとして設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの**[基本]**の**[ホーム]**ページが表示されます。
4. **[高度]** > **[高度な設定]** > **[ルーター/APモード]** を選択します。
[ルーター/APモード] ページが表示されます。
5. **[ルーターモード]** ラジオボタンを選択します。
ページの表示が変更されます。
6. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

新しいバックホールパスワードの生成

バックホールパスワードは、ルーターとサテライト間の無線LAN通信で使用されるセキュリティキーです。新しいバックホールパスワードを生成できます。新しいバックホールパスワードを生成したら、**Sync**ボタンを使用して新しいバックホール接続を構築し、ルーターとサテライトが無線LANを使用して互いに通信できるようにする必要があります。

新しいバックホールパスワードを生成する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ワイヤレス設定] を選択します。
高度なワイヤレス設定のページが表示されます。
5. [バックホールパスワード] セクションで [生成] ボタンをクリックします。
ルーターで新しいバックホールパスワードが生成されます。

ポートグループまたはVLANタググループのブリッジの設定

IPTVなどの一部のデバイスは、ルーターのネットワークアドレス変換 (NAT) サービスまたはファイアウォールの背後では機能しません。ご利用のプロバイダー (ISP) の要求に基づいて、それらの機器から直接プロバイダーのネットワークに接続する場合は、機器とルーターのインターネットポートの間でブリッジを有効にするか、新しいVLANタググループをブリッジに追加することができます。

注意: プロバイダーからIPTVとインターネットサービスのブリッジの設定方法に関する指示がある場合は、その指示に従ってください。

注意: この機能は、ルーターがルーターモードの場合にのみサポートされています。

ポートグループのブリッジの設定

ルーターの有線LANポートに接続されているデバイスの中にIPTVデバイスが含まれている場合は、プロバイダーから、ルーターのインターネットインターフェイス用にポートグループのブリッジを設定するように求められることがあります。

ポートグループのブリッジを設定すると、IPTVデバイスとルーターのインターネットポートの間で送信されるパケットがルーターのネットワークアドレス変換 (NAT) サービスによって処理されないようにできます。

ポートグループを設定してブリッジを有効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. Orbi管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [VLAN/ブリッジ設定] を選択します。
[VLAN/ブリッジ設定] ページが表示されます。
5. [VLAN/IPTVセットアップを有効にする] チェックボックスを選択します。
ページが展開されます。
6. [ブリッジグループごと] ラジオボタンを選択します。
セクションが展開されます。
7. デバイスが接続されているルーターのLANポートに対応する [有線ポート] のチェックボックスを選択します。
少なくとも1つの [有線ポート] チェックボックスを選択する必要があります。複数のチェックボックスを選択できます。
8. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

VLANタググループのブリッジの設定

ルーターの有線LANポートに接続されているデバイスの中にIPTVデバイスが含まれている場合は、プロバイダーから、ルーターのインターネットインターフェイス用にVLANタググループのブリッジを設定するように求められることがあります。

IPTVのサービスに加入している場合、ルーターはインターネットトラフィックとIPTVトラフィックの間でVLANタグを区別することが必要になる場合があります。VLANタググループのブリッジを設定すると、IPTVデバイスとルーターのインターネットポートの間で送信されるパケットがルーターのネットワークアドレス変換（NAT）サービスによって処理されないようになります。

ブリッジにVLANタググループを追加し、VLANタググループごとにVLAN IDと優先度の値を割り当てることができます。

VLANタググループを追加してブリッジを有効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. Orbi管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [VLAN/ブリッジ設定] を選択します。
[VLAN/ブリッジ設定] ページが表示されます。
5. [VLAN/IPTVセットアップを有効にする] チェックボックスを選択します。
ページが展開されます。
6. [VLANタググループごと] ラジオボタンを選択します。
セクションが展開されます。
7. [追加] ボタンをクリックします。
[VLANルールの追加] ページが表示されます。
8. 次の表の説明に従って設定を指定します。

項目	説明
名前	VLANタググループの名前を入力します。 使用できるのは最大で10文字です。
VLAN ID	1~4094の値を1つ入力します。
優先度	0~7の値を1つ入力します。
<p>有線LANポートのチェックボックスを選択します。</p> <p>お使いのデバイスがルーターのLANポートに接続されている場合は、デバイスが接続されているルーターのLANポートに対応するポートのチェックボックスを選択します。</p> <p>少なくとも1つのLANポートを選択してください。複数のポートを選択できます。</p>	

9. **[追加]** ボタンをクリックします。
VLANタググループが追加されます。
10. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

British Telecom IGMPプロキシサポートを有効にする

この機能の使用は、British Telecom (BT) のインターネットプロトコルテレビジョン (IPTV) サービスに限定する必要があります。この機能は、TalkTalk IPTVサービスで動作することもあります。

BT IGMPプロキシサポートを有効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. Orbi管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの**[基本]**の**[ホーム]**ページが表示されます。
4. **[高度]** > **[設定]** > **[WAN設定]** を選択します。

[WAN設定] ページが表示されます。

5. **[IGMPプロキシを無効にする]** チェックボックスのチェックを外します。
6. **[British Telecom (BT) IGMPプロキシをサポート]** チェックボックスを選択します。
7. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

7

ネットワークの管理

この章では、ご利用のルーターとホームネットワークを維持管理するためのルーター設定を説明しています。

この章には次の内容が含まれます。

- ・ ルーターおよびサテライトのファームウェアのアップデート
- ・ 管理者パスワードの変更
- ・ パスワード復元の設定
- ・ 管理者パスワードの復元
- ・ ルーターステータスの表示
- ・ サテライトステータスの表示
- ・ ルーターアクティビティのログの表示と管理
- ・ ネットワークに接続されているデバイスの表示またはデバイス情報の編集
- ・ ネットワークに接続されているサテライトの表示またはサテライト情報の編集
- ・ OrbiアウトドアサテライトのLED照明の管理
- ・ トラフィックメーター
- ・ ルーター設定ファイルの管理
- ・ リモート管理の設定
- ・ リモートアクセスの使用
- ・ Orbiアプリを使用したルーターへのリモートアクセス

ルーターおよびサテライトのファームウェアのアップデート

ルーターのWeb管理者ページで新しいファームウェアがあるかを確認しアップデートすることができます。または、ファームウェアを手動でアップデートすることもできます。

ファームウェアのアップデートを確認する

最新ファームウェアをチェックしてルーターとサテライトを更新する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [管理者] > [ファームウェア更新] を選択します。
[ファームウェア更新] ページが表示されます。
5. [確認] ボタンをクリックします。
ルーターは、ルーターとサテライトに利用できる新しいファームウェアがあるかどうかを確認します。
6. 利用できる新しいファームウェアがある場合、[すべてアップデート] ボタンをクリックします。
ルーターがルーターとサテライトのファームウェアを見つけてダウンロードし、アップデートを開始します。

注意: ファームウェアの破損を回避するため、アップデートを中断しないでください。例えば、ブラウザを閉じたり、リンクをクリックしたり、新しいページを読み込んだりしないでください。ルーターまたはサテライトの電源を切らないでください。

アップデートが完了すると、ルーターとサテライトは再起動します。アップデートプロセスは通常、約1分かかります。新しいファームウェアのリリースノートを読み、アップデート後にルーターの再設定が必要かどうかを確認してください。

ファームウェアの手動アップデート

サテライトがルーターに接続されている場合、ルーターの管理者ページからサテライトのファームウェアを手動でアップロードできます。

警告: 必ず先にサテライトのファームウェアをアップデートしてから、ルーターをアップデートすることをお勧めします。また、ルーターとサテライトで同時にファームウェアをアップデートしないでください。

Orbiルーターとサテライトのファームウェアを手動でアップデートするには、以下の手順に従います。

1. <https://www.jp.netgear.com/support/>にアクセスし、Orbiルーターとサテライト両方のファームウェアをダウンロードします。
2. Orbiサテライトのファームウェアをアップデートします。
詳細については、「[サテライトファームウェアの手動アップデート](#) (97ページ)」を参照してください。
3. Orbiルーターのファームウェアをアップデートします。
詳細については、「[ルーターのファームウェアを手動でアップデートする](#) (98ページ)」を参照してください。

サテライトファームウェアの手動アップデート ルーターのファームウェアをアップデートする前に、サテライトのファームウェアをアップデートすることをお勧めします。

サテライトのファームウェアを手動でアップデートします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「orbilogin.com」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [管理者] > [ファームウェア更新] > [手動アップデート] を選択します。

[ファームウェア更新] ページが表示されます。

5. サテライトのモデル名の横にあるチェックボックスを選択します。
6. [アップデート] ボタンをクリックします。
Orbiサテライトの [ルーターのアップグレード] ウィンドウが開きます。
7. 管理者パスワードの入力を求められたら、ルーターと同じパスワードを入力します。
8. [参照] ボタンをクリックします。
9. ダウンロードしたサテライトファームウェアファイルを見つけて選択します。
ファームウェアファイル名は .img または .chk で終了します。
10. [アップロード] ボタンをクリックします。
プロセスが完了するまで数分かかります。
11. Orbiサテライトのアップデートが終了したら、[ステータス] を選択して、[ステータス] ページのファームウェアバージョンを再確認します。
Orbiサテライトでファームウェアが更新されました。

ルーターのファームウェアを手動でアップデートする サテライトのファームウェアをアップデートした後、ルーターのファームウェアをアップデートすることをお勧めします。

ルーターのファームウェアを手動でアップデートします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [管理者] > [ファームウェア更新] > [手動アップデート] を選択します。
[ファームウェア更新] ページが表示されます。
5. [参照] ボタンをクリックします。
6. ダウンロードしたルーターファームウェアファイルを見つけて選択します。
ファームウェアファイルは、ファイル名の末尾が .img となっています。

7. [アップロード] ボタンをクリックします。
ファームウェアがアップデートされます。

管理者パスワードの変更

この機能では、ユーザー名「admin」を使用してルーターにログインする際に使用するデフォルトのパスワードを変更できます。このパスワードは、ワイヤレスアクセスに使用するパスワードとは異なります。ルーターのラベルには、無線LANアクセス用の固有の無線LANネットワーク名（SSID）とパスワードが記載されています。

注意: ユーザー名「admin」の管理者パスワードを安全なパスワードに変更してください。どの言語の辞書にある単語も使用せず、大文字と小文字、数字、記号を混在させることを推奨します。使用できるのは最大で30文字です。

ユーザー名adminのパスワードを設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [管理者] > [新しいパスワード] を選択します。
[新しいパスワード] ページが表示されます。
5. 現在のパスワードを入力し、新しいパスワードを2か所に入力します。
6. パスワードを復元できるように、[パスワード復元を有効にする] チェックボックスを選択することができます。
パスワード復元を有効にすることを推奨します。
7. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

パスワード復元の設定

ルーター管理者のパスワードを変更した場合にパスワードの復元を有効にすることを推奨します。そうすれば、パスワードを忘れても復元できます。この復元プロセスは、Internet Explorer、Firefox、Chromeのブラウザでサポートされますが、Safariブラウザではサポートされません。

パスワードの復元を設定します。

1. ネットワークに接続されているPCや無線LAN子機でWebブラウザを開きます。
2. 「www.orbilogin.com」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。デフォルトのパスワードは「**password**」です。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [管理者] > [新しいパスワード] を選択します。
[新しいパスワード] ページが表示されます。
5. [パスワード復元を有効にする] チェックボックスを選択します。
6. セキュリティに関する2つの質問を選択し、それらの回答を入力します。
7. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

管理者パスワードの復元

ルーター管理者のパスワードを変更した場合にパスワードの復元を有効にすることを推奨します。そうすれば、パスワードを忘れても復元できます。この復元プロセスは、Internet Explorer、Firefox、Chromeのブラウザでサポートされますが、Safariブラウザではサポートされません。

パスワードを復元します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「www.orbilogin.com」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。

3. **[キャンセル]** ボタンをクリックします。
パスワードの復元が有効になっている場合、セキュリティに関する2つの質問が表示されます。
4. セキュリティに関する質問に回答します。
5. ルーターのシリアル番号を入力します。
シリアル番号は、ルーターのラベルに記載されています。
6. **[続ける]** ボタンをクリックします。
復元されたパスワードが表示されます。
7. **[もう一度ログイン]** ボタンをクリックします。
ログインウィンドウが開きます。
8. 復元されたパスワードを使って、ルーターにログインします。

ルーターステータスの表示

ルーターステータスと使用状況の情報を表示するには:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの**[基本]**の**[ホーム]**ページが表示されます。
4. **[高度]** タブをクリックします。
高度のホームページにルーターのステータスが表示されます。

インターネットポート統計の表示

インターネットポート統計を表示します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] タブをクリックします。
5. [インターネットポート] のカテゴリで、[統計を表示] ボタンをクリックします。
ウィンドウが開き、以下の情報が表示されます。
 - ・ **システムの稼働時間**: ルーターが最後に再起動されてからの経過時間です。
 - ・ **ポート**: WAN (インターネット) ポートとLAN (イーサネット) ポートの統計です。各ポートについて、画面に以下の情報が表示されます。
 - **ステータス**: ポートのリンクステータスです。
 - **送信パケット数**: リセットまたは手動でのクリア後に、このポートで送信されたパケットの数です。
 - **受信パケット数**: リセットまたは手動でのクリア後に、このポートで受信されたパケットの数です。
 - **コリジョン**: リセットまたは手動でのクリア後に、このポートで発生したコリジョンの数です。
 - **送信速度**: インターネットポートやLANポートで使用された現在の送信速度です。
 - **受信速度**: インターネットポートやLANポートで使用された現在の受信速度です。
 - **稼働時間**: このポートが接続されてからの経過時間です。
 - **サンプリング間隔**: このページで統計が更新される間隔です。

6. サンプリングの周期を変更するには、[サンプリング間隔] 欄に時間を秒単位で入力し、[間隔の設定] ボタンをクリックします。
7. 完全にサンプリングを停止するには、[停止] ボタンをクリックします。

インターネット接続ステータスの確認

インターネット接続ステータスを確認します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] タブをクリックします。
5. [インターネットポート] のカテゴリで、[接続ステータス] ボタンをクリックします。
[接続ステータス] ウィンドウが開き、以下の情報が表示されます。
 - ・ **IPアドレス**: ルーターに割り当てられた IP アドレスです。
 - ・ **サブネットマスク**: ルーターに割り当てられたサブネットマスクです。
 - ・ **デフォルトゲートウェイ**: ルーターが通信するデフォルトゲートウェイの IP アドレスです。
 - ・ **DHCPサーバー**: ルーターに接続されたすべてのPCに対し TCP/IP 構成を提供する DHCP サーバーの IP アドレスです。
 - ・ **DNSサーバー**: ネットワーク名からIPアドレスへの変換機能を提供するDNSサーバーのIPアドレスです。
 - ・ **リース取得**: リースが取得された日付と時刻です。
 - ・ **リース期限**: リースが期限切れになる日付と時刻です。
6. 全項目のステータスを0に戻すには、[リリース] ボタンをクリックします。

7. ページを更新するには、[更新] ボタンをクリックします。
8. このページを終了するには、[ウィンドウを閉じる] ボタンをクリックします。

サテライトステータスの表示

サテライトのステータスを表示するには、サテライトがOrbiネットワークに接続されている必要があります。

サテライトのステータスを表示する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [接続デバイス] を選択します。
[接続デバイス] ページが表示されます。
5. [接続サテライト] セクションで、サテライトのIPアドレスを捜します。
6. WebブラウザのアドレスバーにサテライトのIPアドレスを入力します。
ログインウィンドウが開きます。
7. ルーターで入力した同じ管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
サテライトのステータスが表示されます。

ルーターアクティビティのログの表示と管理

ログは、アクセスしたサイトやアクセスしようとしたサイト、その他のルーターアクティビティの詳細な記録です。ログには最大256のエントリが保存されます。

ログを表示および管理します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [管理者] > [ログ] を選択します。
[ログ] ページには以下の情報が表示されます。
 - ・ **日付と時刻**: ログエントリが記録された日付と時刻です。
 - ・ **ソースIP**: このログの発生元のデバイスのIPアドレスです。
 - ・ **ターゲットアドレス**: アクセスしたWebサイトやニュースグループの名前またはIPアドレスです。
 - ・ **アクション**: インターネットアクセスがブロックされた、または許可されたなどの、発生したアクションです。
5. ログページを更新するには、[更新] ボタンをクリックします。
6. ログを消去するには、[ログを消去] ボタンをクリックします。
7. ログを直ちにメールで送信するには、[ログ送信] ボタンをクリックします。

ネットワークに接続されているデバイスの表示またはデバイス情報の編集

Orbiネットワークに接続されているデバイスを表示できます。また、ルーターのWebインターフェイスの [接続デバイス] ページに表示されている情報を編集することもできます。

ネットワークに接続されているデバイスの表示

現在Orbiネットワークに接続されているすべてのPCやデバイスを表示できます。

ネットワークに接続されたデバイスを表示します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. **[接続デバイス]** を選択します。
[接続デバイス] ページの [接続デバイス] セクションに、次の情報が表示されます。
 - ・ **デバイス名**: このセクションには、デバイスモデル、名前、タイプ、およびIPアドレスが表示されます。
 - ・ **IPアドレス**: このセクションには、デバイスのIPアドレスが表示されます。ルーターはネットワークに接続したときに各デバイスにIPアドレスを割り当てるので、デバイスのIPアドレスは変わることがあります。
 - ・ **MACアドレス**: このセクションには、デバイスのMACアドレスが表示されます。各デバイスの一意的MACアドレスで、変更されることはありません。
 - ・ **接続タイプ**: このセクションには、デバイスが有線イーサネットを介してOrbiネットワークに接続されるのか、無線LANを介して接続されるのかが表示されます。
 - ・ **接続済みOrbi**: このセクションには、デバイスが接続されているOrbiルーターまたはサテライトが表示されます。また、OrbiルーターまたはサテライトのMACアドレスも表示されます。
5. ページを更新するには、**[更新]** ボタンをクリックします。

[接続デバイス] ページでのデバイス情報の編集

[接続デバイス] ページに表示された、接続されているデバイスのモデルと名前を変更できます。

ネットワークに接続されたデバイスを表示します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. **[接続デバイス]** を選択します。
[接続デバイス] ページが表示されます。
5. ページに表示されている接続されたデバイスを選択します。
デバイスの編集ページが表示されます。
6. デバイスのモデルを変更するには、**[Devicemodel]** 欄に新しいモデルを入力します。
7. デバイス名を変更するには、**[デバイス名]** 欄に新しい名前を入力します。
8. デバイスのタイプを変更するには、**[デバイスのタイプ]** ドロップダウンリストからデバイスを選択します。
9. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

ネットワークに接続されているサテライトの表示またはサテライト情報の編集

Orbiネットワークに接続されているサテライトを表示できます。また、ルーターのWebインターフェイスの [接続デバイス] ページに表示されている情報を編集することもできます。

ネットワークに接続されているサテライトの表示

Orbiネットワークに接続されているサテライトを表示できます。

ネットワークに接続されているサテライトを表示します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. **[接続デバイス]** を選択します。
[接続デバイス] ページの [接続サテライト] セクションに、次の情報が表示されます。
 - ・ **デバイス名**: このセクションには、サテライトモデル、名前、およびIPアドレスが表示されます。
 - ・ **IPアドレス**: このセクションには、サテライトのIPアドレスが表示されます。ルーターはネットワークに接続したときに各サテライトにIPアドレスを割り当てるので、サテライトのIPアドレスは変わることがあります。
 - ・ **MACアドレス**: このセクションには、サテライトのMACアドレスが表示されます。各サテライトの一意のMACアドレスで、変更されることはありません。
 - ・ **接続タイプ**: このセクションには、サテライトがLANケーブルでOrbiネットワークに接続されるのか、WiFiで接続されるのかが表示されます。
 - ・ **接続済みOrbi**: このセクションには、サテライトが接続されているOrbiルーターまたはサテライトが表示されます。また、OrbiルーターまたはサテライトのMACアドレスも表示されます。
 - ・ **バックホールステータス**: このセクションには、サテライトとルーターまたは別のサテライトとの間のバックホール接続のステータスが表示されます。
5. ページを更新するには、**[更新]** ボタンをクリックします。

[接続デバイス] ページに表示されるサテライト情報の編集

[接続デバイス] ページに表示されるサテライトのモデルおよび名前を変更できます。

[接続デバイス] ページに表示されるサテライトのモデルまたは名前を変更する:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. **[接続デバイス]** を選択します。
[接続デバイス] ページが表示されます。
5. ページに表示されている接続されたデバイスを選択します。
デバイスの編集ページが表示されます。
6. デバイスのモデルを変更するには、**[Devicemodel]** 欄に新しいモデルを入力します。
7. デバイス名を変更するには、**[デバイス名]** 欄に新しい名前を入力します。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

OrbiアウトドアサテライトのLED照明の管理

Orbiアウトドアサテライトをお持ちの場合は、LED照明のオン/オフを切り替えたり、LEDの明るさを調整したり、照明をオンにする時間をスケジュールしたりすることができます。また、サテライトの**Sync**ボタンを有効または無効にすることもできます。

Syncボタンを有効にする

サテライトとOrbi Proルーターの同期後は、セキュリティのため、サテライトの**Sync**ボタンが無効になります。**Sync**ボタンを押したときに、サテライト下部のLEDがマゼンタ色に点滅する場合は、**Sync**ボタンが無効になっていることを示しています。**Sync**ボタンを再度有効にするには、Orbi Proルーターの管理者ページ (orbilogin.com) にログインして [接続デバイス] ページに移動します。

サテライトを同期して屋外に設置した後は、権限のないユーザーがサテライトに接続するのを防ぐために**Sync**ボタンを無効にすることをお勧めします。

ルーターのWebインターフェイスを使用してサテライトのSyncボタンを有効化にする:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。デフォルトのパスワードは「**password**」です。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [接続デバイス] を選択します。
[接続デバイス] ページが表示されます。
5. サテライトを選択します。
デバイスの編集ページが表示されます。
6. Syncボタンセクションで[無効化] ボタンをクリックします。
Syncボタンが有効になります。これで、**Sync**ボタンを使用してサテライトをルーターに同期させることができます。

サテライトのLED照明のオン/オフ

サテライトの上部および下部のLEDを使用して、屋外エリアを照らすことができます。

上部および下部のLED照明のオン/オフを切り替えるには:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。デフォルトのパスワードは「**password**」です。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [接続デバイス] を選択します。
[接続デバイス] ページが表示されます。

5. サテライトを選択します。
デバイスの編集ページが表示されます。
6. LED照明をオンにするには、[LEDオン/オフ] セクションで [オフ] ボタンをクリックします。
上部および下部のLEDがオンになります。
7. LED照明をオフにするには、[LEDオン/オフ] セクションで [オン] ボタンをクリックします。
上部および下部のLEDがオフになります。
8. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

LED照明の明るさの設定

サテライトのLED照明をオンにした後、明るさのパーセンテージを設定できます。

サテライトのLED照明の明るさを設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [接続デバイス] を選択します。
[接続デバイス] ページが表示されます。
5. サテライトを選択します。
デバイスの編集ページが表示されます。
6. **LEDオン/オフ** スライダーがオンになっていることを確認します。
7. LED照明がオフになっている場合は、**LEDオン/オフ** スライダーをクリックしてLEDをオンにします。
上部および下部のLEDがオンになります。

8. **[LED照明の明るさ]** メニューからLED照明の明るさのパーセンテージを選択します。
9. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

LED照明をオンにする時間のスケジュール

サテライトのLED照明をオンにする時間をスケジュールできます。

LED照明をスケジュールする:

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの**[基本]**の**[ホーム]**ページが表示されます。
4. **[接続デバイス]**を選択します。
[接続デバイス]ページが表示されます。
5. サテライトを選択します。
デバイスの編集ページが表示されます。
6. **LEDオン/オフスライダーがオンになっていることを確認**します。
7. LED照明がオフになっている場合は、**LEDオン/オフスライダー**をクリックしてLEDをオンにします。
上部および下部のLEDがオンになります。
8. **[LED照明のスケジュール]** チェックボックスを選択します。
9. **[新しい期間を追加]** ボタンをクリックします。
[LED照明のスケジュール] ページが表示されます。

10. 照明スケジュールの設定を指定します。
 - ・ **開始**: ドロップダウンリストから開始時間を選択します。
 - ・ **終了**: ドロップダウンリストから終了時間を選択します。
 - ・ **繰り返しパターン**: 選択した特定期間、毎日LED照明をオンにする場合に指定します。
11. **[適用]** ボタンをクリックします。

デバイスの編集ページが表示されます。スケジュールが追加されます。
12. **[適用]** ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

トラフィックメーター

トラフィックメーターを使用すると、ルーターのインターネットポートを通過するインターネットトラフィックの量を監視することができます。トラフィック量の制限を設定したりできます。

インターネットトラフィックを監視します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。

ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの **[基本]** の **[ホーム]** ページが表示されます。
4. **[高度]** > **[高度な設定]** > **[トラフィックメーター]** を選択します。

[トラフィックメーター] ページが表示されます。
5. **[トラフィックメーターを有効にする]** チェックボックスを選択します。

6. インターネットトラフィックの容量を制御するには、トラフィック容量の制御または接続時間制御のいずれかの機能を使用できます。
 - ・ **[トラフィック容量の制御]** ラジオボタンを選択し、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **制限なし**: トラフィック容量の限度に達しても制限を適用しません。
 - **ダウンロードのみ**: 制限は受信トラフィックにのみ適用されます。
 - **双方向**: 制限は受信と送信双方のトラフィックに適用されます。
 - ・ **[接続時間制御]** ラジオボタンを選択し、許可する時間数を **[月次制限]** 欄に入力します。
7. 新しい接続を作成するとプロバイダーが追加のデータ容量に対して課金する場合は、**[各接続のデータ容量をラウンドアップ]** 欄に、その追加データ容量をMB単位で入力します。
8. **[トラフィックカウンター]** セクションで、特定の日時に始まるようにトラフィックカウンターを設定します。

トラフィックカウンターを直ちに始めるには、**[カウンターをリセットする]** ボタンをクリックします。
9. ルーターで、MB数または時間数の月次上限に達する前に警告メッセージを発行する場合は、**[トラフィック制御]** 欄に数値を入力します。

デフォルトの値は0で、警告メッセージは発行されません。
10. 上限に達したときにインターネット接続を停止するには、**[インターネット接続を切断し、無効にする]** チェックボックスを選択します。
11. **[適用]** ボタンをクリックします。

[インターネットトラフィック統計] セクションは、データトラフィックの監視に役立ちます。
12. **[インターネットトラフィック統計]** セクションを更新するには、**[更新]** ボタンをクリックします。
13. ルーターでデータトラフィックに関する詳細情報を表示し、サンプリング間隔を変更するには、**[インターネットトラフィックステータス]** ボタンをクリックします。

ルーター設定ファイルの管理

ルーターの設定は、ルーターの設定ファイルに保存されています。このファイルは、PCにバックアップ（保存）したり、復元したり、工場出荷時の初期設定に戻したりすることができます。

設定のバックアップ

ルーターの設定をバックアップします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [管理者] > [設定のバックアップ] を選択します。
[設定のバックアップ] ページが表示されます。
5. [バックアップ] ボタンをクリックします。
6. ネットワーク上の場所を指定し、現在の設定のコピーを保存します。

現在の設定の消去

現在の設定を消去し、工場出荷時の初期設定に復元することができます。この操作は、ルーターを別のネットワークに移動した場合に実行することもできます。

設定を消去します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。

4. [高度] > [管理者] > [設定のバックアップ] を選択します。

[設定のバックアップ] ページが表示されます。

5. [消去] ボタンをクリックします。

工場出荷時の初期設定に復元されます。ユーザー名は「admin」、パスワードは「password」、LAN IPアドレスは「192.168.1.1」になります。DHCPが有効になります。

設定の復元

バックアップした設定を復元します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。

2. 「**orbilogin.com**」と入力します。

ログインウィンドウが開きます。

3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。

4. [高度] > [管理者] > [設定のバックアップ] を選択します。

[設定のバックアップ] ページが表示されます。

5. [参照] ボタンをクリックし、**.cfg**ファイルを見つけて選択します。

6. [復元] ボタンをクリックします。

ファイルがルーターにアップロードされ、ルーターが再起動します。

警告: 再起動プロセスを中断しないでください。

リモート管理の設定

インターネット経由でアクセスして、ルーターの設定を表示または変更することができます。この機能を使用するには、ルーターのWAN IPアドレスが必要です。ダイナミックDNSの詳細については、[ダイナミックDNS](#)（69ページ）を参照してください。

注意: ユーザー名「admin」の管理者パスワードを安全なパスワードに変更してください。どの言語の辞書にある単語も使用せず、大文字と小文字、数字、記号を混在させることを推奨します。使用できるのは最大で30文字です。「[管理者パスワードの変更](#)（99ページ）」を参照してください。

リモート管理を設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「[orbilogin.com](#)」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「admin」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの「基本」の「ホーム」ページが表示されます。
4. 「高度」>「高度な設定」>「リモート管理」を選択します。
「リモート管理」ページが表示されます。
5. 「リモート管理を有効にする」チェックボックスを選択します。
6. 「次のリモートアクセスを許可」セクションで、ルーターのリモート管理にアクセスすることを許可する外部IPアドレスを指定します。

注意: 安全性を高めるためには、アクセスをできるだけ限られた外部IPアドレスのみに限定することを推奨します。

以下のいずれかを選択します。

- ・ インターネット経由で単一IPアドレスからのアクセスを許可するには、**[このコンピュータのみ]** ラジオボタンを選択します。アクセスを許可するIPアドレスを入力します。
- ・ インターネット経由で任意のIPアドレス範囲からのアクセスを許可するには、**[IPアドレス範囲]** ラジオボタンを選択します。開始IPアドレスと終止IPアドレスを入力し、範囲を入力します。
- ・ インターネット経由ですべてのIPアドレスからのアクセスを許可するには、**[全員]** ラジオボタンを選択します。

7. ルーターにアクセスするポート番号を指定します。

通常のWebブラウザーアクセスでは、標準HTTPサービスのポート80が使用されます。セキュリティを強化するため、リモートでルーターにアクセスするためのカスタムのポート番号を入力してください。1024から65535までの番号を選択してください。ただし、共通サービスポートの番号は使用しないでください。デフォルトは8080です。これは、HTTP用の一般的な代替ポート番号です。

8. **[適用]** ボタンをクリックします。

設定が保存されます。

リモートアクセスの使用

リモートアクセスを使用します。

1. ホームネットワーク上にないPCやモバイル端末でWebブラウザーを起動します。
2. ルーターのインターネットアドレスをブラウザーのアドレス欄や場所の欄に入力し、コロンの(:)で区切ってからカスタムポート番号を入力します。
例えば、外部アドレスが134.177.0.123で、ポート番号8080を使用する場合、ブラウザーには「**http://134.177.0.123:8080**」と入力します。

Orbiアプリを使用したルーターへのリモートアクセス

Orbiアプリを使用すると、ルーターにリモートアクセスして設定を変更できます。Orbiアプリでリモートアクセスを使用する前に、ルーターのファームウェアを更新し、モバイルデバイスに最新のOrbiアプリをダウンロードする必要があります。

お使いのモバイルデバイス用の最新のOrbiアプリをダウンロードするには、<https://www.netgear.com/home/apps-services/orbi-app> にアクセスします。

8

ポートのインターネットトラフィック クールのカスタマイズ

ポート転送とポートトリガーを使用して、インターネットトラフィックのルールを設定できます。これらの機能を設定するには、ネットワークの知識が必要です。

この章には次の内容が含まれます。

- ・ ローカルサーバーへのポート転送
- ・ ポートトリガー

ローカルサーバーへのポート転送

ホームネットワークにサーバーが含まれている場合、特定のタイプの受信トラフィックがサーバーに到達することを許可できます。例えば、ローカルのWebサーバー、FTPサーバー、ゲームサーバーをインターネットから表示でき、使用できるようにすることもできます。

ルーターは、特定のプロトコルを使用する受信トラフィックを、ローカルネットワーク上のPCに転送できます。アプリケーション用のサーバーの指定が可能で、ルーターがその他の受信プロトコルすべてを転送する宛先となるデフォルトDMZサーバーを指定することもできます。

ローカルサーバーへのポート転送の設定

特定の受信プロトコルを転送します。

1. どのタイプのサービス、アプリケーション、またはゲームを提供するかを決めます。
2. サービスを提供する、ネットワーク上のPCのローカルIPアドレスを調べます。
サーバーコンピューターは常に同じIPアドレスを使用する必要があります。この設定を指定するには、予約IPアドレス機能を使用します。「[予約LAN IPアドレスの管理（77ページ）](#)」を参照してください。
3. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
4. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
5. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
6. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー] を選択します。
[ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
7. サービスタイプとして [ポート転送] ラジオボタンを選択した状態にします。
8. [サービス名] ドロップダウンリストで、サービス名を選択します。
追加するサービスがドロップダウンリストに含まれていない場合は、カスタムサービスを作成します。「[ポート転送の追加（122ページ）](#)」を参照してください。

9. [サーバーIPアドレス] の欄に、サービスを提供するPCのIPアドレスを入力します。
10. [追加] ボタンをクリックします。
リストにサービスが表示されます。

ポート転送の追加

ポート転送を追加します。

1. アプリケーションが使用するポート番号または番号の範囲を確認します。
この情報は通常、アプリケーションの提供者、ユーザーグループ、またはニュースグループに問い合わせることで確認できます。
2. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
3. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
4. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
5. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー] を選択します。
[ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
6. サービスタイプとして [ポート転送] ラジオボタンを選択した状態にします。
7. [カスタムサービスの追加] ボタンをクリックします。
[ポート転送 - カスタムサービス] ページが表示されます。
8. [サービス名] 欄に、サービスの名前を入力します。
9. [プロトコル] ドロップダウンリストで、プロトコルを選択します。
不明な場合は、[TCP/UDP] を選択してください。
10. [外部ポート範囲] 欄にポート番号を入力します。

11. 次のどちらかの方法で、内部ポートを指定します。
 - ・ [内部ポートに同じポート範囲を使用] チェックボックスを選択した状態にします。
 - ・ [インターネットポート範囲] 欄に内部ポート番号を入力します。
12. [サーバーIPアドレス] 欄にIPアドレスを入力するか、表に示されている接続デバイスのラジオボタンを選択します。
13. [適用] ボタンをクリックします。

これでサービスが [ポート転送/ポートトリガー] ページのリストに表示されるようになります。

ポート転送の編集

ポート転送を編集します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。

ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。

管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー] を選択します。

[ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. サービスタイプとして [ポート転送] ラジオボタンを選択した状態にします。
6. 表から、サービス名の横にあるラジオボタンを選択します。
7. [サービスの編集] ボタンをクリックします。

[ポート転送 - カスタムサービス] ページが表示されます。
8. 以下の設定を編集します。
 - ・ **サービス名**: サービス名を入力します。
 - ・ **プロトコル**: 不明な場合は、[TCP/UDP] を選択してください。

- ・ **外部ポート範囲**
- ・ 内部ポートについては、[内部ポートに同じポート範囲を使用] チェックボックスを選択したままにするか、[インターネットポート範囲] 欄にポートを入力します。
- ・ **サーバーIPアドレス:** [サーバーIPアドレス] 欄にIPアドレスを入力するか、表に示されている接続デバイスのラジオボタンを選択します。

9. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。

ポート転送の削除

ポート転送を削除します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー] を選択します。
[ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. サービスタイプとして [ポート転送] ラジオボタンを選択します。
6. 表から、サービス名の横にあるラジオボタンを選択します。
7. [サービスの削除] ボタンをクリックします。

(オプション) ローカルWebサーバーの公開

ローカルネットワークでWebサーバーをホストしている場合、ポート転送を使用して、インターネット上の任意のユーザーからのWebリクエストがWebサーバーに到達できるようにします。

ローカルWebサーバーを公開します。

1. Webサーバーに、固定IPアドレスを割り当てるか、DHCPアドレス予約を使用して動的IPアドレスを割り当てます。
この例では、ルーターは常に、Webサーバーに対してIPアドレス192. 168. 1. 33を割り当てます。
2. [ポート転送/ポートトリガー] ページで、ルーター がHTTPサービスをWebサーバーのローカルアドレス192. 168. 1. 33に転送するように設定します。
HTTP（ポート80）は、Webサーバーの標準プロトコルです。
3. (オプション) ダイナミックDNSサービスにホスト名を登録し、ルーターの [ダイナミックDNS] ページでその名前を指定します。
ダイナミックDNSによって、インターネットブラウザに名前を入力可能になるため、インターネットからサーバーへのアクセスが大幅に容易になります。 この方法を使用しない場合は、プロバイダーが割り当てたIPアドレスを知っておく必要があり、一般に、このアドレスは変化します。

ルーターでのポート転送ルールの実行方法

次の手順は、ポート転送ルールを設定する効果を説明しています。

1. ブラウザーにURLとして「www. example. com」と入力すると、ブラウザは以下の宛先情報とともにWebページリクエストメッセージを送信します。
 - ・ **ターゲットアドレス:** www. example. com の IP アドレスで、ルーターのアドレスです。
 - ・ **ターゲットポート番号:** 80です。これがWebサーバープロセスの標準ポート番号です。
2. ルーターはメッセージを受信し、受信ポート80のトラフィックに関するポート転送ルールを見つけます。
3. ルーターはメッセージ内の宛先をIPアドレス192. 168. 1. 123に変更し、メッセージをそのPCに送信します。
4. IPアドレス192. 168. 1. 123にあるWebサーバーがリクエストを受信し、ルーターに応答メッセージを送信します。
5. ルーターがソースIPアドレスに対するネットワークアドレス変換 (NAT) を実行し、Webページリクエストを送信したPCまたは無線LANデバイスに、インターネット経由で応答を送信します。

ポートトリガー

ポートトリガーは、以下の場合に役立つ動的なポート転送の拡張機能です。

- ・ アプリケーションがポート転送を複数のローカルPCに対して使用する必要がある（ただし同時には使用しない）。
- ・ アプリケーションが、送信ポートとは異なる受信ポートを開く必要がある。

ポートトリガーの使用時に、ルーターはユーザーが指定した送信「トリガー」ポートからインターネットに発信するトラフィックを監視します。そのポートからの送信トラフィックについて、ルーターはトラフィックを送信したPCのIPアドレスを保存します。ルーターは、受信ポートまたはユーザーがルールで指定したポートを一時的に開き、その受信トラフィックを宛先に転送します。

ポート転送では、ポート番号またはポートの範囲から、単一のローカルPCへの静的なマッピングが作成されます。ポートトリガーは、必要なときに任意のPCに対して動的にポートを開き、必要でなくなったときにポートを閉じることができます。

ポートトリガーの追加

ポートトリガーサービスを追加します。

1. Orbi ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー] を選択します。
[ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. [ポートトリガー] ラジオボタンを選択します。
ページの表示が変更されます。
6. [サービスの追加] ボタンをクリックします。
[ポートトリガー - サービス] ページが表示されます。

7. [サービス名] 欄に、サービスの名前を入力します。
8. [サービスユーザー] メニューで [すべて] を選択するか、[単一アドレス] を選択して1台のPCのIPアドレスを入力します。
 - ・ [すべて] (デフォルト) を選択すると、インターネット上のどのPCもこのサービスの使用を許可されます。
 - ・ [単一アドレス] を選択すると、サービスは特定のPCに限定されます。
9. サービスタイプを [TCP]、[UDP]、[TCP/UDP] (両方) から選択します。
不明な場合は、[TCP/UDP] を選択してください。
10. [トリガーポート] 欄に、受信ポートを開く送信トラフィックのポート番号を入力します。
11. 受信接続のポート情報を、[接続タイプ]、[開始ポート]、および [終止ポート] の各欄に入力します。
12. [適用] ボタンをクリックします。
これでサービスがポートマップ表に表示されるようになります。追加したサービスでルーターがポートトリガーを使用する前に、ポートトリガーを有効にする必要があります。「[ポートトリガーの有効化 \(127ページ\)](#)」を参照してください。

ポートトリガーの有効化

ポートトリガーを有効にします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「[orbilogin.com](#)」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [ポート転送/ポートトリガー] を選択します。
[ポート転送/ポートトリガー] ページが表示されます。
5. [ポートトリガー] ラジオボタンを選択します。

ページの表示が変更されます。

6. **[ポートトリガーを無効にする]** チェックボックスのチェックを外します。
このチェックボックスが選択されていると、ポートトリガーの設定を指定した場合でも、ルーターはポートトリガーを使用しません。
7. **[ポートトリガーのタイムアウト時間]** 欄に、最大9999分の値を入力します。
ルーターでアクティビティが検出されないときに受信ポートが開いたままになる時間をここで設定できます。ルーターはアプリケーションがいつ終了したかを検出できないため、この値を必ず指定する必要があります。

適用例: インターネットリレーチャットのためのポートトリガー

FTPサーバーやIRCサーバーなどの一部のアプリケーションサーバーは、複数のポート番号に応答を送信します。ポートトリガーを使用すると、特定の送信ポートのセッション開始後に、より多くの受信ポートを開くようにルーターに指示できます。

例となるのはインターネットリレーチャット（IRC）です。PCは宛先ポート6667でIRCサーバーに接続します。IRCサーバーはソースポートに応答するだけでなく、ポート113でコンピューターに“識別”メッセージも送信します。ポートトリガーを使用すると、「宛先ポート6667でセッションを開始するときは、送信元PCに到達できるようポート113での受信トラフィックも許可する必要がある」ことを、ルーターに指示できます。次に、指定ポートトリガールールによる流れを示します。

1. PCで、IRCクライアントプログラムを開いてチャットセッションを開始します。
2. IRCクライアントは、宛先ポート番号として、IRCサーバープロセスの標準ポート番号である6667を使用して、IRCサーバーに対するリクエストメッセージを作成します。次に、PCがこのリクエストメッセージをルーターに送信します。
3. ルーターは内部セッションテーブルにエントリを作成し、PCとIRCサーバーとの間の通信セッションを説明します。ルーターは本来の情報を保存し、ソースアドレスとポートで NAT を実行し、このリクエストメッセージをインターネット経由で IRCサーバーに送ります。
4. ルーターは、ユーザーのポートトリガールールを認識し、宛先ポート番号6667を観察して、ポート113の受信トラフィックをすべてPCに送信する別のセッションエントリを作成します。
5. IRCサーバーは、NATに割り当てられたソースポート（例：ポート33333）を宛先ポートとして使用して、ルーターに応答メッセージを送信します。IRCサーバーも“認証”メッセージをターゲットポート113でルーターに送信します。
6. ルーターは、宛先ポート33333へのメッセージを受信すると、セッションテーブルをチェックし、ポート番号33333のセッションがアクティブかどうかを確認します。

アクティブセッションを見つけると、ルーターは NAT により置き換えられた本来のアドレス情報を復元し、この応答メッセージをあなたのPCに送ります。

7. ルーターは、宛先ポート113への受信メッセージを受信すると、セッションテーブルをチェックし、ポート番号113でPCと関連付けられているアクティブセッションを検出します。ルーターはメッセージのターゲットIPアドレスをあなたのPCのIPアドレスで置き換え、メッセージをあなたのPCに転送します。
8. チャットセッションが終了したら、ルーターは最終的に通信中に動作していない時間を検出します。このあと、ルーターはセッション情報をセッションテーブルから削除し、ポート番号33333または113では受信トラフィックが受理されなくなります。

9

VPNを使用したネットワークへのアクセス

OpenVPNソフトウェアを使用すると、VPN (Virtual Private Networking) を介してルーターにリモートアクセスすることができます。この章では、VPNアクセスを設定して使用する方法について説明します。

この章には次の内容が含まれます。

- ・ [VPN接続の設定](#)
- ・ [ルーターでのVPNサービスの設定](#)
- ・ [OpenVPNソフトウェアのインストール](#)
- ・ [Windows PCでのVPNトンネルの使用](#)
- ・ [VPNを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス](#)
- ・ [ルーターでのVPNクライアントインターネットアクセスの禁止](#)
- ・ [VPNトンネルを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス](#)

VPN接続の設定

VPN (Virtual Private Network) を利用すると、家にいないときにインターネットを使用して自宅のネットワークに安全にアクセスできます。

このタイプのVPNアクセスは、クライアントとゲートウェイ間のトンネルと呼ばれます。PCがクライアントで、ルーターがゲートウェイです。VPN機能を使用するには、ルーターにログインしてVPNを有効にする必要があります。また、PCにVPNクライアントソフトウェアをインストールして実行する必要があります。

VPNはダイナミックDNS (DDNS) または静的IPアドレスを使用してルーターに接続します。

DDNSサービスを使用するには、ホスト名 (ドメイン名と呼ばれる場合があります) を指定してアカウントを登録します。このホスト名を使用して、ネットワークにアクセスします。ルーターは、NETGEAR、No-IP、Dynのアカウントをサポートします。

ご利用のプロバイダー (ISP) から、お使いのインターネットアカウントに静的IPアドレス (50.196. x. xや10. x. x. xなど) が割り当てられている場合、VPNでは、そのIPアドレスを使用してホームネットワークに接続することができます。

ルーターでのVPNサービスの設定

VPN接続を使用する前に、ルーターでVPNサービスを設定する必要があります。

VPNサービスを設定します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [VPNサービス] を選択します。
[VPNサービス] ページが表示されます。
5. [VPNサービスを有効にする] チェックボックスを選択します。

デフォルトで、VPNはUDPサービスタイプを使用し、ポート12974を使用します。サービスタイプとポートをカスタマイズする場合、NETGEARは、これらの設定を変更してからOpenVPNソフトウェアをインストールすることを推奨します。

6. サービスタイプを変更するには、下にスクロールして、**[TCP]** ラジオボタンを選択します。
7. ポートを変更するには、**[サービスポート]** の欄まで下にスクロールして、使用したいポート番号を入力します。
8. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。ルーターでVPNが有効になりますが、VPN接続を使用する前に、OpenVPNソフトウェアをPCにインストールして設定する必要があります。

OpenVPNソフトウェアのインストール

OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各Windows PC、Mac、iOSデバイス、Androidデバイスにインストールする必要があります。

Windows PCへのOpenVPNソフトウェアのインストール

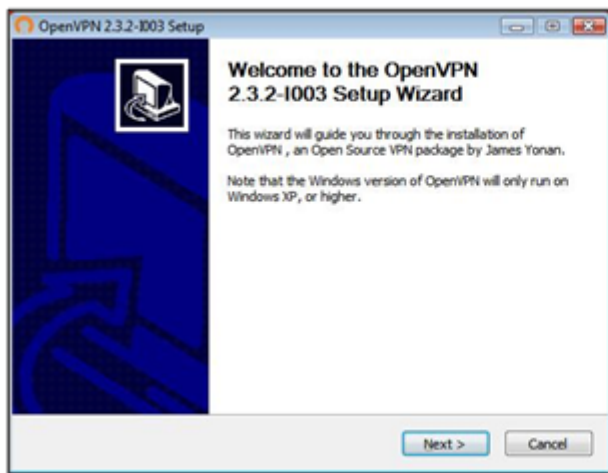
OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各Windows PCにインストールする必要があります。

VPNクライアントソフトウェアをWindows PCにインストールします。

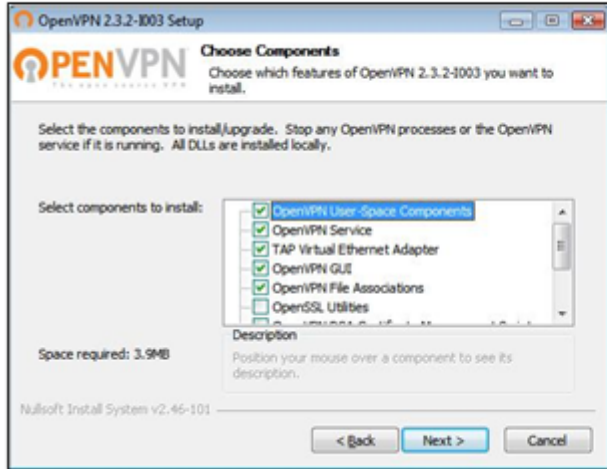
1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの**[基本]** の**[ホーム]** ページが表示されます。
4. **[高度]** > **[高度な設定]** > **[VPNサービス]** を選択します。
[VPNサービス] ページが表示されます。
5. **[VPNサービスを有効にする]** チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. ページで任意のVPNサービス設定を指定します。

詳細については、「[ルーターでのVPNサービスの設定（131ページ）](#)」を参照してください。

7. [Windows] ボタンをクリックし、OpenVPNの設定ファイルをダウンロードします。
8. openvpn.net/index.php/download/community-downloads.html（英語）にアクセスし、OpenVPNクライアントユーティリティをダウンロードします。
9. ページの [Windows Installer (Windowsインストーラー)] のカテゴリで、**openVPN-install-xxx.exe** リンクをダブルクリックします。
10. Open VPNソフトウェアをPCにダウンロードしてインストールするには、**openVPN-install-xxx.exe**ファイルをクリックします。



11. [Next (次へ)] ボタンをクリックします。
12. 求められたら、使用許諾契約書を読んで [I Agree (同意する)] ボタンをクリックします。

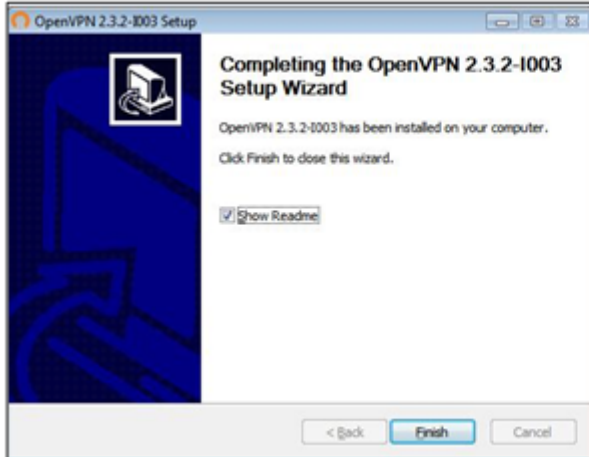


13. チェックボックスを選択した状態にして、[Next (次へ)] ボタンをクリックします。
14. インストール先フォルダーを指定するには、[Browse (参照)] ボタンをクリックし、インストール先フォルダーを選択します。



図 6 : [Windows Security (Windowsセキュリティ)] ウィンドウが開きます。

15. [Install (インストール)] ボタンをクリックします。
ウィンドウにインストールの進行状況が表示され、その次に、最後のインストールページが表示されます。



16. **[Finish (完了)]** ボタンをクリックします。
17. ダウンロードした設定ファイルを解凍し、VPNクライアントがインストールされている、デバイス上のフォルダーにコピーします。
Windows 64ビットシステムのクライアントデバイスの場合、VPNクライアントはデフォルトではC:\Program Files\OpenVPN\config\にインストールされています。
18. Windowsのクライアントデバイスの場合は、VPNインターフェイス名を**NETGEAR-VPN**に変更します。
 - a. PCで、[ネットワーク] ページに移動します。Windows 10を使用している場合は、[コントロールパネル]>[ネットワークと共有センター]>[アダプターの設定の変更] を選択します。
 - b. ローカルエリア接続のリストで、デバイス名が**TAP-Windows Adapter**であるローカルエリア接続を見つけます。
 - c. そのローカルエリア接続を選択し、接続の名前（機器名とは異なります）を**NETGEAR-VPN**に変更します。
VPNインターフェイス名を変更しないと、VPNトンネル接続が失敗します。
Windows PCでのOpenVPNの使用の詳細については、
<https://openvpn.net/index.php/open-source/documentation/howto.html#quick>
を参照してください（英語）。

MacへのOpenVPNソフトウェアのインストール

OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各Macにインストールする必要があります。

VPNクライアントソフトウェアをMacにインストールします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [VPNサービス] を選択します。
[VPNサービス] ページが表示されます。
5. [VPNサービスを有効にする] チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. ページで任意のVPNサービス設定を指定します。
詳細については、「[ルーターでのVPNサービスの設定 \(131ページ\)](#)」を参照してください。
7. [ForMacOSX] ボタンをクリックし、OpenVPNの設定ファイルをダウンロードします。
8. <https://tunnelblick.net/index.html> にアクセスし、Mac OS X用のOpenVPNクライアントユーティリティをダウンロードします。
9. ファイルをダウンロードしてインストールします。
10. ダウンロードした設定ファイルを解凍し、VPNクライアントがインストールされている、デバイス上のフォルダーにコピーします。
クライアントユーティリティのインストールは、管理者権限を持つユーザーが行う必要があります。
MacでのOpenVPNの使用方法の詳細については、
<https://openvpn.net/vpn-server-resources/installation-guide-for-openvpn-connect-client-on-macos/>
を参照してください。

iOSデバイスへのOpenVPNソフトウェアのインストール

OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各iOSデバイスにインストールする必要があります。

VPNクライアントソフトウェアをiOSデバイスにインストールします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [VPNサービス] を選択します。
[VPNサービス] ページが表示されます。
5. [VPNサービスを有効にする] チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. ページで任意のVPNサービス設定を指定します。
詳細については、「ルーターでのVPNサービスの設定 (131ページ)」を参照してください。
7. [スマートフォン用] ボタンをクリックし、OpenVPNの設定ファイルをダウンロードします。
8. iOSデバイスで、Apple社のApp StoreからOpenVPN Connectアプリをダウンロードしてインストールします。
9. PCで、ダウンロードした設定ファイルを解凍してiOSデバイスに送信します。
.ovpnファイルを開くと、アプリのリストが表示されます。OpenVPN Connectアプリを選択して.ovpnファイルを開きます。
iOSデバイスでのOpenVPNの使用の詳細については、
http://www.vpngate.net/en/howto_openvpn.aspx#ios を参照してください (英語)。

AndroidデバイスへのOpenVPNソフトウェアのインストール

OpenVPNソフトウェアは、ルーターへのVPN接続に使用する予定の各Androidデバイスにインストールする必要があります。

VPNクライアントソフトウェアをAndroidデバイスにインストールします。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [VPNサービス] を選択します。
[VPNサービス] ページが表示されます。
5. [VPNサービスを有効にする] チェックボックスが選択されていることを確認します。
6. ページで任意のVPNサービス設定を指定します。
詳細については、「[ルーターでのVPNサービスの設定 \(131ページ\)](#)」を参照してください。
7. [スマートフォン用] ボタンをクリックし、OpenVPNの設定ファイルをダウンロードします。
8. Androidデバイスで、Google PlayストアからOpenVPN Connectアプリをダウンロードしてインストールします。
9. PCで、ダウンロードした設定ファイルを解凍してAndroidデバイスに送信します。
10. Androidデバイスでファイルを開きます。
11. OpenVPN Connectアプリを使用して.ovpnファイルを開きます。
AndroidデバイスでのOpenVPNの使用の詳細については、
http://www.vpngate.net/en/howto_openvpn.aspx#android を参照してください (英語)。

Windows PCでのVPNトンネルの使用

VPNを使用するようにルーターを設定し、PCにOpenVPNアプリケーションをインストールしたら、インターネット経由でPCからルーターまでVPNトンネルを開くことができます。

VPNトンネルが正しく機能するためには、リモートのルーターのローカルLAN IPアドレスで使われているLAN IP方式が、VPNクライアントPCが接続されているローカルLANのLAN IP方式とは異なっている必要があります。両方のネットワークが同じLAN IP方式を使

用していると、VPNトンネルが確立されたときにOpenVPNソフトウェアで家庭のルーターやホームネットワークにアクセスすることができません。

本ルーターのデフォルトのLAN IPアドレス方式は、192. x. x. xです。最もよく使われるIP方式は、192. x. x. x、172. x. x. x、および10. x. x. xです。競合が発生する場合は、ホームネットワークのIP方式、またはVPNクライアントPCが属するネットワークのIP方式のいずれかを変更してください。これらの設定の変更については、「[LAN TCP/IP設定の変更 \(74ページ\)](#)」を参照してください。

VPNトンネルを開きます。

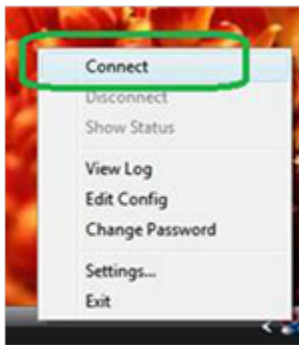
1. 管理者権限を使用してOpenVPNアプリケーションを起動します。



図7: Windowsタスクバーに [OpenVPN] アイコンが表示されます。

ヒント: VPNプログラムへのショートカットを作成し、そのショートカットを使用して設定にアクセス、[管理者として実行] チェックボックスを選択します。こうすると、このショートカットを使用するたびに、OpenVPNが管理者権限で自動的に実行されます。

2. [OpenVPN] アイコンを右クリックします。



3. [接続] を選択します。

VPN接続が確立されます。 Webブラウザを起動してルーターにログインできます。

VPNを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス

外出先でインターネットにアクセスするときには、通常、ローカルのインターネットサービスプロバイダーを使用します。例えば、コーヒーショップでは、その店のインターネットサービスアカウントを使用してWebページを閲覧できるようにするコードが提供されることがあります。

Orbi Proでは、外出しているときに、VPN接続を使用して、自分が利用中のインターネットサービスにアクセスできます。家で使用しているインターネットサービスが利用できない場所に旅行する場合などでも使えます。

VPNクライアントインターネットアクセスの設定

デフォルトでは、ルーターはホームネットワークに対するVPN接続のみを許可するように設定されていますが、インターネットアクセスを許可するように設定を変更できます。VPN経由でリモートからインターネットにアクセスすると、インターネットに直接アクセスするより速度が遅い場合があります。

VPNクライアントに自宅のホームネットワークの使用を許可します。

1. Orbi ネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] > [高度な設定] > [VPNサービス] を選択します。
[VPNサービス] ページが表示されます。
5. [VPNサービスを有効にする] ラジオボタンを選択します。
6. [クライアントはアクセスにこのVPN接続を使用します。] セクションまで下にスクロールして、[インターネットおよびホームネットワーク上のすべてのサイト] ラジオボタンを選択します。

ローカルのインターネットサービスを使用する代わりにVPN接続を使用してインターネットにアクセスするときには、ホームネットワークからインターネットサービスを使用します。

7. **[適用]** ボタンをクリックします。
設定が保存されます。
8. **[Windows]** ボタンまたは **[MACOSX]** ボタンをクリックし、VPNクライアントの設定ファイルをダウンロードします。
9. 設定ファイルを解凍し、VPNクライアントがインストールされている、デバイス上のフォルダーにコピーします。
Windows 64ビットシステムのクライアントデバイスの場合、VPNクライアントはデフォルトではC:\Program Files\OpenVPN\config\にインストールされています。

ルーターでのVPNクライアントインターネットアクセスの禁止

デフォルトでは、ルーターは、ホームネットワークへのVPN接続だけを許可し、ホームネットワークのインターネットサービスへのVPN接続は許可しないように設定されています。この設定は、インターネットアクセスを許可するように変更しても、元に戻すことができます。

VPNクライアントにホームネットワークへのアクセスのみを許可します。

1. Orbiネットワークに接続されているPCやモバイルデバイスでWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. 管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。パスワードは、最初のログイン時に指定したものです。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの **[基本]** の **[ホーム]** ページが表示されます。
4. **[高度]** > **[高度な設定]** > **[VPNサービス]** を選択します。
[VPNサービス] ページが表示されます。
5. **[VPNサービスを有効にする]** ラジオボタンを選択します。

6. [クライアントはアクセスにこのVPN接続を使用します。] セクションまで下にスクロールして、[ホームネットワークのみ] ラジオボタンを選択します。
これはデフォルトの設定です。VPN接続は、ホームネットワークに対してのみで、ホームネットワークのインターネットサービスに対しては許可されません。
7. [適用] ボタンをクリックします。
設定が保存されます。
8. [Windows] ボタンまたは [MACOSX] ボタンをクリックし、VPNクライアントの設定ファイルをダウンロードします。
9. 設定ファイルを解凍し、VPNクライアントがインストールされている、デバイス上のフォルダーにコピーします。
Windows 64ビットシステムのクライアントデバイスの場合、VPNクライアントはデフォルトではC:\Program Files\OpenVPN\config\にインストールされています。

VPNトンネルを使用した自宅のホームネットワークへのアクセス

自宅のホームネットワークにアクセスします。

1. 自宅のホームネットワークへのVPNアクセスを許可するようにルーターを設定します。
「ルーターでのVPNサービスの設定 (131ページ)」を参照してください。
2. PCで、OpenVPNアプリケーションを起動します。
Windowsタスクバーに [OpenVPN] アイコンが表示されます。
3. アイコンを右クリックし、[接続] をクリックします。
4. VPN接続が確立されたら、インターネットブラウザを開きます。

10

トラブルシューティング

この章では、Orbiルーターまたはサテライトで発生する可能性のある問題の診断と解決に役立つ情報を提供します。この章で解決策が見つからない場合は、NETGEARサポートサイト (<https://www.jp.netgear.com/support/>) で製品および連絡先の情報を確認してください。

この章には次の内容が含まれます。

- ・ [トラブルシューティングのヒント](#)
- ・ [ルーターとサテライトが同期しない](#)
- ・ [ルーターにログインできない](#)
- ・ [インターネットにアクセスできない](#)
- ・ [インターネット閲覧のトラブルシューティング](#)
- ・ [PPPoEのトラブルシューティング](#)
- ・ [無線LAN接続のトラブルシューティング](#)
- ・ [pingユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング](#)

トラブルシューティングのヒント

このセクションでは、一般的ないくつかのトラブルシューティングのヒントを示します。

ネットワークを再起動する手順

ネットワークを再起動する場合は、以下の手順に従います。

1. モデムの電源を切り、さらに電源を抜いてください。
2. ルーターの電源をオフにします。
3. モデムの電源コードを接続し、電源を入れます。2分間待ちます。
4. ルーターの電源を入れ、2分間待ちます。

ワイヤレス設定

無線LAN対応PCまたはモバイルデバイスとルーターの無線LAN設定が完全に一致しているかどうか確認してください。

無線LANネットワーク名（SSID）と無線LANセキュリティの設定が完全に一致している必要があります。

アクセスリストを設定する場合は、ルーターのアクセスリストに各無線LAN対応PCまたはモバイルデバイスのMACアドレスを追加する必要があります。

ネットワーク設定

子機のネットワーク設定が正しいことを確認します。有線や無線で接続されるPCは、ルーターと同じネットワーク上のネットワーク（IP）アドレスを使用する必要があります。最も簡単な方法は、DHCPを使用してIPアドレスを自動的に取得するようにそれぞれの子機を設定することです。

一部のプロバイダーでは、最初にアカウントに登録された子機のMACアドレスを使用する必要があります。MACアドレスは、[接続デバイス] ページで参照できます。

ルーターとサテライトが同期しない

ルーターとサテライトの同期に問題が発生している場合は、同期中、サテライトをルーターと同じ部屋に移動することをお勧めします。その後、サテライトを別の場所に移動します。

ルーターとサテライトを同期する:

1. サテライトをOrbiルーターと同じ部屋に配置します。
サテライトをこの配置にするのは、同期プロセスの間のみです。
2. サテライトを電源に接続します。
3. サテライトの背面にある電源LEDが点灯していない場合は、**電源ボタン**を押します。
4. サテライトのリングLEDが白色またはマゼンタ色に点灯するまで待ちます。
5. ルーターの**Sync**ボタンを押し、2分以内にサテライトの**Sync**ボタンを押します。
6. サテライトがルーターと同期するまで待ちます。
ルーターとの同期を試みている間、サテライトのリングLEDは白色に点滅します。LEDバーは白色に点滅した後、次のいずれかの色で約3分間点灯し、その後消灯します。
 - ・ **青**: Orbiルーターとサテライトの同期が完了しました。ルーターとサテライトの間の接続状態は良好です。
 - ・ **オレンジ**: Orbiルーターとサテライトの同期が完了しました。ルーターとサテライトの間の接続状態は普通です。 OrbiサテライトをOrbiルーターの近くに設置することをお勧めします。
 - ・ **マゼンタ**: Orbiルーターとサテライトが同期していません。
7. 以下のいずれかを実行します。
 - ・ **同期に失敗**: 同期に失敗した場合は、手順 5～手順 6を繰り返して再度同期します。 同期に失敗し続ける場合は、場所や向きを変えて試します。
 - ・ **同期に成功**: 同期に成功した場合は、サテライトを設置したい場所にサテライトを移し、手順 8に進みます。
8. 新しい場所で、サテライトを電源に接続します。
9. 新しい場所で、手順 5～手順 6を繰り返してサテライトをルーターと再同期します。
サテライトのリングLEDが青色またはオレンジ色に点灯している場合、サテライトは正常に同期しています。 サテライトのリングLEDが青色に点灯している場合、接続状態は良好です。 サテライトのリングLEDバーがオレンジ色に点灯している場合、普通の接続状態ではなく良好な接続状態を得ることができるように、サテライトをルーターの近くに移動することを検討します。

10. サテライトのリングLEDがマゼンタ色に点灯している場合、サテライトはルーターと再同期しませんでした。同じ部屋に配置されているときに同期が正常に完了した場合は、次のいずれかを実行します。
 - ・ サテライトをルーターにより近い位置に設置してもう一度お試しください。サテライトとの良好または普通の接続状態を得るには、ルーターがサテライトのWiFiカバーエリア内にある必要があります。
 - ・ ルーターと、同期しようとしているサテライトの間に他のサテライトを設置します。次に、その2台のサテライトの間で同期を試みます。ダイジーチェーンネットワークを使用すると、サテライトは、どの接続が最適かに応じて相互に、またはルーターに接続できます。

ルーターにログインできない

PCまたはモバイルデバイスがOrbi WiFiネットワークに接続されていることを確認してください。WiFi接続を使用しない場合は、PCをLANケーブルでOrbiルーターに接続できます。

変更した管理者パスワードを忘れた場合は、[管理者パスワードの復元](#)（100ページ）を参照してください。

インターネットにアクセスできない

ネットワーク接続およびインターネット接続を確認します。

1. 無線LAN対応PCまたはモバイルデバイスがOrbiネットワークに接続されていることを確認します。
2. Orbiには接続されているが、インターネットにアクセスできない場合は、インターネット接続が機能しているかどうかを確認します。
3. ネットワークに接続されているPCや無線LAN子機でWebブラウザを開きます。
4. 「orbilogin.com」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
5. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。デフォルトのパスワードは「**password**」です。ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
6. [高度] タブをクリックします。

ルーター管理者ページの [高度] の [高度な機能のホーム] ページが表示されます。

7. インターネットポートのIPアドレスが表示されることを確認します。

0.0.0.0が表示される場合、ルーターはインターネットサービスプロバイダー (ISP) からIPアドレスを取得していません。

ルーターがプロバイダーからIPアドレスを取得できない場合は、ネットワークを再起動することで、ケーブルモデムやDSLモデムに新しいルーターを強制的に認識させることができます。詳細については、「[ネットワークを再起動する手順 \(144ページ\)](#)」を参照してください。

それでもルーターがプロバイダーからIPアドレスを取得できない場合、以下のいずれかの問題が考えられます。

- ・ ご利用のプロバイダーではログインプログラムが必要な可能性があります。プロバイダーに、PPPoE (PPP over Ethernet) やその他のタイプのログインが必要かどうかをお問い合わせください。
- ・ プロバイダーでログインが必要な場合、ログイン名とパスワードが正しく設定されていない可能性があります。
- ・ プロバイダーがご利用のPCのホスト名をチェックしている可能性があります。[インターネット設定] ページで、プロバイダーアカウントのPCホスト名をアカウント名として割り当ててください。
- ・ プロバイダーで許可される、インターネットに接続するためのMACアドレスが1つだけで、PCのMACアドレスを調べている場合は、以下のいずれかを実行します。
 - 新しいネットワークデバイスを購入したことをプロバイダーに連絡し、ルーターのMACアドレスを使用するように依頼します。
 - PCのMACアドレスをクローンするよう、ルーターを構成してください。

インターネット閲覧のトラブルシューティング

ルーターがIPアドレスを取得できていても、Webページが表示できない場合は、以下のいずれかの原因による可能性があります。

- ・ トラフィックメーターが有効になっていて、限度に達しました。トラフィック制限に達してもトラフィックメーターがインターネットアクセスをブロックしないように設定すれば、インターネットアクセスを再開できます。プロバイダーが使用制限を設定している場合は、超過分に対して課金されることがあります。

- ・ PCがどのDNSサーバーのアドレスも認識していない可能性があります。 DNSサーバーは、インターネット名（wwwアドレスなど）を数値のIPアドレスに変換するインターネット上のホストです。
一般に、プロバイダーはユーザーが使用するために、1台または2台のDNSサーバーのアドレスを提供します。 ルーターの設定中に DNS アドレスを入力した場合は、PCを再起動してください。
または、お使いのPCのマニュアルを参照し、手動でDNSアドレスを指定してPCを設定できます。
- ・ お使いのPCでルーターがデフォルトゲートウェイとして設定されていない可能性があります。
PCを再起動し、ルーターアドレス（www.orbilogin.com）がデフォルトゲートウェイアドレスとしてPCに表示されているかどうかを確認します。
- ・ 必要でなくなったログインソフトウェアを実行している可能性があります。 インターネットにログインするためのプログラム（WinPoETなど）がプロバイダーから提供された場合、ルーターのインストール後は、そのソフトウェアを実行する必要がなくなります。 Internet Explorerに移動し、[ツール]>[インターネットオプション]と選択し、[接続] タブをクリックして、[ダイヤルしない] を選択する必要がある場合があります。 ほかのブラウザにも類似のオプションが用意されています。

PPPoEのトラブルシューティング

PPPoEを使用している場合は、インターネット接続のトラブルシューティングを試みてください。

PPPoE接続のトラブルシューティングを行います。

1. ネットワークに接続されているPCや無線LAN子機でWebブラウザを開きます。
2. 「**orbilogin.com**」と入力します。
ログインウィンドウが開きます。
3. ルーターの管理者ユーザー名とパスワードを入力します。
ユーザー名は「**admin**」です。 デフォルトのパスワードは「**password**」です。 ユーザー名とパスワードは、大文字と小文字が区別されます。
管理者ページの [基本] の [ホーム] ページが表示されます。
4. [高度] タブをクリックします。
ルーター管理者ページの [高度] の [高度な機能のホーム] ページが表示されます。
5. [インターネットポート] のカテゴリで、[接続ステータス] ボタンをクリックします。

[接続ステータス] ウィンドウが開きます。

6. [接続ステータス] ウィンドウを調べて、PPPoE接続がアクティブで動作中であるかどうかを確認します。

ルーターが接続されていない場合は、[接続] ボタンをクリックします。

ルーターは引き続き接続を試みます。

7. 数分経過しても接続できない場合は、ルーターの設定に使用しているサービス名、ユーザー名、またはパスワードが正しくないか、プロバイダーで問題が発生している可能性があります。

手動で接続した場合を除き、ルーターはデータがネットワークに転送されるまで PPPoE を使用して認証を行いません。

無線LAN接続のトラブルシューティング

Orbi無線LANネットワークへの接続に問題が発生している場合は、問題の切り分けを行います。

- ・ 使用している無線LAN対応PCまたはモバイルデバイスで無線LANネットワークを検出できますか？
ルーターのSSIDブロードキャストを無効にすると、無線LANネットワークは非表示になり、PCまたは無線LANデバイスで検出できるネットワーク一覧には表示されません。（デフォルトでSSIDブロードキャストは有効になっています）。
- ・ 無線LAN対応デバイスが無線LANネットワークに使用しているセキュリティ（WPAやWPA2）をサポートしていますか？
- ・ ルーターの無線LAN設定を確認する場合は、LANケーブルを使ってPCをルーターのLANポートに接続します。次に、ルーターにログインして、[基本]>[ワイヤレス]を選択します。

注意: 設定を変更したら必ず [適用] ボタンをクリックしてください。

- ・ 5 GHz 1帯域または5 GHz 2帯域に接続しようとしている場合、無線LAN対応PCまたはモバイルデバイスがこの標準をサポートしていますか？
- ・ PCまたは無線LANデバイスで、WiFiホットスポットなど、エリア内の別の無線LANネットワークに自動的に接続できましたか？

pingユーティリティを使用したネットワークのトラブルシューティング

ほとんどのネットワークデバイスやルーターには、指定したデバイスにエコー要求パケットを送信するpingユーティリティが用意されています。エコー要求が送られると、デバイスはエコー応答を返します。PCまたはワークステーションでpingユーティリティを使用して、簡単にネットワークのトラブルシューティングを行うことができます。

ルーターへのLANのパスのテスト

PCからルーターをpingすることで、ルーターへのLANパスが正しく設定されているかを点検することができます。

Windows PCからルーターにpingします。

1. Windowsツールバーの [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. 次の例に示すように、表示される欄に**ping**に続けて、ルーターのIPアドレスを入力します。

```
ping www.orbilogin.com
```

3. [OK] ボタンをクリックします。

次のようなメッセージが表示されます。

Pinging <IP address > with 32 bytes of data

パスが正しく機能していれば、次のようなメッセージが表示されます。

```
Reply from < IP address >: bytes=32 time=NN ms TTL=xxx
```

パスが正しく機能していない場合は、次のようなメッセージが表示されます。

Request timed out

パスが正しく機能していない場合は、以下のいずれかの問題が発生している可能性があります。

- ・ ケーブルの接続に不具合がある
有線接続の場合、接続したポートに対応するLAN LEDが点灯していることを確認してください。
使用中のネットワークデバイスに対して、適切なLEDが点灯していることを確認してください。ルーターと子機が個別のイーサネットスイッチに接続されている場合は、子機とルーターに接続されているスイッチポートのリンクLEDが点灯していることを確認してください。

- ・ ネットワーク設定に不具合がある
イーサネットカードのドライバーソフトウェアとTCP/IPソフトウェアがどちらも子機にインストールされ、設定されていることを確認してください。
ルーターとPCのIPアドレスが正しく、同じサブネットであることを確認してください。

PCからリモートデバイスへのパスのテスト

LANのパスが正しく機能していることを確認した後は、PCからリモートデバイスへのパスをテストします。

PCからリモートデバイスへのパスをテストします。

1. Windowsツールバーの [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] を選択します。
2. Windowsの [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで、次のように入力します。

ping -n 10 <IP address>

<IP address>には、プロバイダーのDNSサーバーのようなりモートデバイスのIPアドレスが入ります。

パスが正しく機能している場合は、「ルーターへのLANのパスのテスト (150ページ)」に示したようなメッセージが表示されます。

応答が受信されない場合は、以下のことを確認してください。

- ・ ルーターのIPアドレスがPCのデフォルトゲートウェイとして表示されることを確認します。DHCPがPCのIP設定を割り当てている場合、この情報はPCの [ネットワーク] コントロールパネルには表示されません。ルーターのIPアドレスがデフォルトゲートウェイとして表示されているかどうか確認してください。
- ・ PCのネットワークアドレス (サブネットマスクによって指定されるIPアドレスの部分) が、リモートデバイスのネットワークアドレスとは異なっていることを確認します。
- ・ ケーブルモデムまたはDSLモデムが接続されていて、機能していることを確認します。
- ・ プロバイダーがPCにホスト名を割り当てた場合は、[インターネット設定] ページで、そのホスト名をアカウント名として入力します。
- ・ プロバイダーが、1台を除くすべてのPCのMACアドレスを拒否している可能性があります。

多くのプロバイダーは、ブロードバンドモデムのMACアドレスからのトラフィックのみを許可することで、アクセスを制限しています。一部のプロバイダーではさらに、そのモデムに接続された1台のPCのMACアドレスへのアクセスも制限されます。ご利用の

プロバイダーがそうしている場合は、承認済みPCのMACアドレスの“クローン”または“スプーフィング”を行うようにルーターを設定してください。

11

補足情報

この付録には次の内容が含まれます。

- ・ [Orbiルーターの工場出荷時の設定](#)（154ページ）
- ・ [Orbiサテライトの工場出荷時の設定](#)（159ページ）
- ・ [Orbiルーターの技術仕様](#)（167ページ）
- ・ [Orbiサテライトの技術仕様](#)（171ページ）

Orbiルーターの工場出荷時の設定

ルーターを工場出荷時の設定に戻すことができます。ペーパークリップの先端などを使って、ルーター背面のリセットボタンを7秒間以上長押しします。ルーターがリセットされ、工場出荷時の初期設定に戻ります。

OrbiルーターモデルRBR50の工場出荷時の設定

次の表に、ルーターの工場出荷時の初期設定を示します。

表 4: ルーターの工場出荷時の初期設定

機能	デフォルトの設定	
ルーターログイン	ユーザーログインURL	orbilogin.com
	ユーザー名（大文字と小文字を区別）	admin
	ログインパスワード（大文字と小文字を区別）	password（初期セットアップ時に設定）
インターネット接続	MACアドレス	デフォルトのハードウェアアドレスを使う
	WAN MTUサイズ	1500
	ポート速度	自動検知
ローカルネットワーク (LAN)	LAN IP	192.168.1.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	有効
	DHCP範囲	192.168.1.2~192.168.1.254
	DHCP開始IPアドレス	192.168.1.2
	DHCP終了IPアドレス	192.168.1.254
	DMZ	無効
	タイムゾーン	国・地域により異なる
	タイムゾーンを夏時間に合わせて調整	無効
SNMP	無効	

表 4: ルーターの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能	デフォルトの設定	
ファイアウォール	インバウンド (インターネットからの通信)	無効 (ポート80のHTTPポートのトラフィックを除く)
	アウトバウンド (インターネットへの通信)	有効 (すべて)
	ソースMACフィルタ	無効
WiFi	WiFi通信	有効
	SSID名	ルーターのラベルを参照
	セキュリティ	WPA2-PSK (AES)
	ブロードキャストSSID	有効
	転送速度	自動 ¹
	国/地域	国/地域により異なる
	RFチャンネル	2.4GHzフロントおよびバックホール: 自動 5 GHzフロントホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 48 ・ EU, KO, JP, INではCH 36 5 GHzバックホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 157 ・ EU, KO, JP, INではCH 108

¹ IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiルーターモデルRBR40の工場出荷時の設定

次の表に、ルーターの工場出荷時の初期設定を示します。

OrbiメッシュWiFiシステム

表 5: ルーターの工場出荷時の初期設定

機能		デフォルトの設定
ルーターログイン	ユーザーログインURL	orbilogin.com
	ユーザー名 (大文字と小文字を区別)	admin
	ログインパスワード (大文字と小文字を区別)	password (初期セットアップ時に設定)
インターネット接続	MACアドレス	デフォルトのハードウェアアドレスを使う
	WAN MTUサイズ	1500
	ポート速度	自動検知
ローカルネットワーク (LAN)	LAN IP	192.168.1.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	有効
	DHCP範囲	192.168.1.2~192.168.1.254
	DHCP開始IPアドレス	192.168.1.2
	DHCP終了IPアドレス	192.168.1.254
	DMZ	無効
	タイムゾーン	国・地域により異なる
	タイムゾーンを夏時間に合わせて調整	無効
	SNMP	無効
ファイアウォール	インバウンド (インターネットからの通信)	無効 (ポート80のHTTPポートのトラフィックを除く)
	アウトバウンド (インターネットへの通信)	有効 (すべて)
	ソースMACフィルタ	無効

表 5: ルーターの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能	デフォルトの設定	
WiFi	WiFi通信	有効
	SSID名	ルーターのラベルを参照
	セキュリティ	WPA2-PSK (AES)
	ブロードキャストSSID	有効
	転送速度	自動 ²
	国/地域	国/地域により異なる
	RFチャンネル	2.4 GHzフロントおよびバックホール: 自動 5 GHzフロントホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 48 ・ EU, KO, JP, INではCH 36 5 GHzバックホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 157 ・ EU, KO, JP, INではCH 108

² IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiルーターモデルRBR20の工場出荷時の設定

次の表に、ルーターの工場出荷時の初期設定を示します。

表 6: ルーターの工場出荷時の初期設定

機能	デフォルトの設定	
ルーターログイン	ユーザーログインURL	orbilogin.com
	ユーザー名 (大文字と小文字を区別)	admin
	ログインパスワード (大文字と小文字を区別)	password (初期セットアップ時に設定)

表 6: ルーターの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能		デフォルトの設定
インターネット接続	MACアドレス	デフォルトのハードウェアアドレスを使う
	WAN MTUサイズ	1500
	ポート速度	自動検知
ローカルネットワーク (LAN)	LAN IP	192. 168. 1. 1
	サブネットマスク	255. 255. 255. 0
	DHCPサーバー	有効
	DHCP範囲	192. 168. 1. 2~192. 168. 1. 254
	DHCP開始IPアドレス	192. 168. 1. 2
	DHCP終了IPアドレス	192. 168. 1. 254
	DMZ	無効
	タイムゾーン	国・地域により異なる
	タイムゾーンを夏時間に合わせて調整	無効
	SNMP	無効
ファイアウォール	インバウンド (インターネットからの通信)	無効 (ポート80のHTTPポートのトラフィックを除く)
	アウトバウンド (インターネットへの通信)	有効 (すべて)
	ソースMACフィルタ	無効

表6: ルーターの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能	デフォルトの設定	
WiFi	WiFi通信	有効
	SSID名	ルーターのラベルを参照
	セキュリティ	WPA2-PSK (AES)
	ブロードキャストSSID	有効
	転送速度	自動 ³
	国/地域	国/地域により異なる
	RFチャンネル	2.4 GHzフロントおよびバックホール: 自動 5 GHzフロントホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 48 ・ EU, KO, JP, INではCH 36 5 GHzバックホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 157 ・ EU, KO, JP, INではCH 108

³ IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

Orbiサテライトの工場出荷時の設定

サテライトを工場出荷時の設定に戻すことができます。ペーパークリップの先端などを使って、サテライト背面のリセットボタンを7秒間以上長押しします。サテライトがリセットされ、工場出荷時の設定に戻ります。

OrbiサテライトモデルRBS50の工場出荷時の設定

次の表に、サテライトの工場出荷時の初期設定を示します。

OrbiメッシュWiFiシステム

表 7: サテライトの工場出荷時の初期設定

機能		デフォルトの設定
ルーターログイン	ユーザーログインURL	orbilogin.com
	ユーザー名 (大文字と小文字を区別)	admin
	ログインパスワード (大文字と小文字を区別)	password (初期セットアップ時に設定)
インターネット接続	MACアドレス	デフォルトのハードウェアアドレスを使う
	WAN MTUサイズ	1500
	ポート速度	自動検知
ローカルネットワーク (LAN)	LAN IP	192.168.1.250
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	有効
	DHCP範囲	192.168.1.2~192.168.1.254
	DHCP開始IPアドレス	192.168.1.2
	DHCP終了IPアドレス	192.168.1.254
	DMZ	無効
	タイムゾーン	国・地域により異なる
	タイムゾーンを夏時間に合わせて調整	無効
	SNMP	無効
ファイアウォール	インバウンド (インターネットからの通信)	無効 (ポート80のHTTPポートのトラフィックを除く)
	アウトバウンド (インターネットへの通信)	有効 (すべて)
	ソースMACフィルタ	無効

表7: サテライトの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能		デフォルトの設定
WiFi	WiFi通信	有効
	SSID名	サテライトのラベルを参照
	セキュリティ	WPA2-PSK (AES)
	ブロードキャストSSID	有効
	転送速度	自動 ⁴
	国/地域	国/地域により異なる
	RFチャンネル	2.4 GHzフロントおよびバックホール: 自動 5 GHzフロントホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 48 ・ EU, KO, JP, INではCH 36 5 GHzバックホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 157 ・ EU, KO, JP, INではCH 108

⁴ IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiサテライトモデルRBS40の工場出荷時の設定

次の表に、サテライトの工場出荷時の初期設定を示します。

表8: サテライトの工場出荷時の初期設定

機能		デフォルトの設定
ルーターログイン	ユーザーログインURL	orbilogin.com
	ユーザー名 (大文字と小文字を区別)	admin
	ログインパスワード (大文字と小文字を区別)	password (初期セットアップ時に設定)

表 8: サテライトの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能		デフォルトの設定
インターネット接続	MACアドレス	デフォルトのハードウェアアドレスを使う
	WAN MTUサイズ	1500
	ポート速度	自動検知
ローカルネットワーク (LAN)	LAN IP	192. 168. 1. 250
	サブネットマスク	255. 255. 255. 0
	DHCPサーバー	有効
	DHCP範囲	192. 168. 1. 2~192. 168. 1. 254
	DHCP開始IPアドレス	192. 168. 1. 2
	DHCP終了IPアドレス	192. 168. 1. 254
	DMZ	無効
	タイムゾーン	国・地域により異なる
	タイムゾーンを夏時間に合わせて調整	無効
	SNMP	無効
ファイアウォール	インバウンド (インターネットからの通信)	無効 (ポート80のHTTPポートのトラフィックを除く)
	アウトバウンド (インターネットへの通信)	有効 (すべて)
	ソースMACフィルタ	無効

表 8: サテライトの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能		デフォルトの設定
WiFi	WiFi通信	有効
	SSID名	サテライトのラベルを参照
	セキュリティ	WPA2-PSK (AES)
	ブロードキャストSSID	有効
	転送速度	自動 ⁵
	国/地域	国/地域により異なる
	RFチャンネル	2.4 GHzフロントおよびバックホール: 自動 5 GHzフロントホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 48 ・ EU, KO, JP, INではCH 36 5 GHzバックホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 157 ・ EU, KO, JP, INではCH 108

⁵ IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiサテライトモデルRBS20の工場出荷時の設定

次の表に、サテライトの工場出荷時の初期設定を示します。

表 9: サテライトの工場出荷時の初期設定

機能		デフォルトの設定
ルーターログイン	ユーザーログインURL	orbilogin.com
	ユーザー名 (大文字と小文字を区別)	admin
	ログインパスワード (大文字と小文字を区別)	password (初期セットアップ時に設定)

表 9: サテライトの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能		デフォルトの設定
インターネット接続	MACアドレス	デフォルトのハードウェアアドレスを使う
	WAN MTUサイズ	1500
	ポート速度	自動検知
ローカルネットワーク (LAN)	LAN IP	192.168.1.250
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	有効
	DHCP範囲	192.168.1.2~192.168.1.254
	DHCP開始IPアドレス	192.168.1.2
	DHCP終了IPアドレス	192.168.1.254
	DMZ	無効
	タイムゾーン	国・地域により異なる
	タイムゾーンを夏時間に合わせて調整	無効
	SNMP	無効
ファイアウォール	インバウンド (インターネットからの通信)	無効 (ポート80のHTTPポートのトラフィックを除く)
	アウトバウンド (インターネットへの通信)	有効 (すべて)
	ソースMACフィルタ	無効

表 9: サテライトの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能	デフォルトの設定	
WiFi	WiFi通信	有効
	SSID名	サテライトのラベルを参照
	セキュリティ	WPA2-PSK (AES)
	ブロードキャストSSID	有効
	転送速度	自動 ⁶
	国/地域	国/地域により異なる
	RFチャンネル	2.4 GHzフロントおよびバックホール: 自動 5 GHzフロントホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 48 ・ EU, KO, JP, INではCH 36 5 GHzバックホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 157 ・ EU, KO, JP, INではCH 108

⁶ IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiウォールプラグサテライトモデルRBW30の工場出荷時の設定

次の表に、ウォールプラグサテライトの工場出荷時の初期設定を示します。

表 10: サテライトの工場出荷時の初期設定

機能	デフォルトの設定	
ルーターログイン	ユーザーログインURL	orbilogin.com
	ユーザー名 (大文字と小文字を区別)	admin
	ログインパスワード (大文字と小文字を区別)	password (初期セットアップ時に設定)

表 10: サテライトの工場出荷時の初期設定 (続き)

機能	デフォルトの設定	
ローカルネットワーク (LAN)	LAN IP	192.168.1.250
	サブネットマスク	255.255.255.0
	DHCPサーバー	無効
	DHCP範囲	192.168.1.2~192.168.1.254
	DHCP開始IPアドレス	192.168.1.2
	DHCP終了IPアドレス	192.168.1.254
	DMZ	無効
	タイムゾーン	国・地域により異なる
	タイムゾーンを夏時間に合わせて調整	無効
	SNMP	無効
WiFi	WiFi通信	無効
	SSID名	サテライトのラベルを参照
	セキュリティ	WPA2-PSK (AES)
	ブロードキャストSSID	有効
	転送速度	自動 ⁷
	国/地域	国/地域により異なる
	RFチャンネル	2.4 GHzフロントおよびバックホール: 自動 5 GHzフロントホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 48 ・ EUではCH 36 5 GHzバックホール: ・ NA, PR, AU, CA, TWではCH 157 ・ EUではCH 108

⁷ IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

Orbiルーターの技術仕様

次の表に、Orbiルーターの技術仕様を示します。

OrbiルーターモデルRBR50の技術仕様

次の表に、ルーターの技術仕様を示します。

表 11 : RBR50の仕様

機能	説明
電源アダプター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北アメリカ: 120V、60 Hz、入力 ・ UK、オーストラリア: 240V、50 Hz、入力 ・ ヨーロッパ: 230V、50 Hz、入力 ・ すべての地域 (出力): 12V、3.5A DC出力
サイズ	17.02 x 7.87 x 22.58 cm 170.3 x 78.9 x 225.8 mm
重量	890.5 g
動作保証温度	0~40 °C
動作保証湿度	最大90%、結露なきこと
認証	FCC Part 15 Class B VCCI Class B EN 55 022 (CISPR 22)、Class B C-Tick N10947
LAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WiFi	最大無線LAN信号速度はIEEE802.11標準に準拠。 ⁸
無線データ速度	2.4 GHz: 最大 400 Mbps 5 GHzフロントホール: 最大 866 Mbps 5 GHzバックホール: 最大 1733 Mbps
無線LAN規格	IEEE 802.11b/g/n 2.4 GHz-256 QAM対応 IEEE 802.11a/n/ac 5GHz-256 QAM対応
無線ネットワークごとの最大PC数	ノードごとに生成されるWiFiネットワークトラフィック量によって制限 (通常は50~70ノード) 2.4 GHz: 127 5 GHz (フロントホール): 127

表 11 : RBR50の仕様 (続き)

機能	説明
動作周波数範囲	2.4 GHz : ・ 2.412~2.462 GHz (US) ・ 2.412~2.472 GHz (日本) ・ 2.412~2.472 GHz (ヨーロッパ ETSI) 5 GHz : ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.745 GHz~5.825 GHz (US) ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.5 GHz~5.7 GHz (ヨーロッパ、日本) ・ 5.26 GHz~5.32 GHz (ヨーロッパ、日本、今後のファームウェアで対応)
802.11セキュリティ	WPA-PSK [TKIP], WPA2-PSK [AES]

⁸
IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiルーターモデルRBR40の技術仕様

次の表に、ルーターの技術仕様を示します。

表 12 : RBR40の仕様

機能	説明
電源アダプター	・ 北アメリカ: 120V、60 Hz、入力 ・ UK、オーストラリア: 240V、50 Hz、入力 ・ ヨーロッパ: 230V、50 Hz、入力 ・ すべての地域 (出力): 12V、2.5A DC出力
サイズ	16.26 x 7.87 x 20.32 cm 163 x 78 x 203 mm
重量	748 g
動作保証温度	0~40 °C
動作保証湿度	最大90%、結露なきこと

表 12: RBR40の仕様 (続き)

機能	説明
認証	FCC Part 15 Class B VCCI Class B EN 55 022 (CISPR 22)、Class B C-Tick N10947
LAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WiFi	最大無線LAN信号速度はIEEE802.11標準に準拠。 ⁹
無線データ速度	2.4 GHz: 最大400 Mbps 5 GHzフロントホール: 最大866 Mbps 5 GHzバックホール: 最大866 Mbps
無線LAN規格	IEEE 802.11b/g/n 2.4 GHz-256 QAM対応 IEEE 802.11 a/n/ac 5 GHz-256 QAM対応
無線ネットワークごとの最大PC数	ノードごとに生成されるWiFiネットワークトラフィック量によって制限 (通常は50~70ノード) 2.4 GHz: 127 5 GHz (フロントホール): 127
動作周波数範囲	2.4 GHz: ・ 2.412~2.462 GHz (US) ・ 2.412~2.472 GHz (日本) ・ 2.412~2.472 GHz (ヨーロッパ ETSI) 5 GHz: ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.745 GHz~5.825 GHz (US) ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.5 GHz~5.7 GHz (ヨーロッパ、日本) ・ 5.26 GHz~5.32 GHz (ヨーロッパ、日本、今後のファームウェアで対応)
802.11セキュリティ	WPA-PSK [TKIP], WPA2-PSK [AES]

⁹ IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiルーターモデルRBR20の技術仕様

次の表に、ルーターの技術仕様を示します。

表 13: ルーターの技術仕様

機能	説明
電源アダプター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北アメリカ: 120V、60 Hz、入力 ・ UK、オーストラリア: 240V、50 Hz、入力 ・ ヨーロッパ: 230V、50 Hz、入力 ・ すべての地域 (出力): 12V、1.5A DC出力
サイズ	16.26 x 7.87 x 20.32 cm 163 x 78 x 203 mm
重量	748 g
動作保証温度	0~40 °C
動作保証湿度	最大90%、結露なきこと
認証	FCC Part 15 Class B VCCI Class B EN 55 022 (CISPR 22)、Class B C-Tick N10947
LAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WiFi	最大無線LAN信号速度はIEEE802.11標準に準拠。 ¹⁰
無線データ速度	2.4 GHz: 最大400 Mbps 5 GHzフロントホール: 最大866 Mbps 5 GHzバックホール: 最大866 Mbps
無線LAN規格	IEEE 802.11b/g/n 2.4 GHz-256 QAM対応 IEEE 802.11 a/n/ac 5 GHz-256 QAM対応
無線ネットワークごとの最大PC数	ノードごとに生成されるWiFiネットワークトラフィック量によって制限 (通常は50~70ノード) 2.4 GHz: 127 5 GHz (フロントホール): 127

表 13: ルーターの技術仕様 (続き)

機能	説明
動作周波数範囲	2.4 GHz: <ul style="list-style-type: none"> ・ 2.412~2.462 GHz (US) ・ 2.412~2.472 GHz (日本) ・ 2.412~2.472 GHz (ヨーロッパ ETSI) 5 GHz: <ul style="list-style-type: none"> ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.745 GHz~5.825 GHz (US) ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.5 GHz~5.7 GHz (ヨーロッパ、日本) ・ 5.26 GHz~5.32 GHz (ヨーロッパ、日本、今後のファームウェアで対応)
802.11セキュリティ	WPA-PSK [TKIP], WPA2-PSK [AES]

10

IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

Orbiサテライトの技術仕様

次に、Orbiサテライトの技術仕様を示します。

OrbiサテライトモデルRBS50の技術仕様

次の表に、サテライトの技術仕様を示します。

表 14: RBS50の仕様

機能	説明
電源アダプター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北アメリカ: 120V、60 Hz、入力 ・ UK、オーストラリア: 240V、50 Hz、入力 ・ ヨーロッパ: 230V、50 Hz、入力 ・ すべての地域 (出力): 12V、3.5A DC出力
サイズ	17.02 x 7.87 x 22.58 cm 170.3 x 78.9 x 225.8 mm

OrbiメッシュWiFiシステム

表 14: RBS50の仕様 (続き)

機能	説明
重量	890.5 g (1基)
動作保証温度	0~40 °C
動作保証湿度	最大90%、結露なきこと
認証	FCC Part 15 Class B VCCI Class B EN 55 022 (CISPR 22)、Class B C-Tick N10947
LAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WiFi	最大無線LAN信号速度はIEEE802.11標準に準拠。 ¹¹
無線データ速度	2.4 GHz: 最大400 Mbps 5 GHzフロントホール: 最大866 Mbps 5 GHzバックホール: 最大1733 Mbps
無線LAN規格	IEEE 802.11b/g/n 2.4 GHz-256 QAM対応 IEEE 802.11 a/n/ac 5 GHz-256 QAM
無線ネットワークごとの最大PC数	デバイスごとに生成される無線LANネットワークトラフィック量によって制限 (通常は10~15デバイス) 2.4 GHz: 127 5 GHz (フロントホール): 127
動作周波数範囲	2.4 GHz: ・ 2.412~2.462 GHz (US) ・ 2.412~2.472 GHz (日本) ・ 2.412~2.472 GHz (ヨーロッパ ETSI) 5 GHz: ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.745 GHz~5.825 GHz (US) ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.5 GHz~5.7 GHz (ヨーロッパ、日本) ・ 5.26 GHz~5.32 GHz (ヨーロッパ、日本、今後のファームウェアで対応)
802.11セキュリティ	WPA-PSK [TKIP], WPA2-PSK [AES]

¹¹

IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiルーターモデルRBS40の技術仕様

次の表に、サテライトの技術仕様を示します。

表 15 : RBS40の仕様

機能	説明
電源アダプター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北アメリカ: 120V、60 Hz、入力 ・ UK、オーストラリア: 240V、50 Hz、入力 ・ ヨーロッパ: 230V、50 Hz、入力 ・ すべての地域 (出力): 12V、2.5A DC出力
サイズ	16.26 x 7.87 x 20.32 cm 163 x 78 x 203 mm
重量	748 g
動作保証温度	0~40 °C
動作保証湿度	最大90%、結露なきこと
認証	FCC Part 15 Class B VCCI Class B EN 55 022 (CISPR 22)、Class B C-Tick N10947
LAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WiFi	最大無線LAN信号速度はIEEE802.11標準に準拠。 ¹²
無線データ速度	2.4 GHz: 最大400 Mbps 5 GHzフロントホール: 最大866 Mbps 5 GHzバックホール: 最大866 Mbps
無線LAN規格	IEEE 802.11b/g/n 2.4 GHz-256 QAM対応 IEEE 802.11 a/n/ac 5 GHz-256 QAM対応
無線ネットワークごとの最大PC数	デバイスごとに生成される無線LANネットワークトラフィック量によって制限 (通常は10~15デバイス) 2.4 GHz: 127 5 GHz (フロントホール): 127

表 15: RBS40の仕様 (続き)

機能	説明
動作周波数範囲	2.4 GHz: <ul style="list-style-type: none"> ・ 2.412~2.462 GHz (US) ・ 2.412~2.472 GHz (ヨーロッパ ETSI) 5 GHz: <ul style="list-style-type: none"> ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.745 GHz~5.825 GHz (US) ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.5 GHz~5.7 GHz (ヨーロッパ) ・ 5.26 GHz~5.32 GHz (ヨーロッパ)
802.11セキュリティ	WPA-PSK [TKIP], WPA2-PSK [AES]

12

IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiルーターモデルRBS20の技術仕様

次の表に、サテライトの技術仕様を示します。

表 16: サテライトの技術仕様

機能	説明
データとルーティングプロトコル	TCP/IP, DHCP, ダイナミックDNS, UPnP
電源アダプター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北アメリカ: 120V、60 Hz、入力 ・ UK、オーストラリア: 240V、50 Hz、入力 ・ ヨーロッパ: 230V、50 Hz、入力 ・ すべての地域 (出力): 12V、1.5A DC出力
サイズ	16.26 x 7.87 x 20.32 cm 163 x 78 x 203 mm
重量	748 g
動作保証温度	0~40 °C
動作保証湿度	最大90%、結露なきこと

表 16: サテライトの技術仕様 (続き)

機能	説明
認証	FCC Part 15 Class B VCCI Class B EN 55 022 (CISPR 22)、Class B C-Tick N10947
LAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WAN	10BASE-Tまたは100BASE-TXまたは1000BASE-T、RJ-45
WiFi	最大無線LAN信号速度はIEEE802.11標準に準拠。 ¹³
無線データ速度	2.4 GHz: 最大400 Mbps 5 GHzフロントホール: 最大866 Mbps 5 GHzバックホール: 最大866 Mbps
無線LAN規格	IEEE 802.11b/g/n 2.4 GHz-256 QAM対応 IEEE 802.11 a/n/ac 5 GHz-256 QAM対応
無線ネットワークごとの最大PC数	デバイスごとに生成される無線LANネットワークトラフィック量によって制限 (通常は10~15デバイス) 2.4 GHz: 127 5 GHz (フロントホール): 127
動作周波数範囲	2.4 GHz: ・ 2.412~2.462 GHz (US) ・ 2.412~2.472 GHz (ヨーロッパ ETSI) 5 GHz: ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.745 GHz~5.825 GHz (US) ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.5 GHz~5.7 GHz (ヨーロッパ) ・ 5.26 GHz~5.32 GHz (ヨーロッパ)
802.11セキュリティ	WPA-PSK [TKIP], WPA2-PSK [AES]

¹³

IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。

OrbiウォールプラグサテライトモデルRBW30の技術仕様

次の表に、サテライトの技術仕様を示します。

表 17: RBW30の仕様

機能	説明
データとルーティングプロトコル	TCP/IP、DHCPサーバー、およびクライアント
消費電力	100~240V、50/60 Hz、最大0.2A
サイズ	83.8 × 76.2 × 161 mm
重量	306 g
動作保証温度	0~40 °C
動作保証湿度	最大90%、結露なきこと
認証	FCC Part 15 Class B EN55032 (CISPR 32), Class B C-Tick N10947
WiFi	最大無線LAN信号速度はIEEE802.11標準に準拠。 ¹⁴
無線データ速度	2.4 GHz: 最大400 Mbps 5 GHzフロントホール: 最大866 Mbps 5 GHzバックホール: 最大866 Mbps
無線LAN規格	IEEE 802.11b/g/n 2.4 GHz-256 QAM対応 IEEE 802.11a/n/ac 5GHz-256 QAM対応
無線ネットワークごとの最大PC数	ノードごとに生成されるWiFiネットワークトラフィック量によって制限 (通常は50~70ノード) 2.4 GHz: 127 5 GHz (フロントホール): 127
動作周波数範囲	2.4 GHz: ・ 2.412~2.462 GHz (US) ・ 2.412~2.472 GHz (ヨーロッパ ETSI) 5 GHz: ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.745 GHz~5.825 GHz (US) ・ 5.18 GHz~5.24 GHzおよび5.5 GHz~5.7 GHz (ヨーロッパ) ・ 5.26 GHz~5.32 GHz (ヨーロッパ)
802.11セキュリティ	WPA-PSK [TKIP], WPA2-PSK [AES]

¹⁴

IEEE標準802.11規格に基づく最大ワイヤレス信号速度です。実際の処理能力は異なります。ネットワーク状況、作業環境(ネットワークトラフィック量、建材、構造、ネットワークオーバーヘッドなど)が実際のデータ処理速度に影響します。